五所川原市埋蔵文化財調査報告書 第29集

五所川原市遺跡詳細分布調査報告書

2008年2月

五所川原市教育委員会

序

五所川原市は平成 17 年 3 月 28 日の市町村合併により、旧五所川原市・旧金木町・旧市浦村の 3 市町村が合併して発足しています。五所川原市教育委員会では、合併後の埋蔵文化財の保護の取り組みやさまざまな開発事業との調整を図るため、遺跡の所在地や範囲を正確に示した遺跡地図や内容を精査した遺跡台帳を整備していく必要性が出てきました。

そこで、当教育委員会では国庫補助及び県費補助を受けて、市内の遺跡詳細分布調査を実施し、詳細な遺跡台帳の整備を図ってきました。

本報告書は平成 17 ～ 19 年度にかけて実施した市内遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものであり、現時点で市内すべての遺跡情報が網羅されています。埋蔵文化財の保護に役立てば幸いに存じます。

最後に、御指導、御協力を賜りました関係各位の皆様に対して、心より感謝申し上げます。

平成 20 年 2 月

五所川原市教育委員会
教育長　木下　巽

例　言

1．本書は国庫補助金及び県費補助金を受けて、平成 17 年度～ 19 年度にかけて実施した市内遺跡発掘調査事業における市内遺跡分布調査の成果をまとめた報告書である。

2．平成 17 年 3 月 28 日、五所川原市と金木町と市浦村が合併し、新たに五所川原市として市制施行を開始している。そして、合併後の平成 17 年度から現在に至るまで、埋蔵文化財の担当課は金木支所の生涯学習課文化財保護係および市浦支所の十三湊発掘調査室の両方にあり、生涯学習課文化財保護係が旧五所川原市と旧金木町、十三湊発掘調査室が旧市浦村の区域を所管している状況にある。なお、本文及び表中の「五所川原地区」は旧五所川原市、「金木地区」は旧金木町、「市浦地区」は旧市浦村の区域を示している。

3．第２～４章に記載された遺跡説明の項目と内容は下記のとおりである。
〔遺跡番号〕青森県遺跡台帳の登録番号
〔遺跡名〕青森県遺跡台帳に記載された遺跡名
〔遺跡名ふりがな〕上記のふりがな
〔種別〕遺跡の性格・種類別
〔主な時代〕表採資料や発掘調査成果から明らかとなった年代。
〔所在地〕遺跡の主な住所
〔北緯〕・〔東経〕：世界測地系による座標の位置を示した。
〔遺跡概要〕○立地・範囲　○現況等　○確認・表採遺物　○その他　を記載している。
〔発掘履歴〕過去に行われた発掘調査の履歴
〔文　献〕遺跡に係る主な参考文献　〔備　考〕遺跡の発見年や分布調査等の履歴など。

4．本報告書に掲載した地図及び添付した付図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図及び数値地図 25000（地図画像）を複製したものである。
（承認番号　平 19 総複、第 633 号）

5．本書の編集は五所川原市教育委員会生涯学習課十三湊発掘調査室の榊原滋高が行った。執筆分担は下記のとおりである。
第１・２・４～６章　榊原滋高、 第３章　藤原弘明

6．調査及び報告書刊行にあたっては、次の諸氏にご指導・ご協力を賜った。深く感謝の意を表する次第である。（敬称略・順不同）
成田正行・工藤慶子・竹内正光・三和平作

目　　次

序
例　言
目　次
第１章　事業の概要……1
　１．調査の目的
　２．調査の経過
　３．調査方法と内容
　４．調査体制
　５.五所川原市内の遺跡一覧

第２章　五所川原市・市浦地区の遺跡……7

第３章　五所川原市・金木地区の遺跡……42

第４章　五所川原市・五所川原地区の遺跡……77

第５章　福島城跡の分布調査成果報告……157

第６章　遺跡（埋蔵文化財）の照会について……161

報告書抄録

図表・写真目次

挿図目次

第 1 図　磯松砂山遺跡の位置（38001）・・・・ 7
第 2 図　古館遺跡の位置（38002）・・・・・・・ 7
第 3 図　唐川（1）遺跡の位置（38003）・・・・ 8
第 4 図　ナガレ山遺跡の位置（38004）・・・・ 9
第 5 図　磯松遺跡の位置（38005）・・・・・・・10
第 6 図　笹畑遺跡の位置（38007）・・・・・・・11
第 7 図　二ツ沼遺跡の位置（38008）・・・・・・12
第 8 図　山王坊遺跡の位置（38009）・・・・・・13
第 9 図　唐川城跡の位置（38010）・・・・・・・14
第 10 図　岩井大沼遺跡の位置（38011）・・・・15
第 11 図　赤坂遺跡の位置（38012）・・・・・・16
第 12 図　露草遺跡の位置（38013）・・・・・・17
第 13 図　オセドウ貝塚の位置（38014）・・・・18
第 14 図　実取（1）遺跡の位置（38015）・・・20
第 15 図　福島城跡の位置（38016）・・・・・・20
第 16 図　蛇石遺跡の位置（38017）・・・・・・22
第 17 図　中島遺跡の位置（38018）・・・・・・22
第 18 図　五月女萢遺跡の位置（38021）・・・・25
第 19 図　十三湊遺跡の位置（38022）・・・・・28
第 20 図　唐川（3）遺跡の位置（38025）・・・30
第 21 図　唐川（2）遺跡の位置（38026）・・・30
第 22 図　実取（2）遺跡の位置（38027）・・・31
第 23 図　千苅（1）遺跡の位置（35001）・・・42
第 24 図　相野山（1）遺跡の位置（35002）・・43
第 25 図　坂本（1）遺跡の位置（35003）・・・44
第 26 図　阿弥陀時遺跡の位置（35004）・・・・45
第 27 図　嘉瀬（1）遺跡の位置（35005）・・・46
第 28 図　鎧石（1）遺跡の位置（35006）・・・47
第 29 図　芦野（1）遺跡の位置（35007）・・・47
第 30 図　芦野（2）遺跡の位置（35008）・・・48
第 31 図　芦野旧競馬遺跡の位置（35009）・・・49
第 32 図　妻の神（1）遺跡の位置（35010）・・50
第 33 図　妻の神（2）遺跡の位置（35011）・・51
第 34 図　若松町遺跡の位置（35012）・・・・・52
第 35 図　さいの川原遺跡の位置（35013）・・・52
第 36 図　湯の川遺跡の位置（35014）・・・・・53
第 37 図　宇田野遺跡の位置（35015）・・・・・53
第 38 図　川倉小学校遺跡の位置（35016）・・・54
第 39 図　雲雀野（2）遺跡の位置（35017）・・54
第 40 図　三ノ沢溜池遺跡の位置（35018）・・・55
第 41 図　芦野運動場遺跡の位置（35019）・・・55
第 42 図　藤枝溜池南岸遺跡の位置（35020）・・56
第 43 図　藤枝遺跡の位置（35021）・・・・・・56
第 44 図　神明町遺跡の位置（35022）・・・・・57
第 45 図　金木遺跡の位置（35023）・・・・・・57
第 46 図　へび沢遺跡の位置（35024）・・・・・58
第 47 図　林下遺跡の位置（35025）・・・・・・58
第 48 図　岩見町遺跡の位置（35026）・・・・・59
第 49 図　大東ヶ丘遺跡の位置（35027）・・・・59
第 50 図　沢部遺跡の位置（35028）・・・・・・60
第 51 図　坂本（2）遺跡の位置（35029）・・・60
第 52 図　居升村遺跡の位置（35030）・・・・・61
第 53 図　金木館遺跡の位置（35031）・・・・・61
第 54 図　嘉瀬館遺跡の位置（35032）・・・・・62
第 55 図　萩元遺跡の位置（35033）・・・・・・62
第 56 図　鎧石（2）遺跡の位置（35034）・・・63
第 57 図　雲雀野（1）遺跡の位置（35035）・・63
第 58 図　嘉瀬（2）遺跡の位置（35036）・・・64
第 59 図　雲雀野（3）遺跡の位置（35037）・・64
第 60 図　雲雀野（4）遺跡の位置（35038）・・65
第 61 図　鎧石（3）遺跡の位置（35039）・・・65
第 62 図　鎧石（4）遺跡の位置（35040）・・・66
第 63 図　千苅（2）遺跡の位置（35041）・・・66
第 64 図　大倉岳館跡の位置（35042）・・・・・67
第 65 図　喜良市蝦夷館遺跡の位置（35043）・・67
第 66 図　相野山（2）遺跡の位置（35044）・・68
第 67 図　川倉遺跡の位置（35045）・・・・・・68
第 68 図　中新山製鉄遺跡の位置（35046）・・・69
第 69 図　長者森山遺跡の位置（05001）・・・・77
第 70 図　観音林遺跡の位置（05002）・・・・・78
第 71 図　原子溜池（1）遺跡の位置（05003）・79
第 72 図　原子溜池（2）遺跡の位置（05004）・79
第 73 図　原子溜池（3）遺跡の位置（05005）・80
第 74 図　原子城遺跡の位置（05006）・・・・・80
第 75 図　野里遺跡の位置（05007）・・・・・・81
第 76 図　桜ヶ峰（1）遺跡の位置（05009）・・83
第 77 図　山道溜池遺跡の位置（05010）・・・・84
第 78 図　前田野目窯跡群の位置　・・・・・・・86
第 79 図　紅葉（1）遺跡の位置（05012）・・・87
第 80 図　持子沢窯跡群の位置・・・・・・・・・93

第 81 図　境山遺跡の位置（05025）・・・・・・ 96
第 82 図　鴻の巣遺跡の位置（05026）・・・・・ 97
第 83 図　沢田遺跡の位置（05027）・・・・・・ 97
第 84 図　長富遺跡の位置（05028）・・・・・・ 98
第 85 図　金山大溜池遺跡の位置（05029）・・・ 98
第 86 図　福泉遺跡の位置（05030）・・・・・・ 99
第 87 図　藤巻遺跡の位置（05031）・・・・・・ 99
第 88 図　十三盛遺跡の位置（05032）・・・・ 100
第 89 図　興隆（1）遺跡の位置（05033）・・ 101
第 90 図　尾花原（1）遺跡の位置（05034）・ 101
第 91 図　不動遺跡の位置（05035）・・・・・ 102
第 92 図　味噌ヶ沢遺跡の位置（05036）・・・ 102
第 93 図　飯詰城遺跡の位置（05037）・・・・ 103
第 94 図　狐野（1）遺跡の位置（05038）・・ 104
第 95 図　原子溜池（4）遺跡の位置（05039）・ 104
第 96 図　原子溜池（5）遺跡の位置（05040）・ 105
第 97 図　金山館遺跡の位置（05041）・・・・ 106
第 98 図　神山館遺跡の位置（05042）・・・・ 107
第 99 図　石田遺跡の位置（05044）・・・・・ 108
第 100 図　鶉野遺跡の位置（05045）・・・・ 109
第 101 図　七ツ館遺跡の位置（05046）・・・ 110
第 102 図　荒神林遺跡の位置（05047）・・・ 110
第 103 図　興隆（2）遺跡の位置（05048）・・ 111
第 104 図　興隆（3）遺跡の位置（05049）・・ 111
第 105 図　狐野（2）遺跡の位置（05050）・・ 112
第 106 図　五本松遺跡の位置（05052）・・・ 113
第 107 図　田子ノ浦遺跡の位置（05053）・・ 113
第 108 図　色吉遺跡の位置（05054）・・・・ 114
第 109 図　藪里遺跡の位置（05055）・・・・ 114
第 110 図　中子遺跡の位置（05056）・・・・ 115
第 111 図　稲葉遺跡の位置（05057）・・・・ 115
第 112 図　平野遺跡の位置（05058）・・・・ 116
第 113 図　七和地区の遺跡位置・・・・・・・ 118
第 114 図　松島遺跡の位置（05081）・・・・ 131
第 115 図　泉田遺跡の位置（05082）・・・・ 132
第 116 図　松代遺跡の位置（05083）・・・・ 132
第 117 図　宮井遺跡の位置（05084）・・・・ 133
第 118 図　尾花原（2）遺跡の位置（05085）・ 133
第 119 図　尾花原（3）遺跡の位置（05086）・ 134
第 120 図　尾花原（4）遺跡の位置（05087）・ 134
第 121 図　広富遺跡の位置（05088）・・・・ 135
第 122 図　影日沢遺跡の位置（05089）・・・ 135
第 123 図　紅葉（2）遺跡の位置（05102）・・ 143
第 124 図　福島城跡の分布調査成果図・・・・ 160
第 125 図　埋蔵文化財に関する手続きの流れ　162

図版目次

図版 1　福島城跡表採資料　・・・・・・・・・・ 38
図版 2　岩井大沼遺跡表採資料　・・・・・・・・ 38
図版 3　岩井大沼遺跡表採資料　・・・・・・・・ 39
図版 4　笹畑遺跡表採資料　・・・・・・・・・・ 40
図版 5　十三湊遺跡・十三湖周辺
　　・中島遺跡表採資料　・・・・・・・・・ 41
図版 6　金木地区の遺跡表採資料　・・・・・・・ 76
図版 7　五所川原地区の遺跡表採資料 1　・・・ 155
図版 8　五所川原地区の遺跡表採資料 2　・・・ 156

表目次

第 1 表　五所川原市内の遺跡一覧表・・・・・　4-6

写真目次

写真 1　市浦地区遺跡分布調査写真（1）・・・・ 33
写真 2　市浦地区遺跡分布調査写真（2）・・・・ 34
写真 3　市浦地区遺跡分布調査写真（3）・・・・ 35
写真 4　市浦地区遺跡分布調査写真（4）・・・・ 36
写真 5　市浦地区遺跡分布調査写真（5）・・・・ 37
写真 6　金木地区遺跡分布調査写真（1）・・・・ 70
写真 7　金木地区遺跡分布調査写真（2）・・・・ 71
写真 8　金木地区遺跡分布調査写真（3）・・・・ 72
写真 9　金木地区遺跡分布調査写真（4）・・・・ 73
写真 10　金木地区遺跡分布調査写真（5）・・・ 74
写真 11　金木地区遺跡分布調査写真（6）・・・ 75
写真 12　五所川原地区遺跡分布調査写真（1）・ 145
写真 13　五所川原地区遺跡分布調査写真（2）・ 146
写真 14　五所川原地区遺跡分布調査写真（3）・ 147
写真 15　五所川原地区遺跡分布調査写真（4）・ 148
写真 16　五所川原地区遺跡分布調査写真（5）・ 149
写真 17　五所川原地区遺跡分布調査写真（6）・ 150
写真 18　五所川原地区遺跡分布調査写真（7）・ 151
写真 19　五所川原地区遺跡分布調査写真（8）・ 152
写真 20　五所川原地区遺跡分布調査写真（9）・ 153
写真 21　五所川原地区遺跡分布調査写真（10）・154

第１章　事業の概要

１．調査の目的

五所川原市は平成 17 年３月の市町村合併により、五所川原市・金木町・市浦村の３市町村が合併した。新五所川原市として市制施行を開始し、新たな行政組織としての体制整備が進められている。特に文化財行政の面で合併後の埋蔵文化財の保護の取り組みやさまざまな開発事業との調整を図るため、遺跡の所在地や範囲を正確に示した遺跡地図の作成や内容を精査した遺跡台帳を整備していく必要性に迫られている。

平成 10 年（1998）３月に刊行された『青森県遺跡地図』には、旧市浦村で 26 遺跡（うち欠番５ヶ）、旧金木町で 41 遺跡、旧五所川原市で 91 遺跡が登録されている。そして、その後も少しずつ遺跡が発見されており、未発見の遺跡も少なからず存在するものと予想される。また、市町村の財政難や社会不況もあって、開発行為は減少傾向にあるとはいえ、社会問題化している遺跡保護と開発側との調整問題は今後も続くと思われる。

このような状況下において、埋蔵文化財の保護と活用を図るため、また、遺跡保護と開発側との迅速な調整を図るための基礎資料として、遺跡台帳の整理充実が急がれている。

２．調査の経過

このことから、五所川原市教育委員会では平成 17 ～ 19 年度に国庫補助及び県費補助を受けて、市内の遺跡詳細分布調査を行うことに決定した。

調査の方針としては、市域全体を対象地域としたため、概ね合併前の３市町村単位で捉えて、３ヶ年計画で事業を進めることとした。そして、最終年の平成 19 年度には遺跡台帳を整理した報告書を刊行することとした。

平成 17 年度は市浦地区の福島城跡を中心に分布調査を行った。福島城跡が所在する十三湖周辺は国史跡となった中世港湾都市・十三湊遺跡のほか、十三湊を支配した安藤氏関連の中世遺跡が多数存在している。その中でも学術的価値が高く、約 65 万㎡の広大な遺跡範囲をもつ福島城跡の城館構造を把握するため、分布調査を実施することとした。また、平成 17 年度から５ヶ年計画で青森県教育委員会による十三湊関連遺跡発掘調査事業として福島城跡の発掘調査が始まっており、今後の調査方針を決める上でも、まず地表面にみえる城郭遺構の詳細な把握が必要であったためである。分布調査は雪が本格的に降る前の平成 17 年 12 月５日～ 12 月９日にかけて行われ、地形測量図に土塁や堀などの城郭遺構や井戸跡や竪穴住居跡とみられる凹地を記録していった。これまで、漠然と福島城跡が捉えられてきたが、今回の踏査による城郭遺構の把握によって、福島城跡の縄張りや内部に重複する古代の竪穴住居跡等の遺構の所在がはっきり捉えられるまでになった。

なお、詳細については、「第５章　福島城跡の分布調査」を参照いただきたい。

平成 18 年度には市浦地区・金木地区に所在する遺跡の所在地確認・写真撮影や表採遺物の実測・写真撮影を行い、遺跡台帳整理を行った。

平成 19 年度は五所川原地区に所在する遺跡の所在地確認・写真撮影や表採遺物の実測・写真撮影を行い、遺跡台帳整理を行った。五所川原地区では特に前田野目・持子沢の丘陵地帯に所在する須恵器窯跡群の確認調査を重点的に行った。そして、３地区の遺跡台帳を整理した報告書を刊行した。

３．調査方法と内容

①周知の遺跡周辺を踏査し、遺跡の現況、遺物散布の把握、所在地の確認作業、写真撮影等を行い、遺跡台帳の修正・整備を図る。

②遺跡の所在を地図上（25000 分の 1）に記す。

③遺跡の概要を知るため、過去の調査履歴等、文献資料の把握に努める。

④表採遺物の資料化（実測・写真撮影）を行う。

４．調査体制

＜平成 17 年度＞

教育長　　高松隆三

教育部長　葛西　皓

（生涯学習課）課長　中村　健

課長補佐　盛　重人

文化財保護係主任　藤原弘明・小笠原誠

（十三湊発掘調査室）

室長　浜田和幸

主査　近藤昌浩・榊原滋高

主事　長利豪美

＜平成 18 年度＞

教育長　　高松隆三

教育部長　葛西　皓

（生涯学習課）課長　中村　健

課長補佐　荒谷初紀

文化財保護係主任　藤原弘明

主査　山中潤哉

（十三湊発掘調査室）

室長　浜田和幸

主査　近藤昌浩・榊原滋高

主事　長利豪美

＜平成 19 年度＞

教育長　　木下　巽

教育部長　木村一善

（生涯学習課）　課長　前田　晃

課長補佐文化財保護係長事務取扱　荒谷初紀

文化財保護係副主幹　伊藤隆慈

（十三湊発掘調査室）

室長　古川　徹

主査　近藤昌浩・榊原滋高

主事　長利豪美

５．五所川原市内の遺跡一覧

第１表参照のこと。

第１表　五所川原市内の遺跡一覧表

番 号	遺跡名	ﾌﾘｶﾞﾅ	遺跡番号	所在地	旧市町村名
1	磯松砂山遺跡	ｲｿﾏﾂｽﾅﾔﾏｲｾｷ	38001	磯松磯野 268 ― (13・92)	市浦村
2	古館遺跡	ﾌﾙﾀﾞﾃｲｾｷ	38002	磯松磯野 272、磯松苗代沢 1 ― (123 ～ 126・131 ～ 148)	市浦村
3	唐川 (1) 遺跡	ｶﾗｶﾜｶｯｺｲﾁｲｾｷ	38003	磯松唐皮 13 ― (1・63 ～ 76)	市浦村
4	ナガレ山遺跡	ﾅｶﾞﾚﾔﾏｲｾｷ	38004	相内桂川 350、458 ～ 460	市浦村
5	磯松遺跡	ｲｿﾏﾂｲｾｷ	38005	磯松磯野 268 ― (50・76)	市浦村
6	欠番（相内遺跡）	ｱｲｳﾁｲｾｷ	38006	相内 46、47、196	市浦村
7	笹畑遺跡	ｻｻﾊﾞﾀｲｾｷ	38007	相内岩井 81 ― (55・57・66・70・227 ～ 230・243・258・475)	市浦村
8	二ツ沼遺跡	ﾌﾀﾂﾇﾏｲｾｷ	38008	相内岩井 81 ― (400 ～ 402)、84 ― 1	市浦村
9	山王坊遺跡	ｻﾝﾉｳﾎﾞｳｲｾｷ	38009	相内岩井 1 ― (1・2)、6 ― (1・2)、61 ― (1 ～ 3) 、84 ― (22 ～ 24)、87-1	市浦村
10	唐川城跡	ｶﾗｶﾜｼﾞｮｳｱﾄ	38010	相内岩井　相内山国有林 557 林班ろ 2　小班	市浦村
11	岩井大沼遺跡	ｲﾜｲｵｵﾇﾏｲｾｷ	38011	相内岩井 81 ― (1・404)	市浦村
12	赤坂遺跡	ｱｶｻｶｲｾｷ	38012	相内赤坂 105 ― (1・4・13)	市浦村
13	露草遺跡	ﾂﾕｸｻｲｾｷ	38013	相内露草 83 ― (1・4・5)、131 ― 1	市浦村
14	オセドウ遺跡	ｵｾﾄﾞｳｲｾｷ	38014	相内露草 75、190 ― (1・3・4・6)、197 ― (11・13 ～ 15・18・19 ～ 31)	市浦村
15	実取 (1) 遺跡	ﾐﾄﾘｶｯｺｲﾁｲｾｷ	38015	相内実取 287 ― (202・205 ～ 208・212・215・258・259・262・267・268)	市浦村
16	福島城跡	ﾌｸｼﾏｼﾞｮｳｱﾄ	38016	外相内実取 287 ― 873（内郭部分）ほか多数	市浦村
17	蛇石遺跡	ﾍﾋﾞｲｼｲｾｷ	38017	相内実取 287 ― 1	市浦村
18	中島遺跡	ﾅｶｼﾞﾏｲｾｷ	38018	十三土佐 1 ― (80・81)	市浦村
19	欠番 （檀林寺遺跡）	ﾀﾞﾝﾘﾝｼﾞｲｾｷ	38019	十三通行道 103 ― (1・82・91・92・95130・132)、107 ― 1	市浦村
20	欠番 （湊迎寺遺跡）	ｿｳｺﾞｳｼﾞｲｾｷ	38020	十三古中道 151・154・155 ― 1	市浦村
21	五月女萢遺跡	ｿﾄﾒﾔﾁｲｾｷ	38021	相内 54、482、531、532、539、540、545、553、554	市浦村
22	十三湊遺跡	ﾄｻﾐﾅﾄｲｾｷ	38022	十三（琴湖岳・古中道・通行道・深津）	市浦村
23	欠番 （鉄砲台遺跡）	ﾃｯﾎﾟｳﾀﾞｲｲｾｷ	38023	十三通行道 103 ― (88・97・98・100 ～ 107)	市浦村
24	欠番 （五月女萢（2）遺跡）	ｿﾄﾒﾔﾁｶｯｺﾆｲｾｷ	38024	相内 482	市浦村
25	唐川 (3) 遺跡	ｶﾗｶﾜｶｯｺｻﾝｲｾｷ	38025	磯松磯野 272 ― (84 ～ 87・90 ～ 95・126 ～ 128・155 ～ 157)	市浦村
26	唐川 (2) 遺跡	ｶﾗｶﾜｶｯｺﾆｲｾｷ	38026	磯松唐皮 13 ― 22	市浦村
27	実取 (2) 遺跡	ﾐﾄﾘｶｯｺﾆｲｾｷ	38027	相内実取 423	市浦村
28	欠番 （琴湖岳（2）遺跡）	ｷﾝｺｶﾞｸｶｯｺﾆｲｾｷ	38028	十三琴湖岳 533-16	市浦村
29	千苅 (1) 遺跡	ｾﾝｶﾞﾘｶｯｺｲﾁｲｾｷ	35001	金木町喜良市千苅 53	金木町
30	相野山（1）遺跡	ｱｲﾉﾔﾏｶｯｺｲｾｷ	35002	金木町芦野 644､645	金木町
31	坂本 (1) 遺跡	ｻｶﾓﾄｶｯｺｲﾁｲｾｷ	35003	金木町喜良市坂本 56 ほか	金木町
32	阿弥陀寺遺跡	ｱﾐﾀﾞｼﾞｲｾｷ	35004	金木町喜良市相野山 190 ほか	金木町
33	嘉瀬 (1) 遺跡	ｶｾｶｯｺｲﾁｲｾｷ	35005	金木町嘉瀬上端山崎 115-1 ほか	金木町
34	鎧石（1）遺跡	ﾖﾛｲｼｲｾｷ	35006	金木町中柏木鎧石 52	金木町
35	芦野 (1) 遺跡	ｱｼﾉｶｯｺｲﾁｲﾁｲｾｷ	35007	金木町芦野 234	金木町
36	芦野 (2) 遺跡	ｱｼﾉｶｯｺﾆｲｾｷ	35008	金木町川倉七夕野 83	金木町
37	芦野旧競馬遺跡	ｱｼﾉｷｭｳｹｲﾊﾞｲｾｷ	35009	金木町芦野 559	金木町
38	妻の神 (1) 遺跡	ｻｲﾉｶﾐｶｯｺｲﾁｲｾｷ	35010	金木町芦野 200､840	金木町
39	妻の神 (2) 遺跡	ｻｲﾉｶﾐｶｯｺﾆｲｾｷ	35011	金木町芦野 555 ～ 559	金木町
40	若松町遺跡	ﾜｶﾏﾂﾁｮｳｲｾｷ	35012	金木町若松町 265	金木町
41	さいの川原遺跡	ｻｲﾉｶﾜﾗｲｾｷ	35013	金木町川倉七夕野 94	金木町
42	湯の川遺跡	ﾕﾉｶﾜｲｾｷ	35014	金木町川倉七夕野 84-1324	金木町
43	宇田野遺跡	ｳﾀﾉｲｾｷ	35015	金木町川倉宇田野 145-1､155-46	金木町
44	川倉小学校遺跡	ｶﾜｸﾗｼｮｳｶﾞｯｺｳｲｾｷ	35016	金木町川倉七夕野 84-66	金木町
45	雲雀野 (2) 遺跡	ﾋﾊﾞﾘﾉｶｯｺﾆｲｾｷ	35017	金木町嘉瀬雲雀野 64-66､74-1 ほか	金木町
46	三ノ沢溜池遺跡	ﾐﾉｻﾜﾀﾒｲｹｲｾｷ	35018	金木町中柏木不動野 46	金木町
47	芦野運動場遺跡	ｱｼﾉｳﾝﾄﾞｳｼﾞｮｳｲｾｷ	35019	金木町芦野 84-317	金木町
48	藤枝溜池南岸遺跡	ﾌｼﾞｴﾀﾞﾀﾒｲｹﾐﾅﾐｷﾞｼｲｾｷ	35020	金木町芦野 315 ～ 320	金木町
49	藤枝遺跡	ﾌｼﾞｴﾀﾞｲｾｷ	35021	金木町藤枝東田 90-（1・2）	金木町
50	神明町遺跡	ｼﾝﾒｲﾁｮｳｲｾｷ	35022	金木町芦野	金木町

51	金木遺跡	ｶﾅｷﾞｲｾｷ	35023	金木町芦野 200-102、103 ほか	金木町
52	へび沢遺跡	ﾍﾋﾞｻﾜｲｾｷ	35024	金木町芦野 200-101	金木町
53	林下遺跡	ﾊﾔｼｼﾀｲｾｷ	35025	金木町川倉林下 97-2	金木町
54	岩見町遺跡	ｲﾜﾐﾁｮｳｲｾｷ	35026	金木町喜良市坂本 304-（1・2）	金木町
55	大東ケ丘遺跡	ﾀﾞｲﾄｳｶﾞｵｶｲｾｷ	35027	金木町川倉七夕野 84-697	金木町
56	沢部遺跡	ｻﾜﾍﾞｲｾｷ	35028	金木町沢部（小田川土改区排水路）	金木町
57	坂本（2）遺跡	ｻｶﾓﾄｶｯｺﾆｲｾｷ	35029	金木町喜良市坂本 336	金木町
58	居升村遺跡	ｲﾏｽﾑﾗｲｾｷ	35030	金木町金木沢部（小田川土改区）	金木町
59	金木館遺跡	ｶﾅｷﾞﾀﾞﾃｲｾｷ	35031	金木町朝日山	金木町
60	嘉瀬館（館ッコ）遺跡	ｶｾﾀﾞﾃｶｯｺﾀﾃｯｺｲｾｷ	35032	金木町嘉瀬萩元	金木町
61	萩元遺跡	ﾊｷﾞﾓﾄｲｾｷ	35033	金木町嘉瀬萩元 181-1、170-177、307-321	金木町
62	鎧石（2）遺跡	ﾖﾛｲｼｶｯｺﾆｲｾｷ	35034	金木町中柏木鎧石 423	金木町
63	雲雀野（1）遺跡	ﾋﾊﾞﾘﾉｶｯｺｲﾁｲｾｷ	35035	金木町嘉瀬雲雀野 332-（1･2）、339-3 ほか	金木町
64	嘉瀬（2）遺跡	ｶｾｶｯｺﾆｲｾｷ	35036	金木町嘉瀬上端山崎 2-1 ほか	金木町
65	雲雀野（3）遺跡	ﾋﾊﾞﾘﾉｶｯｺｻﾝｲｾｷ	35037	金木町嘉瀬雲雀野 5-1 ほか	金木町
66	雲雀野（4）遺跡	ﾋﾊﾞﾘﾉｶｯｺﾖﾝｲｾｷ	35038	金木町嘉瀬雲雀野 667-277、276、53、54 ほか	金木町
67	鎧石（3）遺跡	ﾖﾛｲｼｶｯｺｻﾝｲｾｷ	35039	金木町中柏木鎧石 373-13 ほか	金木町
68	鎧石（4）遺跡	ﾖﾛｲｼｶｯｺﾖﾝｲｾｷ	35040	金木町中柏木金木町鎧石 184-（102･108･109･10･7･116･103）	金木町
69	千苅（2）遺跡	ｾﾝｶﾞﾘｶｯｺﾆｲｾｷ	35041	金木町喜良市千苅 29-10 ほか	金木町
70	大倉岳館跡	ｵｵｸﾗﾀﾞｹﾀﾃｱﾄ	35042	金木町金木山国有林 77 林班へ　ほか	金木町
71	喜良市蝦夷館遺跡	ｷﾗｲﾁｴｿﾞﾀﾞﾃｲｾｷ	35043	金木町喜良市喜良市山国有林 38 林班に 2 小班ほか	金木町
72	相野山（2）遺跡	ｱｲﾉﾔﾏｶｯｺﾆｲｾｷ	35044	金木町喜良市相野山 43-1、蔵助平 1-（1・4）	金木町
73	川倉遺跡	ｶﾜｸﾗｲｾｷ	35045	金木町川倉七夕野、川倉女坂	金木町
74	中新山製鉄遺跡	ﾅｶｼﾝﾔﾏｾｲﾃﾂｲｾｷ	35046	金木町川倉外ヶ沢	金木町
75	長者森山遺跡	ﾁｮｳｼﾞｬﾓﾘﾔﾏｲｾｷ	05001	大字松野木字花笠 93-2	五所川原市
76	観音林遺跡	ｶﾝﾉﾝﾊﾞﾔｼｲｾｷ	05002	大字松野木字花笠 81	五所川原市
77	原子溜池（1）遺跡	ﾊﾗｺﾀﾒｲｹｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05003	大字原子字山元 109	五所川原市
78	原子溜池（2）遺跡	ﾊﾗｺﾀﾒｲｹｶｯｺﾆｲｾｷ	05004	大字原子字山元 280-22	五所川原市
79	原子溜池（3）遺跡	ﾊﾗｺﾀﾒｲｹｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05005	大字原子字山元 280-（11・12・17）	五所川原市
80	原子城遺跡	ﾊﾗｺｼﾞｮｳｲｾｷ	05006	大字原子字山元 109 ほか	五所川原市
81	野里遺跡	ﾉｻﾞﾄｲｾｷ	05007	大字野里字牧ノ原 4-1 ほか 、字牧原	五所川原市
82	川崎遺跡	ｶﾜｻｷｲｾｷ	05008	大字前田野目字川崎 1-1、2	五所川原市
83	桜ケ峰（1）遺跡	ｻｸﾗｶﾞﾐﾈｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05009	大字前田野目字桜ケ峰 86-4、86-23 ほか	五所川原市
84	山道溜池遺跡	ﾔﾏﾐﾁﾀﾒｲｹｲｾｷ	05010	大字原子字山元 278	五所川原市
85	砂田Ｂ遺跡	ｽﾅﾀﾞﾋﾞｰｲｾｷ	05011	大字前田野目字砂田 51-67、57-（124・125）	五所川原市
86	紅葉（1）遺跡	ﾓﾐｼﾞｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05012	大字原子字紅葉 279-1、285-35	五所川原市
87	砂田Ｃ遺跡	ｽﾅﾀﾞｼｰｲｾｷ	05013	大字前田野目山　国有林 142 林班そ小班	五所川原市
88	砂田Ｄ遺跡	ｽﾅﾀﾞﾃﾞｨｰｲｾｷ	05014	大字前田野目字砂田 51-64	五所川原市
89	野脇遺跡	ﾉﾜｷｲｾｷ	05015	大字前田野目字野脇 93	五所川原市
90	砂田Ｅ遺跡	ｽﾅﾀﾞｲｰｲｾｷ	05016	大字前田野目字前田野目山 1-6	五所川原市
91	鞠ノ沢窯跡	ﾏﾘﾉｻﾜｶﾏｱﾄ	05017	大字前田野目字鞠ノ沢 48-9	五所川原市
92	持子沢館	ﾓｯｺｻﾞﾜﾀﾞﾃ	05018	大字持子沢字隠川 536-2、540-（1・2）	五所川原市
93	狼野長根遺跡	ｵｲﾉﾅｶﾞﾈｲｾｷ	05019	大字持子沢字隠川 629	五所川原市
94	隠川（1）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05020	大字持子沢字隠川 695-4 ほか	五所川原市
95	持子沢Ａ遺跡	ﾓｯｺｻﾞﾜｴｰｲｾｷ	05021	大字持子沢字隠川 693	五所川原市
96	持子沢Ｂ遺跡	ﾓｯｺｻﾞﾜﾋﾞｰｲｾｷ	05022	大字持子沢字隠川 692	五所川原市
97	持子沢Ｃ遺跡	ﾓｯｺｻﾞﾜｼｰｲｾｷ	05023	大字持子沢字隠川 629-33、696-97	五所川原市
98	持子沢Ｄ遺跡	ﾓｯｺｻﾞﾜﾃﾞｨｰｲｾｷ	05024	大字持子沢字隠川 693、695-（4・81）	五所川原市
99	境山遺跡	ｻｶｲﾔﾏｲｾｷ	05025	大字神山字境山 13	五所川原市
100	鴻の巣遺跡	ｺｳﾉｽｲｾｷ	05026	大字桜田字鴻の巣 153	五所川原市
101	沢田遺跡	ｻﾜﾀﾞｲｾｷ	05027	大字飯詰字沢田	五所川原市
102	長富遺跡	ﾅｶﾞﾄﾐｲｾｷ	05028	大字長富字鎧石	五所川原市
103	金山大溜池遺跡	ｶﾈﾔﾏｵｵﾀﾒｲｹｲｾｷ	05029	大字金山字千代鶴、字松ヶ枝	五所川原市
104	福泉遺跡	ﾌｸｲｽﾞﾐｲｾｷ	05030	大字飯詰字福泉 198	五所川原市
105	藤巻遺跡	ﾌｼﾞﾏｷｲｾｷ	05031	大字唐笠柳字藤巻 427-2	五所川原市
106	十三盛遺跡	ｼﾞｭｳｻﾝﾓﾘｲｾｷ	05032	大字長橋字広野 341-2	五所川原市
107	興隆（1）遺跡	ｺｳﾘｭｳｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05033	大字飯詰字沢田 85-85	五所川原市
108	尾花原（1）遺跡	ｵﾊﾞﾅﾊﾗｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05034	大字下岩崎字尾花原 34	五所川原市
109	不動遺跡	ﾌﾄﾞｳｲｾｷ	05035	大字飯詰字石田 326	五所川原市
110	味噌ケ沢遺跡	ﾐｿｶﾞｻﾜｲｾｷ	05036	大字影日沢	五所川原市
111	飯詰城遺跡	ｲｲｽﾞﾒｼﾞｮｳｲｾｷ	05037	大字飯詰字福泉 298 ほか	五所川原市
112	狐野（１）遺跡	ｷﾂﾈﾉｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05038	大字飯詰字狐野 169-14	五所川原市
113	原子溜池（4）遺跡	ﾊﾗｺﾀﾒｲｹｶｯｺﾖﾝｲｾｷ	05039	大字原子字山元 284-10 ほか	五所川原市
114	原子溜池（5）遺跡	ﾊﾗｺﾀﾒｲｹｶｯｺｺﾞｲｾｷ	05040	大字原子字紅葉 96 ほか	五所川原市

115	金山館遺跡	ｶﾈﾔﾏﾀﾞﾃｲｾｷ	05041	大字金山字千代鶴、字松ヶ枝	五所川原市
116	神山館遺跡	ｶﾐﾔﾏﾀﾞﾃｲｾｷ	05042	大字神山字鶉野 15-1 ほか	五所川原市
117	真言館遺跡	ｼﾝｺﾞﾝﾀﾞﾃｲｾｷ	05043	大字前田野目字桜ケ峰 86-30	五所川原市
118	石田遺跡	ｲｼﾀﾞｲｾｷ	05044	大字飯詰字石田 180-2、184 ほか	五所川原市
119	鶉野遺跡	ｳｽﾞﾗﾉｲｾｷ	05045	大字神山字鶉野 116-1、117-1、124 ほか	五所川原市
120	七ツ館遺跡	ﾅﾅﾂﾀﾞﾃｲｾｷ	05046	大字七ツ館字西流 78-2 ほか	五所川原市
121	荒神林遺跡	ｺｳｼﾞﾝﾊﾞﾔｼｲｾｷ	05047	大字下岩崎字尾花原 151-2 ほか	五所川原市
122	興隆（2）遺跡	ｺｳﾘｭｳｶｯｺﾆｲｾｷ	05048	大字飯詰字沢田 85	五所川原市
123	興隆（3）遺跡	ｺｳﾘｭｳｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05049	大字飯詰字沢田	五所川原市
124	狐野（2）遺跡	ｷﾂﾈﾉｶｯｺﾆｲｾｷ	05050	大字飯詰字狐野 107-3	五所川原市
125	犬走（1）遺跡	ｲﾇﾊﾞｼﾘｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05051	大字前田野目字犬走 55-138	五所川原市
126	五本松遺跡	ｺﾞﾎﾝﾏﾂｲｾｷ	05052	大字飯詰字影日沢 219-40	五所川原市
127	田子ノ浦遺跡	ﾀｺﾞﾉｳﾗｲｾｷ	05053	大字豊成字田子ノ浦 163	五所川原市
128	色吉遺跡	ｲﾛﾖｼｲｾｷ	05054	大字浅井字色吉 145-2	五所川原市
129	薮里遺跡	ﾔﾌﾞｻﾄｲｾｷ	05055	大字田川字薮里 112-（1･2）	五所川原市
130	中子遺跡	ﾁｭｳｼｲｾｷ	05056	大字松野木字中子 6-10	五所川原市
131	稲葉遺跡	ｲﾅﾊﾞｲｾｷ	05057	大字稲実字稲葉 83-1	五所川原市
132	平野遺跡	ﾋﾗﾉｲｾｷ	05058	大字梅田字平野 48-1	五所川原市
133	桜ケ峰（2）遺跡	ｻｸﾗｶﾞﾐﾈｶｯｺﾆｲｾｷ	05059	大字前田野目字桜ケ峰 86-9 ほか	五所川原市
134	桜ケ峰（3）遺跡	ｻｸﾗｶﾞﾐﾈｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05060	大字前田野目字桜ケ峰	五所川原市
135	犬走（2）遺跡	ｲﾇﾊﾞｼﾘｶｯｺﾆｲｾｷ	05061	大字持子沢字犬走	五所川原市
136	隠川（2）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺﾆｲｾｷ	05062	大字持子沢字隠川 622 ほか	五所川原市
137	隠川（3）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05063	大字持子沢字隠川 52 ほか	五所川原市
138	隠川（4）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺﾖﾝｲｾｷ	05064	大字持子沢字隠川 616 ほか	五所川原市
139	隠川（5）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺﾞｲｾｷ	05065	大字持子沢字隠川	五所川原市
140	隠川（6）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺﾛｸｲｾｷ	05066	大字持子沢字隠川	五所川原市
141	隠川（7）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺﾅﾅｲｾｷ	05067	大字持子沢字隠川	五所川原市
142	隠川（8）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺﾊﾁｲｾｷ	05068	大字持子沢字隠川	五所川原市
143	隠川（9）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺｷｭｳｲｾｷ	05069	大字持子沢字隠川	五所川原市
144	隠川（10）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺｼﾞｭｳｲｾｷ	05070	大字持子沢字隠川 629-18 ほか	五所川原市
145	隠川（11）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺｼﾞｭｳｲﾁｲｾｷ	05071	大字持子沢字隠川 355	五所川原市
146	隠川（12）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺｼﾞｭｳﾆｲｾｷ	05072	大字持子沢字隠川 622、627 ほか	五所川原市
147	隈無（1）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05073	大字羽野木沢字隈無 55	五所川原市
148	隈無（2）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺﾆｲｾｷ	05074	大字羽野木沢字隈無 109	五所川原市
149	隈無（3）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05075	大字羽野木沢字隈無	五所川原市
150	隈無（4）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺﾖﾝｲｾｷ	05076	大字羽野木沢字隈無 55-33 ほか	五所川原市
151	隈無（5）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺﾞｲｾｷ	05077	大字羽野木沢字隈無	五所川原市
152	隈無（6）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺﾛｸｲｾｷ	05078	大字羽野木沢字隈無 55-79	五所川原市
153	隈無（7）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺﾅﾅｲｾｷ	05079	大字羽野木沢字隈無 240-24	五所川原市
154	隈無（8）遺跡	ｸﾏﾅｼｶｯｺﾊﾁｲｾｷ	05080	大字羽野木沢字隈無 39-4 ほか	五所川原市
155	松島遺跡	ﾏﾂｼﾏｲｾｷ	05081	大字米田字松島 95 ほか	五所川原市
156	泉田遺跡	ｲｽﾞﾐﾀﾞｲｾｷ	05082	大字金山字泉田	五所川原市
157	松代遺跡	ﾏﾂｼﾛｲｾｷ	05083	大字俵元字松代	五所川原市
158	宮井遺跡	ﾐﾔｲｲｾｷ	05084	大字水野尾字宮井	五所川原市
159	尾花原（2）遺跡	ｵﾊﾞﾅﾊﾗｶｯｺﾆｲｾｷ	05085	大字下岩崎字尾花原 131-1 ほか	五所川原市
160	尾花原（3）遺跡	ｵﾊﾞﾅﾊﾗｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05086	大字下岩崎字尾花原 135-1 ほか	五所川原市
161	尾花原（4）遺跡	ｵﾊﾞﾅﾊﾗｶｯｺﾖﾝｲｾｷ	05087	大字下岩崎字尾花原 76-1 ほか	五所川原市
162	広富遺跡	ﾋﾛﾄﾐｲｾｷ	05088	大字福山字広富 24-3 外 、神山字野岸 、野里字野岸	五所川原市
163	影日沢遺跡	ｶｹﾞﾋｻﾞﾜｲｾｷ	05089	大字飯詰字影日沢	五所川原市
164	実吉遺跡	ﾐﾖｼｲｾｷ	05090	大字羽野木沢字実吉 636 ほか	五所川原市
165	犬走（3）遺跡	ｲﾇﾊﾞｼﾘｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05091	大字前田野目字犬走 55-63	五所川原市
166	隠川（13）遺跡	ｶｸﾚｶﾞﾜｶｯｺｼﾞｭｳｻﾝｲｾｷ	05092	大字持子沢字隠川 695-2	五所川原市
167	砂田Ｆ遺跡	ｽﾅﾀﾞｴﾌｲｾｷ	05093	大字前田野目字砂田 34	五所川原市
168	砂田Ｇ遺跡	ｽﾅﾀﾞｼﾞｰｲｾｷ	05094	大字前田野目字砂田 51-68、57-97	五所川原市
169	前田野目山（1）遺跡	ﾏｴﾀﾞﾉﾒﾔﾏｶｯｺｲﾁｲｾｷ	05095	大字前田野目字前田野目山 1-11	五所川原市
170	前田野目山（2）遺跡	ﾏｴﾀﾞﾉﾒﾔﾏｶｯｺﾆｲｾｷ	05096	大字前田野目字前田野目山 1-11	五所川原市
171	前田野目山（3）遺跡	ﾏｴﾀﾞﾉﾒﾔﾏｶｯｺｻﾝｲｾｷ	05097	大字前田野目字前田野目山 1-11	五所川原市
172	前田野目山（4）遺跡	ﾏｴﾀﾞﾉﾒﾔﾏｶｯｺﾖﾝｲｾｷ	05098	大字前田野目字前田野目山 1-2	五所川原市
173	前田野目山（5）遺跡	ﾏｴﾀﾞﾉﾒﾔﾏｶｯｺﾞｲｾｷ	05099	大字前田野目字前田野目山 1-10	五所川原市
174	前田野目山（6）遺跡	ﾏｴﾀﾞﾉﾒﾔﾏｶｯｺﾛｸｲｾｷ	05100	大字前田野目山　国有林 142 林班い２小班	五所川原市
175	広野遺跡	ﾋﾛﾉｲｾｷ	05101	大字高野字広野 93-1、96-1 ほか	五所川原市
176	紅葉（2）遺跡	ﾓﾐｼﾞｶｯｺﾆｲｾｷ	05102	大字原子字紅葉 138-1	五所川原市
177	砂田Ｈ遺跡	ｽﾅﾀﾞｴｲﾁｲｾｷ	05103	大字前田野目字砂田	五所川原市

第２章　五所川原市・市浦地区の遺跡

〔遺跡番号〕38001
〔遺　跡　名〕磯松砂山遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いそまつすなやまいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所　在　地〕磯松磯野
268 － (13・92)
〔北　　緯〕41 度 04 分 24 秒
〔東　　経〕140 度 19 分 40 秒

第１図　磯松砂山遺跡の位置(38001)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、日本海に面した磯松集落を望む標高 20 mほどの丘陵端部の砂丘上に立地する。周辺は海岸に直交する縦列砂丘が展開している。

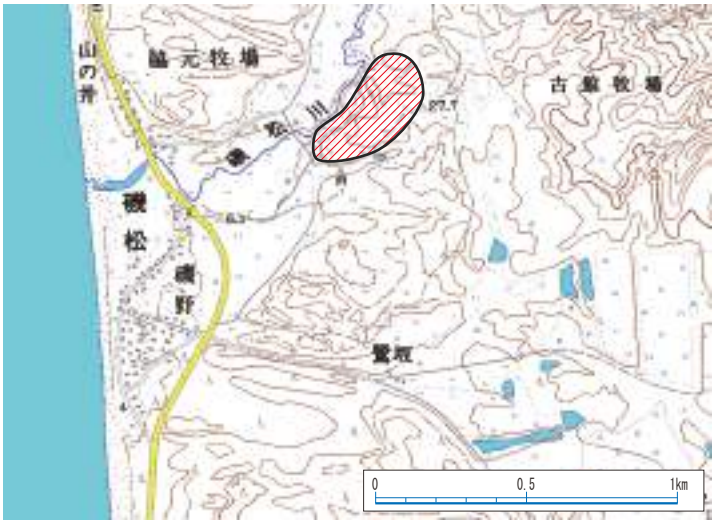
○現　況　等：国道 339 号線は遺跡のある砂丘砂を貫通し、切通し道となっている。
遺跡は砂丘下にあるものと思われ、その上に防風林が育っている。
地表面観察では遺跡の確認は困難である。

○確認・表採遺物：かつて国道 339 号線の拡幅工事中に発見され、石鏃が多く発見されたという。

〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕38002
〔遺　跡　名〕古館遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ふるだていせき
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安、中世

〔所　在　地〕磯松磯野 272、
磯松苗代沢 1 － (123
～ 126・131 ～ 148)
〔北　　緯〕41 度 04 分 50 秒
〔東　　経〕140 度 19 分 59 秒



第２図　古館遺跡の位置(38002)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、日本海を望む標高 20 ～ 30 mの丘陵先端部に位置する。磯松川が日本海へと流れ着く左岸の丘陵上にある。幅 7 ～ 10 mほどの堀が巡る館跡で、東西 100 m×南北 80 mほどの規模をもつ。

○現 況 等：丘陵東端部に沿って、遺跡内を林道が東西方向に伸びている。多くは畑地・草地で、一部に雑木林がある。また、遺跡西端には四阿や遺跡看板、駐車場が整備され、一部堀跡を破壊してしまっているが、遺跡の残存状況は極めて良好である。

○確認・表採遺物：平安時代の土師器（甕・坏・製塩土器）、土製支脚、須恵器等、中世の珠洲擂鉢が出土している。

○そ の 他：別名は「墳館（ふんだて）」ともいうが、恐らく古館（ふるだて）が訛ったものか、或いは近隣から発見された中世五輪塔の墓域に由来する名称と考えられる。

調査によって、主体が平安時代後期（10 世紀後半～ 11 世紀代）の環濠集落であったことが判明している。

〔発掘履歴〕平成 4 年 11 月に史跡公園整備に伴って、佐藤智雄氏を調査担当者に市浦村教育委員会が行っている。

〔文　　献〕青森県教育委員会　1983『青森県の中世城館』

佐藤智雄　1993「十三湊をめぐる遺跡」『遺跡にさぐる北日本―中世都市十三湊と安藤氏―』’93 市浦シンポジウム

〔遺跡番号〕38003

〔遺 跡 名〕唐川（1）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕からかわかっこいちいせき

〔種　　別〕集落跡

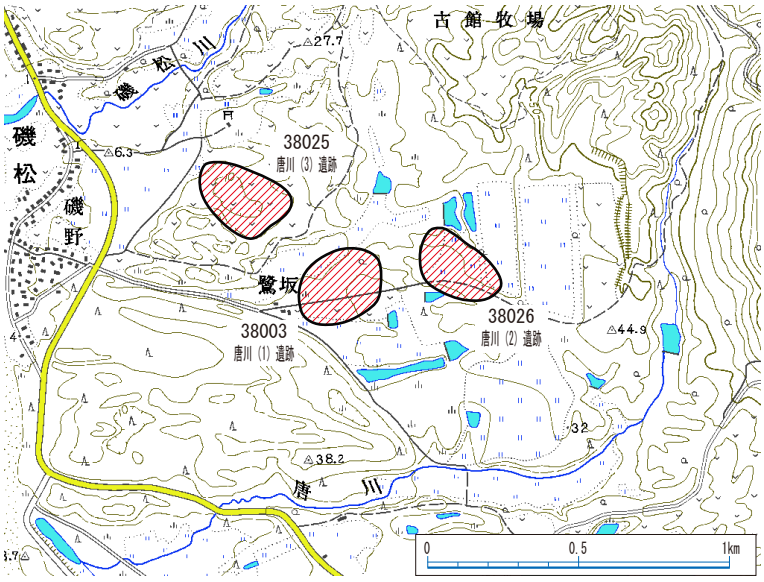
〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕磯松唐皮

13-(1・63 ～ 76)

〔北　　緯〕41 度 04 分 25 秒

〔東　　経〕140 度 20 分 14 秒



第３図　唐川（１）遺跡の位置（38003）

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、唐川城跡西麓に位置する。磯松川と唐川に挟まれた日本海を望む標高 30 ～ 50 mの丘陵地にある。

○現 況 等：旧唐川牧場・旧キャンプ場の跡地となっており、荒地が多い。また、一部に

宅地があるほかは土地改良された原野、黒松の保安林が広がっている。遺跡の確認は困難である。

〇確認・表採遺物：かつて土師器・須恵器・土錘等が表採されている。

〇そ の 他：昭和 36 年調査時には多くの竪穴住居跡の窪みを確認できたようである。しかし、昭和 45 年頃に開発が進み、遺跡破壊が進んだものとみられる。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕38004

〔遺 跡 名〕ナガレ山遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ながれやまいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文、平安

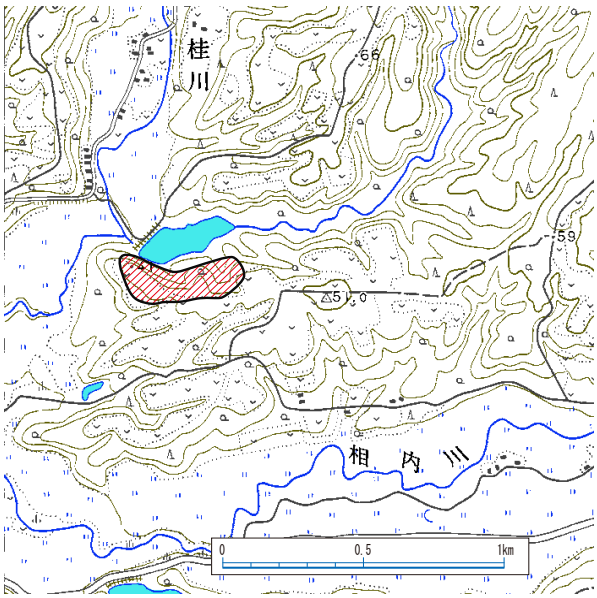
〔所 在 地〕相内桂川 350、458 ～ 460

〔北　　緯〕41 度 03 分 28 秒

〔東　　経〕140 度 22 分 38 秒

〔遺跡概要〕

〇立地・範囲：十三湖の北岸、相内川と桂川に挟まれた標高 40 mほどの丘陵端部に立地する。



第４図　ナガレ山遺跡の位置(38004)

〇現 況 等：一部では畑地がみられるが、多くは雑木林と表土が剥ぎ取られた荒地となっており、遺跡確認が困難な状況にある。

〇確認・表採遺物：昭和 48 年には土師器、須恵器、縄文土器が散布していた。
平成 13 年にも土師器、須恵器が表採されている。

〇そ の 他: 昭和 36 年には竪穴住居跡とみられる窪地が 4 ヶ所確認されている。その後、昭和 47 年に採草地造成を目的に重機によって、表土が剥ぎ取られ、遺跡破壊が進んでしまった。なお、遺跡名称となった「ナガレ山」は「長根山」が変化したものとみられる。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕榊原滋高 2005「十三湖周辺の古代集落」『北奥の考古学　葛西勵先生還暦記念論集』

〔遺跡番号〕38005
〔遺　跡　名〕磯松遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いそまついせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕中世、近世
〔所　在　地〕磯松磯野
268 － (50・76)
〔北　　緯〕41 度 04 分 26 秒
〔東　　経〕140 度 19 分 31 秒

第５図　磯松遺跡の位置(38005)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、海岸部に面した磯松集落内に所在する。一帯は砂丘低地である。

○現　況　等：付近は宅地化が進み、砂丘下に存在するとみられる遺跡の確認は困難である。

○確認・表採遺物：中世の珠洲焼（壷・甕・擂鉢）、瓦質土器、近世の肥前陶磁器（伊万里焼の碗・皿、唐津焼の盤・擂鉢）が表採されている。また、中世の銭貨である永楽通寶（初鋳年：1408 年）、皇宋通寶（初鋳年：1038 年）、元祐通寶（初鋳年：1086 年）も表採されている（平成 8 年調査）。

○そ　の　他：磯松集落北端に位置する熊野神社一の鳥居横にある地蔵堂前の左右に 2 基の五輪塔が残されている。昭和 36 年調査以来、この五輪塔二基が墳墓跡として遺跡登録されてきたが、近年、これらの五輪塔が古館遺跡に隣接する「ゴリン沢」から運ばれてきたものであることが明らかとされている。五輪塔が所在した本来の場所は明確ではないが、磯松の地名由来となっている「誘松（いさまつ）」（市指定文化財）の付近と推定され、古館遺跡と熊野神社社殿が位置する丘陵に挟まれた沢筋とする意見が有力となっている。そのため遺跡登録から一端外されることとなったが、平成 8 年 7 月 30 日に隣接地で中世～近世の陶磁器や銭貨が表採されたことから、同遺跡名を付すこととした。これは村道改修工事に伴って、恐らく砂丘下の遺物包含層が破壊され、周辺に散乱したとみられる。また、聞き取り調査によって、近隣の宅地の庭先下から埋納銭とみられる銭貨がまとまって発見されたという。

〔発掘履歴〕なし

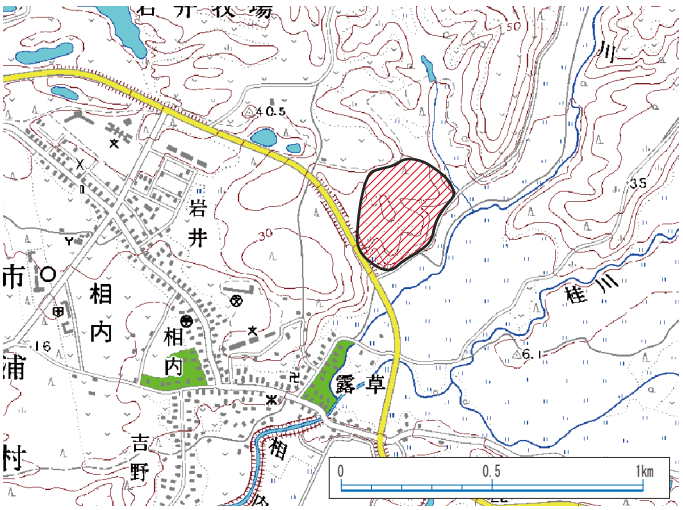
〔文　　献〕佐藤　仁 2004「安藤氏と金石造文化財」『中世十三湊の世界－よみがえる北の港湾都市－』千田嘉博編　新人物往来社

佐藤　仁 2006「安藤氏の足跡を検証する－十三湊・折曽関の石造物を中心に－」『十三湊遺跡～国史跡指定記念フォーラム～』前川要ほか編　六一書房

榊原滋高 2005「第３節　周辺の遺跡～遺跡の立地と環境～」『十三湊遺跡（第Ⅰ分冊）』青森県埋蔵文化財調査報告書第 398 集

〔遺跡番号〕38006
〔遺 跡 名〕欠　番（旧名：相内遺跡）
〔遺跡名ふりがな〕　　（旧名：あいうちいせき）
〔種　　別〕墳墓跡
〔主な時代〕中世
〔所 在 地〕相内 46、47、196
〔北　　緯〕41 度 03 分 10 秒
〔東　　経〕140 度 21 分 22 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：十三湖北岸、相内川を南に望む標高 20 mほどの丘陵部に立地する。
○現 況 等：現在、相内蓮華庵の墓地となっている。
○確認・表採遺物：なし
○そ の 他：相内蓮華庵には板碑や五輪塔、宝篋印塔（ほうきょういんとう）といった中世安藤氏時代の石造文化財が所在する。昭和 36 年調査時には墳墓跡として遺跡登録されたが、こうした石造物はすべて山王坊遺跡周辺や唐川城下の春日内観音堂周辺にあったものが集められたこと明らかとなっており、現在では遺跡登録から外されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕佐藤　仁 2005「第５節　十三湊の史跡と安藤氏の信仰」『十三湊遺跡（第Ⅰ分冊）』青森県埋蔵文化財調査報告書第 398 集

〔遺跡番号〕38007
〔遺 跡 名〕笹畑遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ささばたけいせき
〔種　　別〕貝塚、集落跡
〔主な時代〕縄文時代（前・中・後）、中世
〔所 在 地〕相内岩井 81 ― (55・57・66・70・227 ～ 230・243・258・475)
〔北　　緯〕北緯 41 度 03 分 27 秒
〔東　　経〕東経 140 度 21 分 36 秒



第６図　笹畑遺跡の位置(38007)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、山王坊川右岸の丘陵端部に立地する。

○現　況　等：一帯は畑地のほか、杉・松林、荒地となっている。遺跡北西側は土地改良が行われており、竪穴住居があったとされる場所は荒地となっており、確認はできない。

○確認・表採遺物：縄文時代では円筒式土器のほか後期初頭にあたる土器や石器（敲石）が表採されている。

○そ　の　他：相内史談会による調査では北側後背地の丘陵上に竪穴住居跡とみられる窪地を 12 ヶ所ほど確認されている。また、一帯は「寺屋敷」とされ、五輪塔や鏡、珠洲ロクロ壷などが発見されているという。別名「笹館」ともいう。

また、昭和 43 年に遺跡北西側が土地改良によって牧草地になっており、遺跡の破壊が進んだものとみられる。

〔発掘履歴〕大正 14 年に山内清男氏が対岸のオセドウ貝塚と共に調査が行っている。昭和 3 年に中谷治宇二郎氏が発掘調査を行っている。

〔文　　献〕山内清男 1929「関東北に於ける繊維土器」『史前学雑誌』第一巻第二号

中谷治宇二郎 1929「東北地方石器時代遺跡調査予報」『人類学雑誌』第四四巻第三号

豊島勝蔵 1984「笹畑（笹館）貝塚遺跡」『市浦村史』第壱巻　市浦村

〔遺跡番号〕38008

〔遺　跡　名〕二ツ沼遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ふたつぬまいせき

〔種　　別〕集落跡

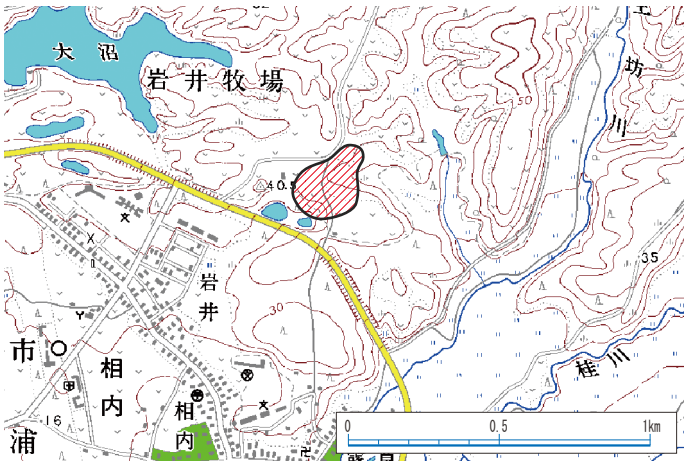
〔主な時代〕縄文（晩）、平安、中世

〔所　在　地〕相内岩井 81

－ (400 ～ 402)、84 － 1

〔北　　緯〕41 度 03 分 37 秒

〔東　　経〕140 度 21 分 24 秒



第７図　二ツ沼遺跡の位置(38008)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、西に唐川、東に山王坊川に挟まれた標高 30 ～ 40 m丘陵上に立地する。また、唐川城跡の南麓に位置し、「二ツ沼」と呼ばれる湖沼の北岸一帯にあたる。

○現　況　等：一帯は廃棄物最終処分場や相内火葬場などが建設され、遺跡は完全に破壊されたものとみられる。

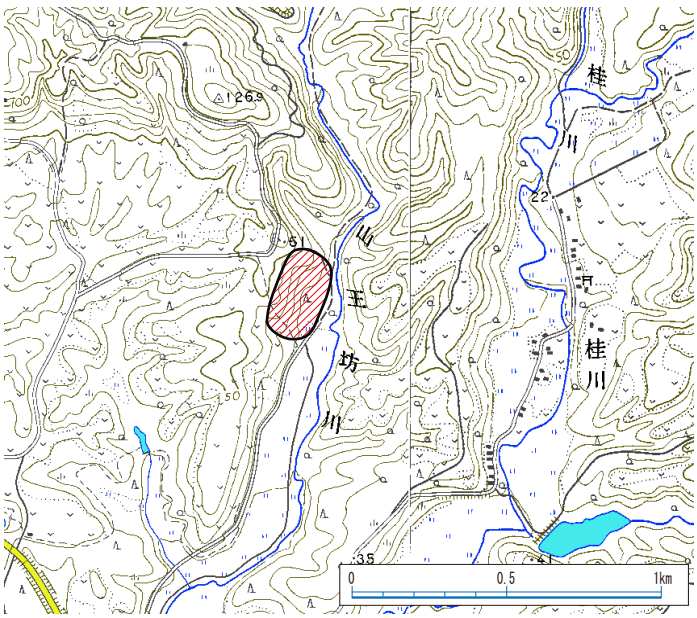
○確認・表採遺物：縄文晩期の土器・石器、中世の青磁・刀子・銭貨が発掘調査で出土している。

○そ の 他：昭和 43 年に牧草地として土地改良が行われ、重機による大規模な土地造成が行われ、その際、竪穴住居跡とみられる窪地が破壊されたという。また、二ツ沼水辺より縄文晩期の土器片が採取されたという。

〔発掘履歴〕昭和 28・29 年に早稲田大学桜井清彦教授によって、発掘調査が実施されている。二ツ沼東岸、春日内観音堂（唐川城跡）へ向かう村道の両側に 19 基の竪穴住居跡とみられる窪地があり、そのうち９基が調査されている。竪穴住居跡からは青磁碗片のほか、天聖元寶や永楽通寶といった銭貨や刀子片が出土したと報告されている。また、近年では平成 15 年に開発行為に伴う発掘調査が市浦村教育委員会によって実施されている。調査の結果、やはり大きく地形の改変を受けていることが判明し、ほとんど遺跡が消滅したものとみられる。

〔 文　　献 〕櫻井清彦 1955「青森県相内村二ツ沼遺跡について」『史観』早稲田大学史学会編第 45 冊
櫻井清彦 1958「青森県市浦村岩井遺跡」『日本考古学年報７』
市浦村教育委員会 2004「市浦村内遺跡発掘調査地業報告書Ⅰ　唐川（３）遺跡・二ツ沼遺跡」市浦村埋蔵文化財調査報告書　第 16 集

〔遺跡番号〕38009
〔遺 跡 名〕山王坊遺跡
〔遺跡名ふりがな〕さんのうぼういせき
〔種　　別〕寺社跡
〔主な時代〕縄文（晩）、平安、中世
〔所 在 地〕相内岩井１－(1・2)、6－(1・2)、61－(1～3)、84－(22～24)、87－1
〔北　　緯〕41 度 03 分 59 秒
〔東　　経〕140 度 22 分 06 秒



第８図　山王坊遺跡の位置(38009)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、山王坊川の沢筋を遡った山間の谷間にあり、遺跡は平坦地と丘陵斜面にある。一帯は日吉神社の境内地となっている。

○現 況 等：日吉神社の境内地であり、よく管理されている。一部、発掘調査によって検出された礎石跡を見学できるように簡易な遊歩道整備が行われている。遺跡の保存と活用が行われ、多くの観光客も訪れる場所となっている。

○確認・表採遺物：かつて一帯から五輪塔・宝篋印塔等の石造物や古瀬戸の蔵骨器、懸仏が採取

され、相内蓮華庵に運ばれている。発掘調査では中世の陶磁器、鉄釘、銅製品の飾金具や銭貨、鞴羽口、炭化材が出土している(昭和 57 ～平成元年調査)。

○そ の 他：十三湊を支配した安藤氏が勧請した宗教施設とみられ、発掘調査によって、大きく２組に分かれる社殿列跡が検出されている。

〔発掘履歴〕昭和 57 ～平成元年にわたって、東北学院大学加藤孝教授を代表とする山王坊遺跡調査団が発掘調査を実施している。また、平成 18 年から史跡指定を目指した範囲確認調査が五所川原市教育委員会によって行われている。

〔文　　献〕山王坊跡調査団ほか　1987『青森県北津軽郡市浦村山王坊跡　昭和 57 年度～昭和 62 年度調査中間報告』北方日本海の中世宗教遺跡研究第 1 集

加藤　孝 1984「津軽安東氏『山王坊跡』の調査」『北方日本海文化の研究』東北学院大学東北文化研究所紀要第 16 号

加藤　孝 1985「津軽十三湊山王坊出土の石造物」『東北学院大学論集』歴史地理学第 15 号

加藤　孝 1999「山王坊跡発見の『石座跡』『磐座跡』－中世津軽十三湊跡の研究－」『北奥文化』第 20 号

加藤　孝 1985「山王坊跡出土遺物－特に、本社殿跡の石造物片－」

加藤孝・坂田泉・新野直吉 1983「特別報告山王坊跡発掘調査報告」『北奥文化』第 4 号

加藤　孝 1987「中世津軽安東氏の葬制－特に中世火葬骨壷の発見」『北奥文化』第 8 号

加藤孝・佐藤智雄　1987「『山王坊跡』発掘調査情報」『北奥文化』第 8 号

坂田　泉　1984「中世津軽の山王坊遺跡について」『北奥文化』第 5 号

坂田　泉 1981「津軽山王坊における日吉神社の建築」『東北の古代史の研究』吉川弘文館

坂田　泉 1984「山王坊遺跡の建築的復元一考察」『北方日本海文化の研究』東北学院大学東北文化研究所紀要第 16 号

〔遺跡番号〕38010

〔遺 跡 名〕唐川城跡

〔遺跡名ふりがな〕からかわじょうあと

〔種　　別〕散布地、城館跡

〔主な時代〕縄文、平安、中世

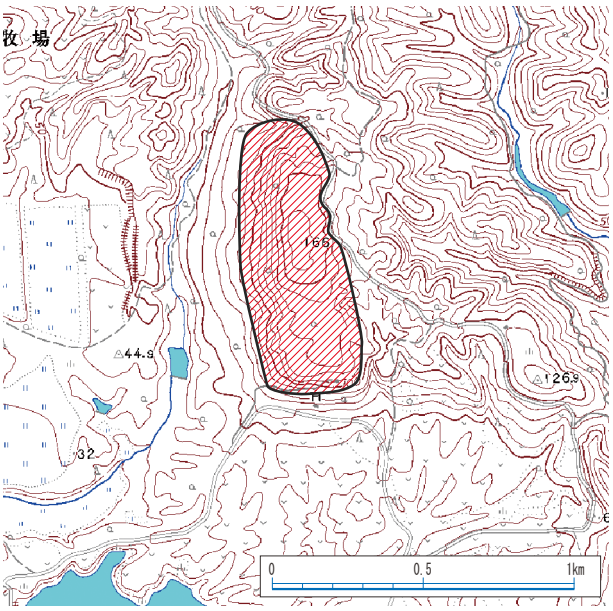
〔所 在 地〕相内岩井相内山国有林 557 林班ろ２　小班

〔北　　緯〕41 度 04 分 34 秒

〔東　　経〕140 度 21 分 18 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、標高 140 ～ 160 mの独立丘陵上に立地する。



第９図　唐川城跡の位置(38010)

○現 況 等：一帯は国有林で城跡南側は黒松林で樹齢 40 年ほどとみられる人工林、北側は土地改良によって、牛の放牧地となっていたが、現在は利用されておらず荒地となっている。城跡北側には放牧地に向かう林道が延びており、一部に遺跡破壊がみられる。土塁や堀跡、井戸跡は良く残っている。

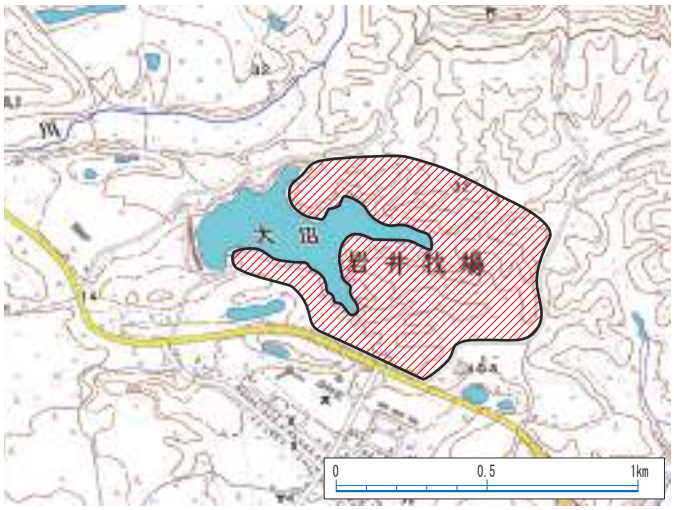
○確認・表採遺物：発掘調査によって、縄文時代の石鏃、平安時代の土師器・須恵器・鉄滓、中世陶磁器（青磁・珠洲焼）が出土している。

○そ の 他：発掘調査の結果、築城・主体時期が 10 世紀後半～ 11 世紀代の古代高地性環濠集落であり、中世（15 世紀）に再利用されていることが判明している。山頂部の平坦面には土塁と堀によって、大きく３つの曲輪（くるわ）（北郭・中央郭・南郭）が設けられ、さらに東側には帯曲輪状の堀を巡らす比較的単純な城郭構造を呈している。城跡は少なくとも南北 700 m、東西 200 mをはかる大規模なものである。また、北郭と南郭には現在でも大きな井戸跡が残っており、南郭の井戸跡周辺には竪穴住居跡と思われる窪地が多数認められる。さらに中央郭の二つの平坦面は切り盛りによる盛土整地が行われ、中世に利用されていることが判明している。

〔発掘履歴〕平成 11 ～ 13 年に富山大学によって発掘調査が行われている。

〔文　　献〕富山大学人文学部考古学研究室　2002『津軽唐川城跡―古代環濠集落の調査―』富山大学人文学部考古学研究室　第７冊

〔遺跡番号〕38011
〔遺 跡 名〕岩井大沼遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いわいおおぬまいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文時代（後・晩）
〔所 在 地〕相内岩井 81 － (1・404)
〔北　　緯〕41 度 03 分 51 秒
〔東　　経〕140 度 21 分 4 秒



第10図　岩井大沼遺跡の位置(38011)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、「大沼」と呼ばれる湖沼の北岸から東岸一帯に広がる遺跡である。唐川城跡の南麓に位置しており、やや起伏のある標高 10 ～ 40 mの丘陵地である。

○現 況 等：一帯は放牧地（岩井牧場）や大沼公園として整備されており、遺跡確認は困難な状況にある。

○確認・表採遺物：縄文晩期（大洞Ａ～Ａ´式）の鉢のほか、縄文後期初頭（十腰内Ⅰ式）の土器が表採されている（図版２・３）。平成 12 年の発掘調査では、土器捨て場とみられる遺物包含層が発見され、縄文時代晩期末葉（大洞Ａ～大洞Ａ´式）の土器や石器・土製品、石製品、ベンガラなどが出土している。

○そ の 他：大正 14 年頃には大沼沿岸に 4 ヶ所の散布地があり、そのうちの一ヶ所に円筒上層式土器が採取されたという。また、昭和 36 年には大沼の北岸と東岸において、竪穴住居跡とみられる窪地が 20 基以上確認されたという。

昭和 43 年に牧草地にするため重機によって土地造成が行われ、竪穴住居跡とみられる窪地が壊されてしまった。地表面観察では、遺跡の確認は困難な状況にある。

〔発掘履歴〕昭和 60 年 10 月に史跡型観光開発工事に伴って、東北学院大学加藤孝教授を調査担当者に市浦村教育委員会が調査を行った。

平成 11 年～ 12 年に公園整備に伴う発掘調査が市浦村教育委員会によって行われた。

〔文　　献〕山内清男　1929「関東北に於ける繊維土器」『史前学雑誌』第一巻第二号

市浦村教育委員会　2001『岩井・大沼遺跡～県営大沼地区水環境整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告～』市浦村埋蔵文化財調査報告書　第 12 集

〔遺跡番号〕38012

〔遺 跡 名〕赤坂遺跡

〔遺跡名ふりがな〕あかさかいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕相内赤坂

105 － (1・4・13)

〔北　　緯〕41 度 03 分 28 秒

〔東　　経〕140 度 22 分 05 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、西に山王坊川、東には桂川に挟まれた標高 30 m ほどの舌状台地に立地する。

第11図　赤坂遺跡の位置(38012)

○現 況 等：遺跡がある丘陵南辺部（赤坂 105 － 13）は道路工事と土地造成によって、遺跡破壊が進んでいる。平成１８年、丘陵北西端部（赤坂 105 － 1・13）に新たに竪穴住居跡とみられる窪地を６基確認することができた。

○確認・表採遺物：発掘調査では土師器の坏・甕、擦文土器（刻文土器）、須恵器甕、カマドの土製支脚、土錘などが出土している。主な時期は 10 世紀後半～ 11 世紀代である。

○そ の 他：昭和 29 年には丘陵一帯に竪穴住居跡とみられる窪地 39 個が確認された。

〔発掘履歴〕昭和 29 年に早稲田大学櫻井清彦教授によって発掘調査が実施されている。

〔文　　献〕櫻井清彦　1955「青森県相内村赤坂遺跡について」『古代』第十七号

〔遺跡番号〕38013

〔遺 跡 名〕露草遺跡

〔遺跡名ふりがな〕つゆくさいせき

〔種　　別〕寺社跡

〔主な時代〕中世

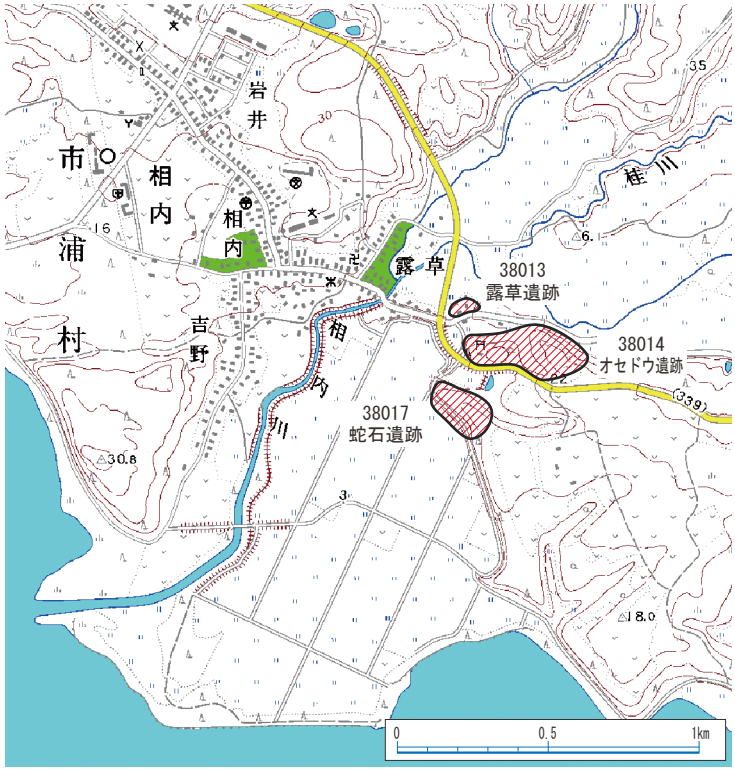
〔所 在 地〕相内露草
83 － (1・4・5)、
131 － 1

〔北　　緯〕41 度 03 分 05 秒

〔東　　経〕140 度 21 分 40 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、相内川が桂川と交わる左岸に位置する。自然堤防上にあったとみられ、周辺は田に囲まれた沖積地にある。側にはオセドウ貝塚・相内神明宮がある丘陵に接している。



第12図　露草遺跡の位置(38013)

○現 況 等：製材所の敷地となっており、遺跡の確認は困難である。

○確認・表採遺物：この場所にあったとされる五輪塔や宝篋印塔の一部が相内蓮華庵の境内に移されている。また、隣接地に相内－太田線市道付近から完形の珠洲ロクロ壷が出土している。

○そ の 他：「十三往来」（『津軽一統志』所収）にみえる「禅林寺跡」と呼ばれた寺院が所在したのではないかと伝承されている。また、一帯は俗称で「四軒屋」とも呼ばれ、昔は古い松の木があり、周辺から出土したとみられる石造物がいくつもあったというが、今は水田化され、昔の面影は全くない。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕鈴木古観 1976「青森県出土の中世陶器二例」『考古風土記』創刊号

佐藤　仁 2005「十三湊の史跡と安藤氏の信仰」『十三湊遺跡（第Ⅰ分冊）』青森県埋蔵文化財調査報告書　第 398 集

〔遺跡番号〕38014

〔遺 跡 名〕オセドウ貝塚

〔遺跡名ふりがな〕おせどうかいづか

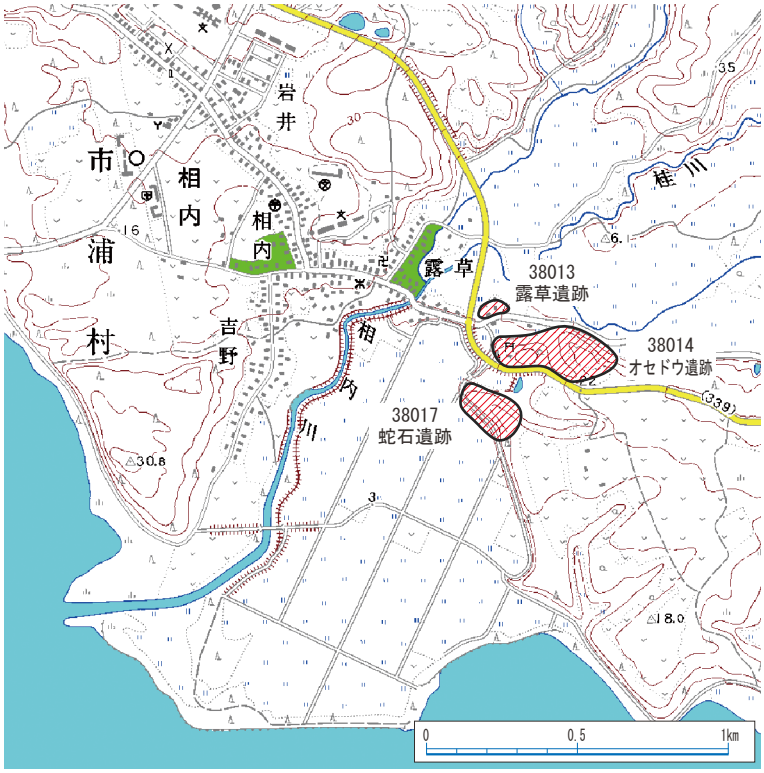
〔種　　別〕貝塚、集落跡

〔主な時代〕縄文（前～晩）、平安、中世

〔所 在 地〕相内露草 75、190 － (1・3・4・6)、197 － (11・13 ～ 15・18・19 ～ 31)

〔北　　緯〕41 度 03 分 00 秒

〔東　　経〕140 度 21 分 42 秒



第13図　オセドウ貝塚の位置(38014)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、北に相内川、南に十三湖に挟まれた標高 20 mほどの丘陵先端部に立地する。現在、相内神明宮の境内地となっている。また、福島城跡北西端の堀切部分と相内神明宮境内地に挟まれた部分（昭和 36 年分布調査で「福島城跡（Ⅱ）遺跡」とした箇所）も縄文晩期土器片が採取されたとされていることから、「オセドウ貝塚」として整理統合する。

○現 況 等：神明宮境内地は遺跡公園として簡易整備されている。相内氏子総代とオセドウ森林公園の会が管理を行っており、手入れが行き届いている。また、散策できる遊歩道もあって、憩いの場となっている。

○確認・表採遺物：ヤマトシジミを主体とする貝塚で、主に丘陵南側の斜面で貝塚の分布が確認されている。これまで縄文時代の前期・中期・後期の土器・石器・骨格器・人骨が出土している。また、丘陵平坦部では古代の遺物（土師器の坏・甕、擦文土器甕、五所川原産須恵器の長頸壷・甕、土錘、鉄滓、支脚など多数出土したほか、青磁碗や珠洲擂鉢、越前甕など、15 世紀前半代の中世陶磁器も出土している（平成 2 年調査）。

○そ の 他：オセドウという遺跡名称は「御伊勢堂」が訛ったものとされる。遺跡の記録は古く大正 10 年に道路工事中に貝塚が発見されている。有名なオセドウ人骨の発見は大正 12 年に遡る。円筒土器の名称は長谷部言人氏がオセドウ貝塚出土の土器に命名したものに始まり、研究史的にも重要な遺跡である。また、大正 14 年に山内清男氏がオセドウ貝塚において層位的発掘を行い、下層から出土した器体に繊維を含んだ土器を円筒下層式、上層から出土した器体に繊維を含まない土器を円筒上層式と命名し、型式分類を行なっている。昭和 15 年に吉田格氏が試掘調査を行っている。昭和 46 年 9 月 18 日に国道拡幅工事に際し、倒立した状態で円筒土器 1 基が丘陵斜面から発見されている。平成元年～二年にかけて公園整備に伴う試掘調査が新谷雄蔵氏を調査担当者に市浦村教育委員会によって実施されている。平成二年は丘陵南側斜面において、ヤマトシジミの貝層を確認し、骨角器が出土している。また、貝層の下位からは円筒下層ｄ１式、貝層の上位からは円筒上層ａ式が中心に出土している。

〔発掘履歴〕大正 11 年、十三史談会による調査。大正 12 年、相内村民による人骨発見。大正 14 年、長谷部言人・山内清男による分層発掘。昭和３年、中谷治宇二郎の調査。昭和 15・16 年には吉田格・直良信夫の調査。昭和 46 年、工事中の不時発見による調査。平成元～２年、新谷雄蔵による調査。

〔文　　献〕

宍倉宣孝 1922「相内村の貝塚」『人類学雑誌』37-1

宍倉宣孝 1924「陸奥北津軽郡相内村より人骨発見」『人類学雑誌』39-1

中道　等 1924「北津軽郡相内村ノ遺跡」『青森県史跡名勝天然記念物調査報告』1

長谷部言人 1927「円筒土器文化」『人類学雑誌』第四二巻第一号

山内清男 1929「関東北に於ける繊維土器」『史前学雑誌』第一巻第二号

中谷治宇二郎 1929「東北地方石器時代調査予報」『人類学雑誌』44-3

吉田格・直良信夫　1942「青森県相内村オセドウ貝塚」『古代文化』第一二巻第七号

市浦村教育委員会　1992『オセドウ貝塚発掘調査概報（第１・第２次発掘調査概報）』

村越　潔 2001「第２章津軽の原始時代」『新編弘前市史　通史編１（自然・原始）』

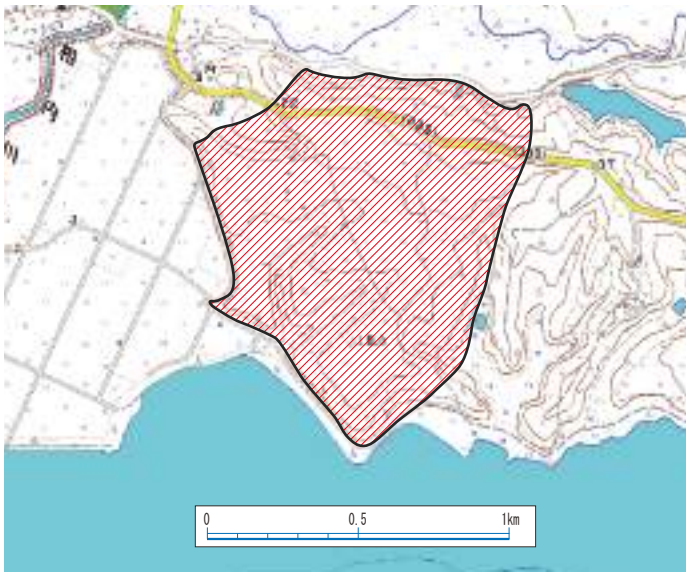
榊原滋高　2006「埋葬人骨が発見された遺跡　オセドウ貝塚」『図説　五所川原・西北津軽の歴史』郷土出版社

〔遺跡番号〕38015
〔遺 跡 名〕実取（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕みとりかっこいちいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕相内実取 287 ― (202・205 ～ 208・212・215・258・259・262・267・268)
〔北　　緯〕41 度 02 分 45 秒
〔東　　経〕140 度 22 分 30 秒
〔遺跡概要〕

第14図　実取（１）遺跡の位置（38015）

○立地・範囲：十三湖北岸に面し、福島城跡外郭から東側に一つ沢を隔てた標高 20 mほどの丘陵にある。
○現 況 等：一帯は黒松による植林と熊笹に覆われ、遺跡の確認は困難である。また、筆界未定地が多く、開発行為が行われた状況もない。そのため遺跡は極めて良好に存在するものと思われる。
○確認・表採遺物：なし
○そ の 他：昭和 36 年には竪穴住居とみられる窪地が 10 基ほど確認されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕38016
〔遺 跡 名〕福島城跡
〔遺跡名ふりがな〕ふくしまじょうあと
〔種　　別〕城館跡、集落跡
〔主な時代〕縄文（晩）、平安、中世
〔所 在 地〕相内実取 287 ― 873（内郭部分）、外郭域は多数のため省略。
〔北　　緯〕41 度 02 分 48 秒
〔東　　経〕140 度 21 分 54 秒



第15図　福島城跡の位置（38016）

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、標高 20 ～ 30 ｍの丘陵端部に立地する。遺跡は内郭と外郭の二重構造からなる城館である。内郭は一辺が約 200 ｍ四方の矩形を呈し、堀と内側に土塁を伴う。一方、外郭は自然の沢を利用しながら、大規模な土塁や堀を築き、一辺が約 1 ㎞の三角形を呈する。

○現 況 等：内郭は相内財産区の所有であり、原野となっている。広大な外郭域は、ほとんどが私有地であり、黒松による植林地や原野、荒地、畑地等になっている。

○確認・表採遺物：表採によって、これまで縄文晩期の土器、古代の土師器・須恵器、中世陶磁器が表採されている。

○そ の 他：文献史料では、近世の編纂物「十三往来（とさおうらい）」（享保 16 年＜ 1731 ＞成立『津軽一統志』所収）や「十三湊新城記（とさみなとしんじょうき）」（秋田家文書）に登場する「新城」に比定する見解がある。それによれば、「十三湊新城記」に登場する「新城」には鎌倉末期、正和年中（1312 ～ 17）に安倍（安藤）貞季が築いた城郭と記されていることから、従来この地に勢力をもった津軽安藤氏の居城として理解されてきた。また、福島城の名称は「十三往来」に記載された「福島之城郭」が初見となっている。平成 3 年の詳細分布調査では、内郭外の東側畑地（外郭域）で中世陶磁器が散布している地点が確認されている。福島城跡南端、十三湖に突出した標高 18 ｍの台地、通称「鰊崎」に 32 基の竪穴住居とみられる窪地が存在する。この地点は昭和 36 年分布調査において、「福島城跡（Ｉ）遺跡」とされていた。内郭の門跡復元は昭和 63 年に行われている。内郭では昭和 60 年頃に農協青年部に貸与し、ニンニク栽培畑として利用されており、発掘ではトレンチャ―の跡が多くみられ、破壊されている。

〔発掘履歴〕昭和 30 年、東京大学東洋文化研究所による調査。昭和 60 年 10 月に史跡型観光開発工事（展望台設置）に伴って、東北学院大学加藤孝教授を調査担当者に市浦村教育委員会が調査を行った。平成 3 ～ 4 年、国立歴史民俗博物館による調査。平成 17 ～ 18 年、青森県教育委員会と中央大学による調査が行われている。平成 21 年まで史跡指定を目指した発掘調査が進められる予定である。

〔文　　献〕秋元省三　1956「福島城址発掘に就いて」『東奥文化』第 3 号

青森県教育委員会　1983『青森県の中世城館』

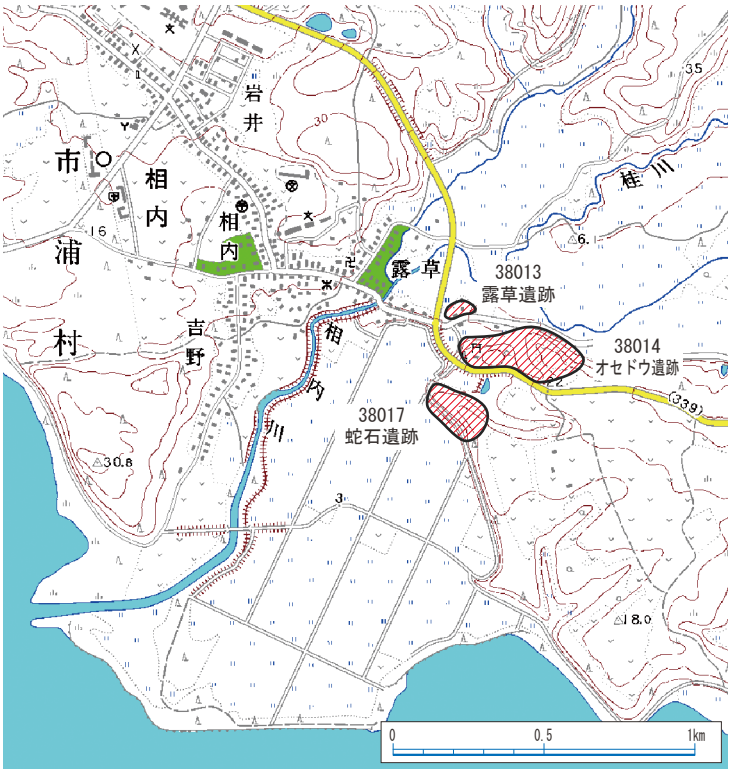
青森県教育委員会　2006『福島城跡 1 』

江上波夫・関野　雄・櫻井清彦　1958『館址』東京大学東洋文化研究所

国立歴史民俗博物館　1995『青森県十三湊遺跡・福島城跡の研究』国立歴史民俗博物館研究報告第 64 集

井出靖夫 2006「津軽福島城跡の研究－第 6 次調査概報－」『人文研紀要』中央大学人文科学研究所

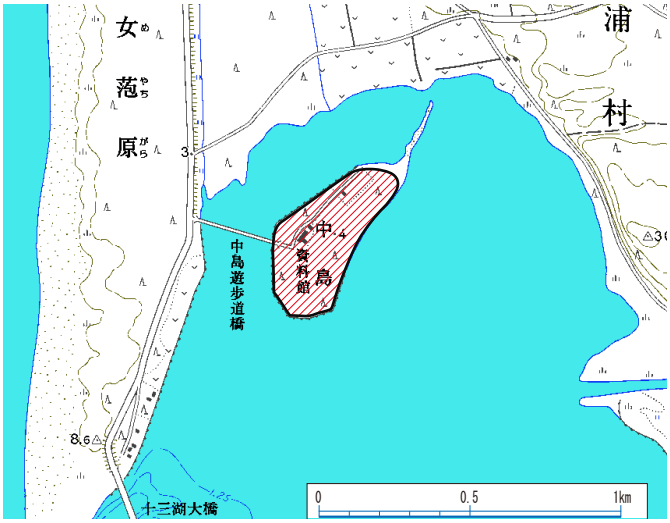
〔遺跡番号〕38017
〔遺　跡　名〕蛇石遺跡
〔遺跡名ふりがな〕へびいしいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（前・中・後）、平安
〔所　在　地〕相内実取 287 － 1
〔北　　緯〕41 度 02 分 55 秒
〔東　　経〕140 度 21 分 36 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：十三湖北岸、十三湖を望む標高 20 m ほどの丘陵西端部にある。東側には福島城跡が隣接する。



第16図　蛇石遺跡の位置(38017)

○現　況　等：一帯は黒松の山林となっている。竪穴住居跡とみられる窪地が 7 基ほど確認できることから、遺跡は良好に残されている。
○確認・表採遺物：発掘調査で縄文時代前期末葉から後期前葉までの土器、石器片が出土している（平成 6 年度）。かつて土師器も採取されたという。
○そ　の　他：福島城跡とは接しているが、堀跡によって遺跡範囲が区別される。
〔発掘履歴〕平成 6 年度、市浦村教育委員会による調査。
〔文　　献〕市浦村教育委員会　1995『福島城跡～平成 6 年度実取地区農道整備事業にかかわる緊急発掘調査報告書～』

〔遺跡番号〕38018
〔遺　跡　名〕中島遺跡
〔遺跡名ふりがな〕なかじまいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕奈良
〔所　在　地〕十三土佐 1 － (80・81)
〔北　　緯〕41 度 02 分 48 秒
〔東　　経〕140 度 20 分 01 秒



第17図　中島遺跡の位置(38018)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北西部に浮かぶ中島。標高３ｍほど砂丘低地であり、遺跡の中心は南岸中央部にある。古くは十三湊遺跡のある砂堆と南北に連なる砂堆であった可能性がある。

○現況等：一帯は活性化センターやバンガロー、遊具などが整備され、観光拠点となっている。そのほか、黒松による保安林が広がっており、内部には遊歩道が整備されている。遺跡の中心とみられる南岸中央部付近は平成 12 年に護岸工事が行われている。遺跡の確認は困難な状況にある。

○確認・表採遺物：昭和 27 年、中島の南岸中央部付近から甕形土器二個体、壺形土器一個体、坏形土器二個体、高坏形土器一個体、小型土器一個体が採取される。昭和 58 年にはやはり南岸中央付近で甕形土器二個体が発掘調査で出土している。昭和 60 年には発掘調査で柱穴が確認されている。また、これとは別に表採された土師器坏１点がある（図版５）。

○その他：中島出土の土師器は出土状況から厳密な一括資料とはみられていないが、型式的にもまとまりがあるとされ、その年代観は坏や高坏の特徴から８世紀前半～中頃に想定されている。

〔発掘履歴〕昭和 27 年９月、不時発見によって豊島勝蔵氏が調査を行っている。昭和 28 年に早稲田大学櫻井清彦教授による調査。昭和 58 年と昭和 60 年には公園施設整備事業に伴って、発掘調査が新谷雄蔵氏を担当者に市浦村教育委員会が行っている。

〔文　　献〕

櫻井清彦　1954「青森県十三村中島発見の土師器」『考古学雑誌』第 40 巻第１号

櫻井清彦　1958「東北地方北部における土師器と竪穴に関する諸問題」『館址―東北地方における集落址の研究―』東北大学出版会

市浦村教育委員会　1984『市浦村十三・中島遺跡（発掘調査報告書）』

市浦村教育委員会　1986『市浦村十三湖　中島遺跡発掘調査報告書』

豊島勝蔵　1984「中島遺跡」『市浦村史』第一巻　市浦村

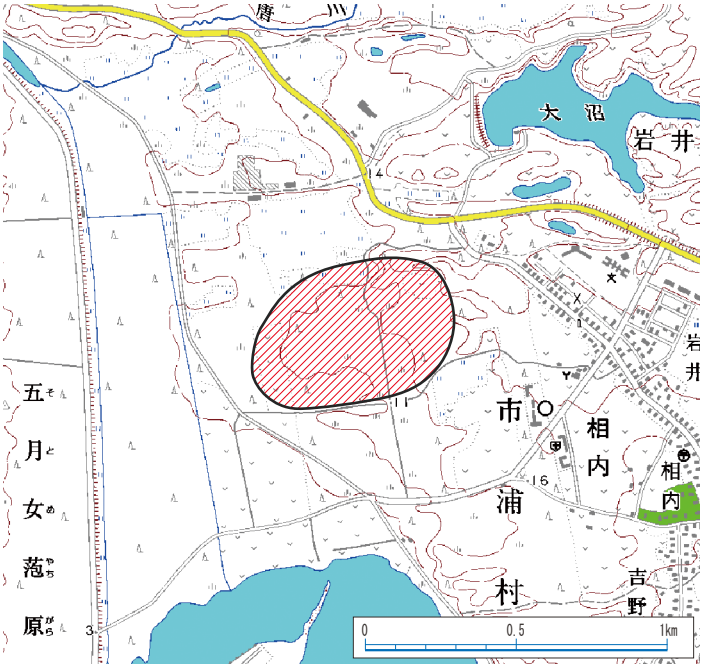
宇部則保　1997「７・８世紀の沈線文土師器」『蝦夷・律令国家・日本海―シンポジウムⅡ・資料集―』日本考古学協会 1997 年度秋田大会実行委員会

〔遺跡番号〕38019
〔遺 跡 名〕欠　番（旧名：檀林寺遺跡）
〔遺跡名ふりがな〕　　（旧名：だんりんじいせき）
〔種　　別〕寺社跡
〔主な時代〕中世
〔所 在 地〕十三通行道 103 － (1・82・91・92・95130・132)、107 － 1
〔北　　緯〕41 度 01 分 12 秒
〔東　　経〕140 度 19 分 50 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：十三湖西岸、十三集落南端の標高２～３ｍの砂丘低地にある。
○現 況 等：遺跡の中心部は現在、製材所と民家の敷地となっていて、遺跡確認は困難であるが、後背地は黒松による保安林が広がり、遺跡は良好に残る。
○確認・表採遺物：15 世紀中葉に相当する中世陶磁器、茶臼、石造物など多数出土している。
○そ の 他：昭和 15 年、開墾中に礎石跡が発見されて遺跡が周知される。昭和 24 年には再結成された十三史談会によって、檀林寺跡の調査研究が行われている。
〔発掘履歴〕昭和 51 年、早稲田大学櫻井清彦教授による調査。平成 12 年度には県道拡幅工事に伴って、檀林寺跡周辺調査が青森県教育委員会によって行われる。平成 14 ～ 15 年に市浦村と青森県教育委員会による範囲確認調査を行う。平成 15 年、中央大学による分布試掘調査が行われる。
〔文　　献〕豊島勝蔵　1982『十三村郷土史』
豊島勝蔵　1984「檀林寺遺跡」『市浦村史』第一巻　市浦村
櫻井清彦・海津正倫・榊原滋高　1995「十三湊遺跡隠居地点（いわゆる伝檀林寺跡）の調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 64 集
青森県教育委員会　2002『十三湊遺跡－県道鯵ヶ沢蟹田線道路拡幅事業に伴う遺跡発掘調査報告－』
青森県教育委員会　2003『十三湊遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 355 集
市浦村教育委員会　2005『十三湊遺跡－第 90・120・151・155 次発掘調査報告書　本文編－（第Ⅱ分冊）』
〔備　　考〕平成 10 年 2 月 24 日付けで、「檀林寺遺跡」が「琴湖岳 (2) 遺跡」と共に「十三湊遺跡」に統合された。平成 17 年 7 月 14 には「十三湊遺跡・檀林寺跡地区」として国史跡指定を受けている。

〔遺跡番号〕38020
〔遺 跡 名〕欠　番（旧名：湊迎寺遺跡）
〔遺跡名ふりがな〕　　（旧名：そうごうじいせき）

〔種　　別〕寺社跡
〔主な時代〕中世
〔所 在 地〕十三古中道 151・154・155 － 1
〔北　　緯〕41 度 01 分 46 秒
〔東　　経〕140 度 19 分 37 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：十三湖西岸、前潟に面した十三集落のほぼ中央部。標高 4 mほどの砂丘地にある。
○現 況 等：五輪塔・宝篋印塔は境内の祠に安置されている。なお、五輪塔完形 1 点は市浦歴史民俗資料館で公開展示されている。
○確認・表採遺物：五輪塔・宝篋印塔などの石造物
○そ の 他：十三集落南端（十三深津 2 番地）の通称、長兵衛屋敷から完形の五輪塔が発見され、湊迎寺境内に移された。その他、十三集落から集められた石造物が同じ境内にある。出土地点の不明なものが多い。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕佐藤　仁　2005「十三湊の史跡と安藤氏の信仰」『十三湊遺跡（第Ⅰ分冊）』
青森県埋蔵文化財調査報告書　第 398 集
〔備　　考〕平成 6 年 6 月 20 日付けで、「湊迎寺遺跡」が「十三湊遺跡」として統一変更された。

〔遺跡番号〕38021
〔遺 跡 名〕五月女萢遺跡
〔遺跡名ふりがな〕そとめやちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（後・晩）、弥生、奈良
〔所 在 地〕相内 54、482、531、532、539、540、545、553、554
〔北　　緯〕41 度 03 分 26 秒
〔東　　経〕140 度 20 分 18 秒



第18図　五月女萢遺跡の位置（38021）

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北西岸の標高砂丘低地にある。中山山地を流れる南東の相内（あいうち）川、北の唐川（からかわ）に挟まれている。周辺には南北 2.5 ㎞、東西 800 mにわたって「五月女萢原（そとめやちがら）」と呼ばれる黒松による防風保安林の低地帯が広がっている。

○現 況 等：一帯は土砂採取によって、遺跡破壊が進んでいる。平成 17 年調査によって、現存する遺跡範囲（相内 545 番地）が明らかとなっている。

○確認・表採遺物：平成 17 年の発掘調査では、縄文時代後期末葉～晩期の土器のほか、石器・石製装飾品・獣骨・貝類・炭化種子が多数出土している。平成 19 年の試掘調査では続縄文土器（後北Ｃ２－Ｄ式）や奈良時代の土師器が出土している。

○そ の 他：昭和 50 年の開田事業によって土器や石器が出土し、遺跡が知られるようになったが、その後は盗掘が横行し、遺跡が消滅する事態にもなった。平成 17 年調査で縄文晩期前葉頃のヤマトシジミ主体の貝塚（貝層ブロック）が確認されている。

〔発掘履歴〕昭和 56 年、新谷雄蔵氏を調査担当者として、市浦村教育委員会が調査を行う。
平成 17 年に五所川原市教育委員会が遺跡範囲確認調査を行う。
平成 19 年に五所川原市教育委員会が試掘・確認調査を行い、続縄文土器及び奈良時代の土師器が採取されている。

〔文　　献〕新谷雄蔵・川村真一編 1983『市浦村五月女萢遺跡』市浦村教育委員会
五所川原市教育委員会 2006『五月女萢遺跡～市内遺跡発掘調査事業における埋蔵文化財発掘調査～』五所川原市埋蔵文化財調査報告第 27 集

〔備　　考〕平成９年に「五月女萢（1）遺跡」と「五月女萢（2）遺跡」を統合して、遺跡範囲の拡大が行われた。これは昭和 60 年３月４日付けで両遺跡を結ぶ箇所において出土遺物の報告があったことによる。

〔遺跡番号〕38022
〔遺 跡 名〕十三湊遺跡（旧名：琴湖岳遺跡）
〔遺跡名ふりがな〕とさみなといせき（旧名：きんこがくいせき）
〔種　　別〕集落跡（港湾）
〔主な時代〕縄文、平安、中世、近世
〔所 在 地〕十三（琴湖岳・古中道・通行道・深津）
〔北　　緯〕41 度 01 分 48 秒
〔東　　経〕140 度 19 分 43 秒
〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖西岸の砂丘低地にある中世・近世の港湾遺跡。十三集落と後背地に広がる畑地全域を範囲とする。

○現 況 等：前潟に沿った港湾部分には江戸時代以来の十三集落が南北に連なる。後背地には広く畑地が広がっている。平成 17 年 7 月 14 日に国史跡指定となった。その範囲は十三集落を外した部分であり、「港湾施設地区」、「町屋・武家屋敷・領主館地区」、「檀林寺跡地区」と定めている。

○確認・表採遺物：擦文土器、中世・近世陶磁器ほか多数ある。

○そ の 他：十三湊遺跡は『廻船式目（かいせんしきもく）』に記録される「三津七湊（さんしんしちそう）」の一つに数え挙げられ、中世に始まる典型的な港湾都市。全国的にみても北日本屈指の大規模に整備された港町であり、日本海を舞台に北方交易の玄関口として、西の博多に対比されるような国際港として日本史上極めて重要な意味をもつ遺跡である。平成３～５年度の国立歴史民俗博物館の調査以来、平成６年度から旧市浦村（五所川原市）が，平成７年度からは青森県教育委員会が、十三湊遺跡の発掘調査に着手し、遺跡の実態解明と国史跡指定を目指した取り組みを行なってきた。その結果、平成 17 年 5 月 20 日に国の文化財保護審議会が文部科学大臣に史跡指定答申をし、同年 7 月 14 日に十三湊遺跡が国史跡指定となった。

＜指定地の面積＞

234,193.69 ㎡（平成 17 年 7 月現在）

港湾施設地区	39,875.20 ㎡
町屋・武家屋敷・領主館地区	140,424.51 ㎡
檀林寺跡地区	53,893.98 ㎡

＜所有関係の概要＞

県有地＝ 2,529.19 ㎡　市有地＝ 32,613.91 ㎡、民有地＝ 198,636.59 ㎡

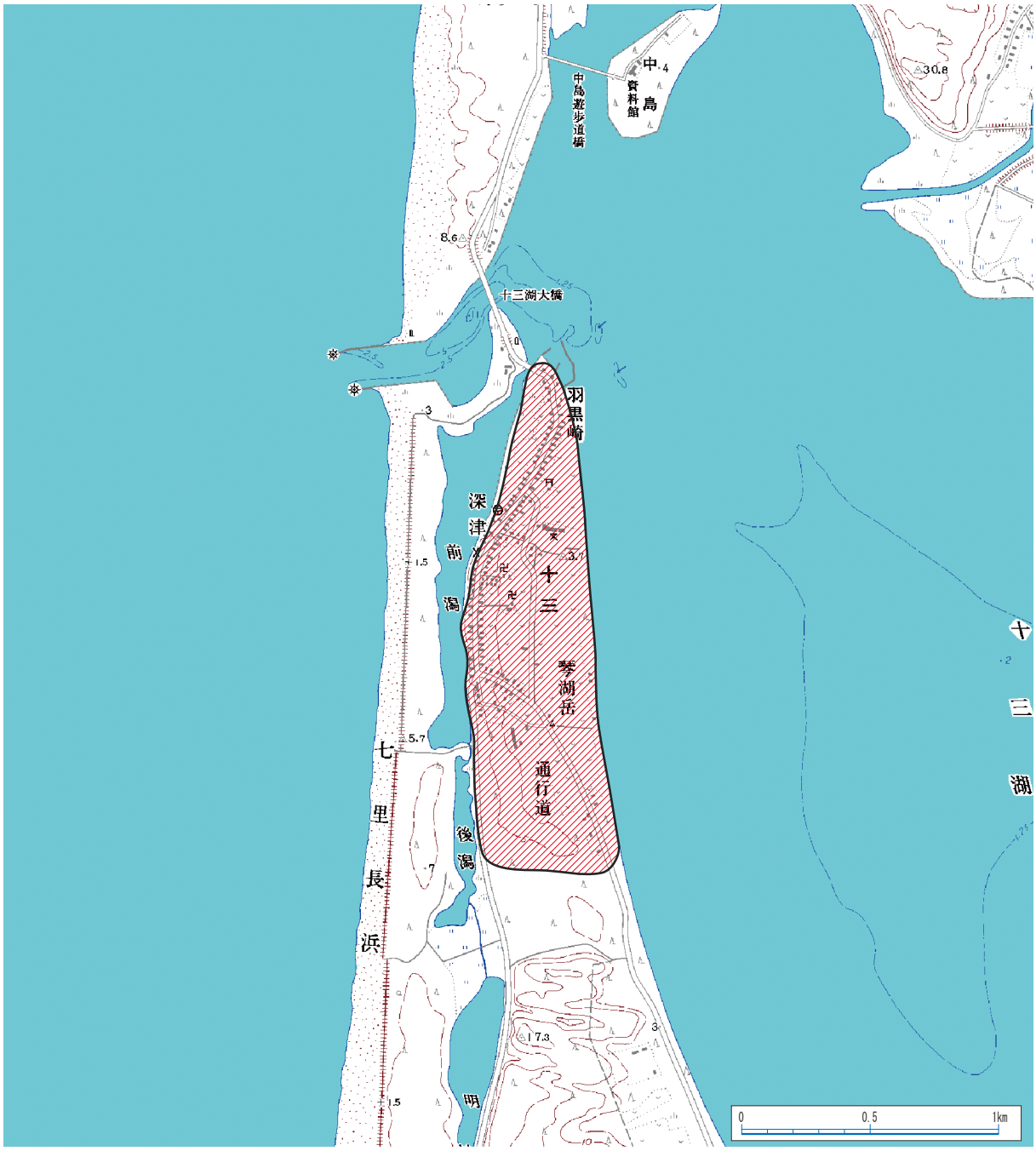
境内地＝ 414.00 ㎡

〔発掘履歴〕十三湊の考古学的調査は古くからあるが、本格的な調査は昭和 48 年の弘前大学、昭和 51 年の早稲田大学、平成３年～５年の国立歴史民俗博物館、平成６年以降の旧市浦村、平成７年以降の青森県教育委員会などがある。

〔文　　献〕国立歴史民俗博物館　1995「青森県十三湊遺跡・福島城跡の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 64 集

（上記のほか多数の報告書・論文等があるので省略する。）

〔備　　考〕平成６年６月 20 日付けで「琴湖岳遺跡」、「鉄砲台遺跡」、「湊迎寺遺跡」が「十三湊遺跡」に統一変更され、全域が中世港湾都市遺跡として認識されるに至った。さらに平成９年度の漁業排水事業（下水道設置）に伴う発掘調査の結果、平成 10 年２月 24 日に「檀林寺遺跡」と「琴湖岳（２）遺跡」が十三湊遺跡に統合された。



第19図　十三湊遺跡の位置(38022)

〔遺跡番号〕38023

〔遺　跡　名〕欠　番（旧名：鉄砲台遺跡）

〔遺跡名ふりがな〕　　（旧名：てっぽうだいいせき）

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕中世

〔所　在　地〕十三通行道 103 ― (88・97・98・100 ～ 107)

〔北　　緯〕41 度 01 分 29 秒

〔東　　経〕140 度 19 分 34 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖西岸、十三集落南西端の前潟に面した標高３～４ｍの砂丘地。通称「鉄砲台」と呼ばれ、幕末に弘前藩が異国船防備のために台場を設置した場所に由来する。

○現況等：現在、台場跡一帯は住宅地となっており、かつて古銭が出土した正確な地点は把握できていない。

○確認・表採遺物：昭和 35 年 11 月 26 日に地下約 1.3 ｍのところで偶然埋納銭が発見された。

○その他：埋納銭は丸太を刳り貫いた中から約 23,542 枚、重量にして 22 貫 350 匁（83.8kg）もあった。銭種は永楽通宝（明代・1408 年初鋳）が最新銭である。銭種調査は成田末五郎氏が行っている。埋納時期は 15 世紀後半とみられる。

〔発掘履歴〕昭和 35 年 11 月 26 日（不時発見）

〔文　　献〕裕光　1962「市浦村十三出土古銭調査」『東奥文化』第 21 号　青森県文化財保護協会

榊原滋高　2003「十三湊遺跡」『青森県史　資料編考古 4　中世・近世』青森県史編さん考古部会

豊島勝蔵　1984「鉄砲台遺跡」『市浦村史』第一巻　市浦村

〔備　　考〕平成６年６月 20 日付けで、「鉄砲台遺跡」が「十三湊遺跡」として統一変更された。

〔遺跡番号〕38024

〔遺跡名〕欠　番（旧名：五月女萢（2）遺跡）

〔遺跡名ふりがな〕　　（旧名：そとめやちかっこにいせき）

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（晩）

〔所在地〕相内 482

〔北　　緯〕41 度 03 分 32 秒

〔東　　経〕140 度 20 分 30 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北西岸の標高砂丘低地にある。

○現況等：土砂採取等で遺跡破壊が進んでいる。

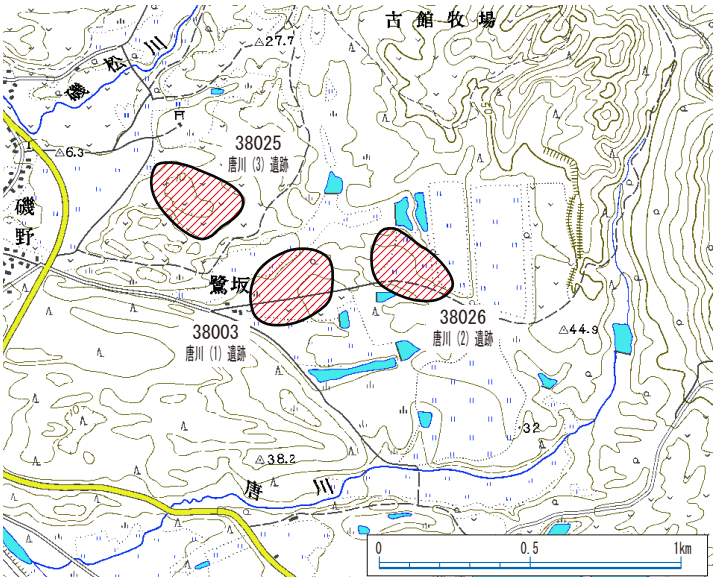
○確認・表採遺物：平成元年に青森県教育庁文化課による分布調査によって、縄文晩期の土器片、フレイク（黒曜石・珪質頁岩）が採取されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1990『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 131 集

〔備　　考〕「五月女萢（2）遺跡」は平成９年に「五月女萢（1）遺跡」と統合し、「五月女萢遺跡」として名称変更され、範囲が拡大した。

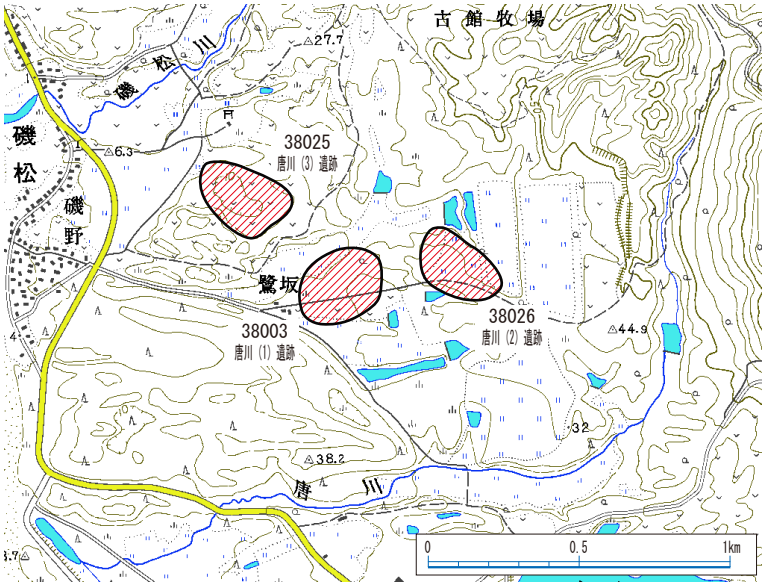
〔遺跡番号〕38025
〔遺　跡　名〕唐川（3）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕からかわかっこさんいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文、平安
〔所　在　地〕磯松磯野
272 － (84 ～ 87・90 ～ 95
・126 ～ 128・155 ～ 157)
〔北　　緯〕41 度 04 分 37 秒
〔東　　経〕140 度 20 分 03 秒



第20図　唐川(3)遺跡の位置(38025)

〔遺跡概要〕
○立地・範囲：十三湖北岸、唐川城西麓に位置する。磯松川と唐川に挟まれた日本海を望む標高 20 ～ 30 mの丘陵地にある。
○現　況　等：畑地、荒地等になっており、保存状況は良好である。
○確認・表採遺物：発掘調査によって縄文土器片、土師器片が出土している。
○そ　の　他：昭和 36 年調査時には多くの竪穴住居跡とみられる窪地が確認されたというが、昭和 40 年代後半に畑地として開発され、現在は荒地が多い。
〔発掘履歴〕平成 14 年度の文化財パトロール中に土砂採取が行われ、一部遺物が確認されたので、平成 14 年 8 月に発掘調査が市浦村教育委員会によって行われた。
〔文　　献〕市浦村教育委員会　2004『市浦村内遺跡発掘調査事業報告書Ⅰ　唐川（3）遺跡・ニツ沼遺跡』

〔遺跡番号〕38026
〔遺　跡　名〕唐川（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕からかわかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕磯松唐皮 13 － 22
〔北　　緯〕41 度 04 分 27 秒
〔東　　経〕140 度 20 分 33 秒



第21図　唐川(2)遺跡の位置(38026)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、唐川城西麓に位置する。磯松川と唐川に挟まれた日本海を望む標高 30 ～ 50 mの丘陵地にある。

○現 況 等：一帯は土砂採取による荒地、無住の屋敷地などがあり、遺跡破壊が進んでおり、確認は困難である。

○確認・表採遺物：なし

○そ の 他：昭和 36 年調査時には多くの竪穴住居跡とみられる窪地が確認されたというが、昭和 40 年代後半に開発が進み、現在は荒地となっている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕38027

〔遺 跡 名〕実取（2）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕みとりかっこにいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕平安

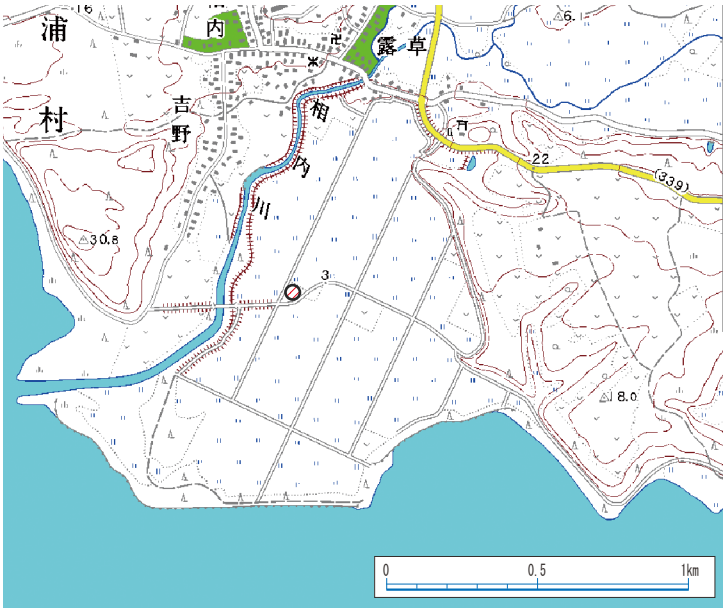
〔所 在 地〕相内実取 423

〔北　　緯〕41 度 02 分 43 秒

〔東　　経〕140 度 21 分 16 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：十三湖北岸、相内川の河口付近の沖積地にある。かつては河川の自然堤防上にあったとみられるが、圃場整備が進み、周囲は水田に囲まれている。



第22図　実取(2)遺跡の位置(38027)

○現 況 等：市浦相内浄化センターが建設され、遺跡は完全に消滅している。

○確認・表採遺物：発掘調査によって、井戸跡から擦文土器（50 片）、木製品、植物遺存体が出土している。

○そ の 他：平安時代の井戸跡から、北海道を起源とする擦文土器が多数出土したことが注目される。

〔発掘履歴〕平成 13 年 6 月 25 日に市浦村教育委員会による発掘調査が行われる。

〔文　　献〕市浦村教育委員会　2002『実取（2）遺跡～平成 13 年度市浦村特定環境保全公共下水道事業に伴う埋蔵文化財調査報告～』

〔遺跡番号〕38028
〔遺 跡 名〕欠　番（旧名：琴湖岳（2）遺跡）
〔遺跡名ふりがな〕　　（旧名：きんこがくかっこにいせき）
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文、平安、中世、近世
〔所 在 地〕十三琴湖岳 533-16
〔北　　緯〕41 度 01 分 09 秒
〔東　　経〕140 度 19 分 55 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：十三湖西側の標高 3 mほどの砂丘低地で、十三湖に面した立地環境にある。十三湖西岸の砂丘低地にある。十三湊遺跡が立地する砂州の南端部、檀林寺跡の南東側隣接地にあたる。
○現 況 等：発掘調査が行われた場所は県道部分となったが、周辺は黒松による保安林となっており、遺跡は良好に残っているものとみられる。
○確認・表採遺物：発掘調査によって、縄文土器（円筒上層 b 式）、古代の土師器・擦文土器、中世の古瀬戸・珠洲焼、近世の肥前陶磁が出土している（平成 7 年度調査）。
○そ の 他：古代の区画溝や土坑が検出されている（平成 7 年度調査）。
〔発掘履歴〕平成 7 年度に県道拡幅工事に伴う発掘調査が青森県教育委員会によって実施されている。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1996『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 201 集
青森県教育委員会 1997『琴湖岳（2）遺跡―県道鯵ヶ沢蟹田道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 226 集
〔備　　考〕平成 7 年度に遺跡登録された。
平成 10 年 2 月 24 日付けで、「琴湖岳（2）遺跡」が「檀林寺遺跡」と共に「十三湊遺跡」に統合された。

1. 磯松砂山遺跡（南から）

2. 磯松砂山遺跡（北から）

3. 古館遺跡と磯松（市銘木）（南から）

4. 古館遺跡（南から）

5. 唐川（1）遺跡（西から）

6. 唐川（1）遺跡（西から）

7. ナガレ山遺跡（北西から）

8. 磯松遺跡（東から）

写真1　市浦地区遺跡分布調査写真（1）

1. 磯松遺跡（西から）

2. 笹畑遺跡（南から）

4. 笹畑遺跡（北から）

4. ニツ沼遺跡（西から）

5. 山王坊遺跡（北から）

6. 山王坊遺跡（西から）

7. 山王坊遺跡（北西から）

8. 唐川城跡（南から）

写真2　市浦地区遺跡分布調査写真（2）

1. 岩井大沼遺跡（南から）

2. 岩井大沼遺跡（南から）

3. 赤坂遺跡（北東から）

4. 赤坂遺跡の竪穴住居跡（東から）

5. 露草遺跡（南から）

6. オセドウ貝塚（南西から）

7. オセドウ貝塚（西から）

8. オセドウ貝塚の神明宮（西から）

写真3　市浦地区遺跡分布調査写真（3）

1. 実取(1)遺跡(北から)

2. 実取(1)遺跡(東から)

3. 福島城跡の内郭(北東から)

4. 福島城跡の内郭(北西から)

5. 蛇石遺跡(北から)

6. 中島遺跡(北から)

7. 中島遺跡(南から)

8. 五月女萢遺跡(南西から)

写真4　市浦地区遺跡分布調査写真(4)

1. 五月女萢遺跡の盗掘坑（南から）

2. 唐川(3)遺跡（南西から）

3. 唐川(3)遺跡（南から）

4. 唐川(3)遺跡（西から）

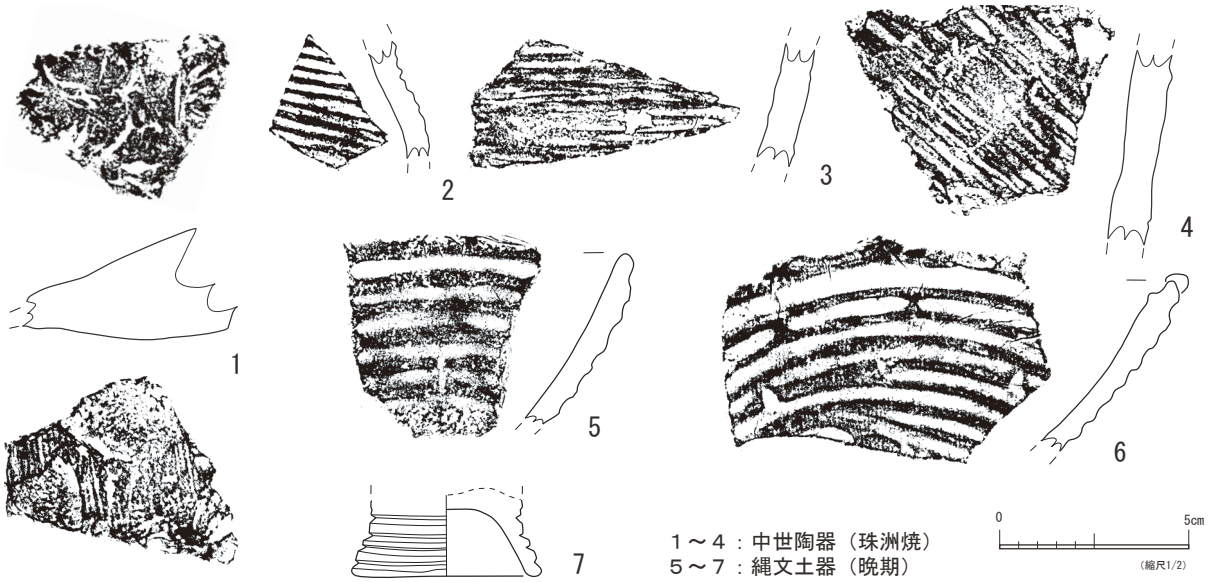
5. 唐川(2)遺跡（南から）

6. 唐川(2)遺跡（南から）

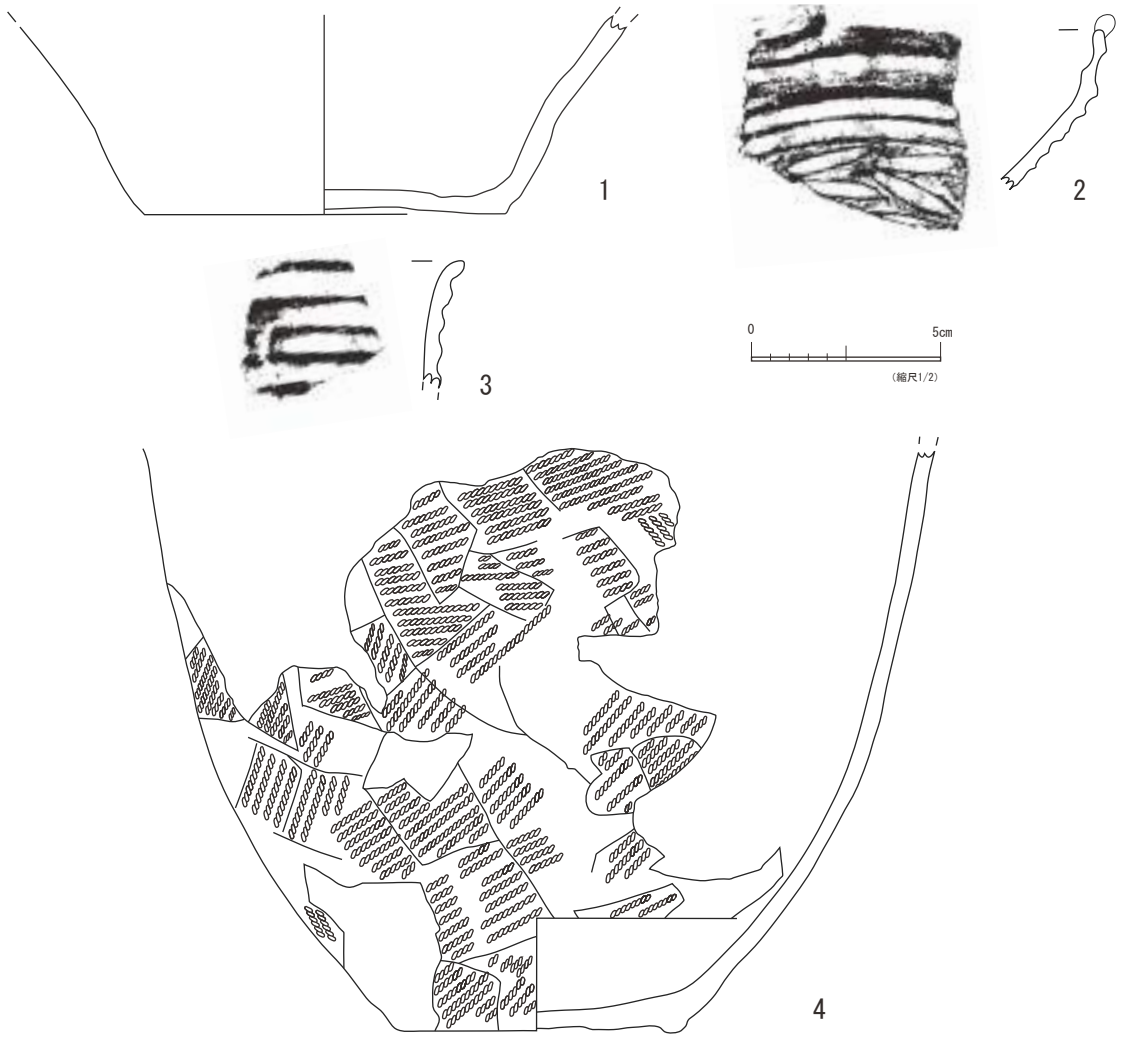
7. 実取(2)遺跡（北西から）

8. 赤坂遺跡隣接地（北西から）

写真5　市浦地区遺跡分布調査写真(5)



図版1　福島城跡表採資料



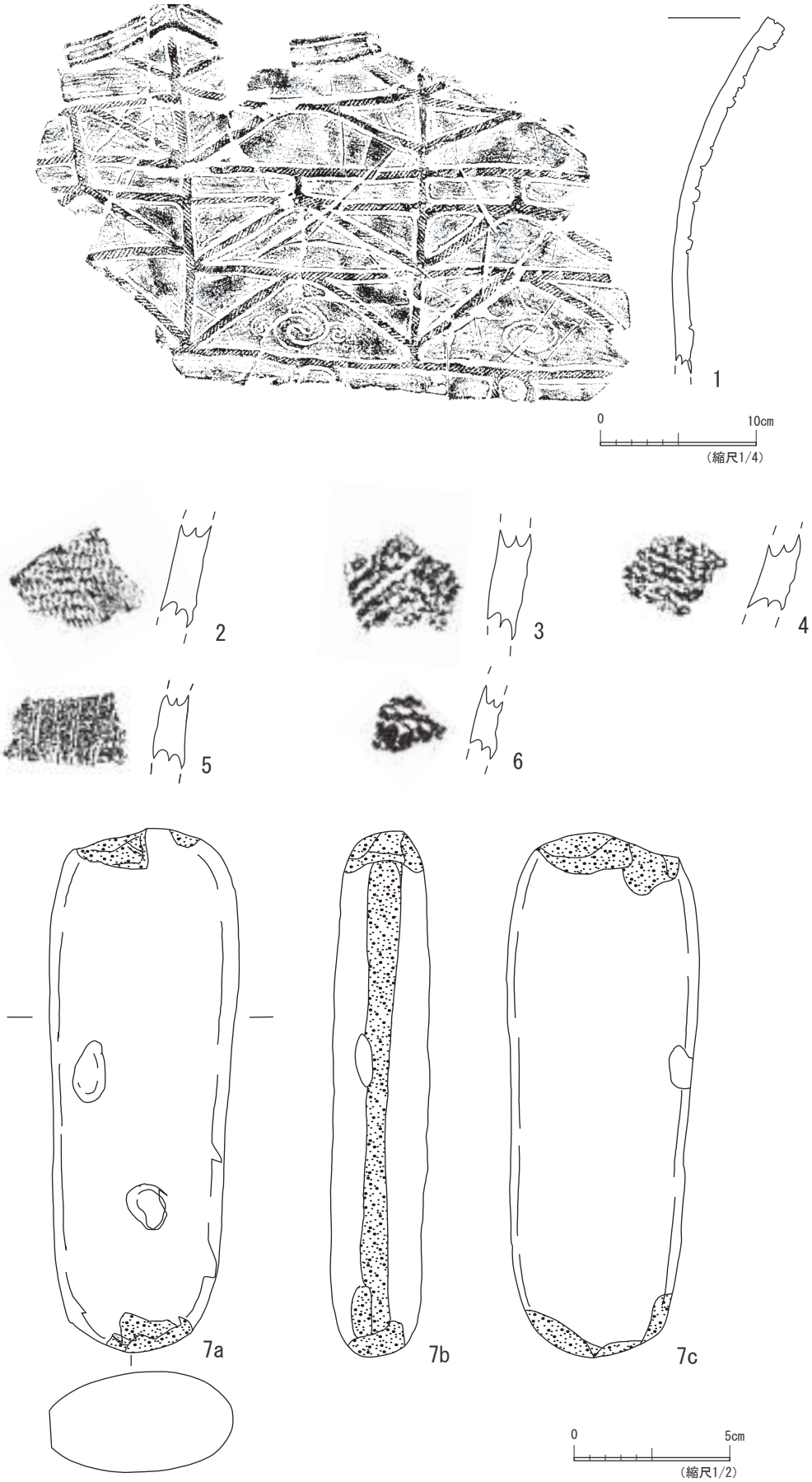
1～4：縄文土器（晩期）

図版2　岩井大沼遺跡表採資料1

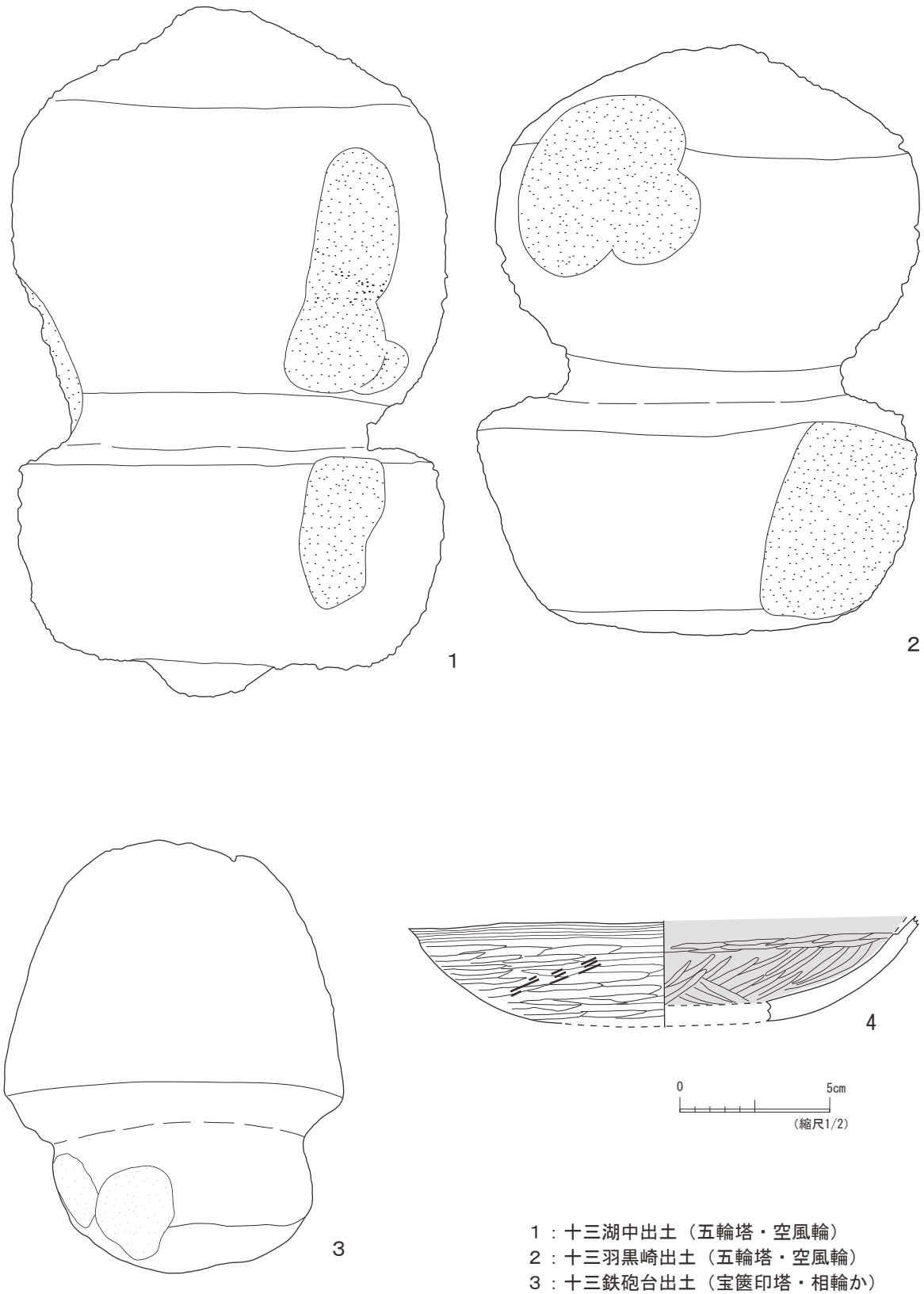
（１～３は同一個体）

十腰内Ⅰ式土器（縄文後期前半）
昭和61年８月採取

図版３　岩井大沼遺跡表採資料２



図版４　笹畑遺跡表採資料



１：十三湖中出土（五輪塔・空風輪）
２：十三羽黒崎出土（五輪塔・空風輪）
３：十三鉄砲台出土（宝篋印塔・相輪か）
４：中島遺跡出土（内黒土師器坏・奈良時代）

図版５　十三湊遺跡・十三湖周辺・中島遺跡表採資料

第３章　五所川原市・金木地区の遺跡

〔遺跡番号〕35001

〔遺 跡 名〕千苅（１）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕せんがりかっこいちいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕縄文（晩）、近世

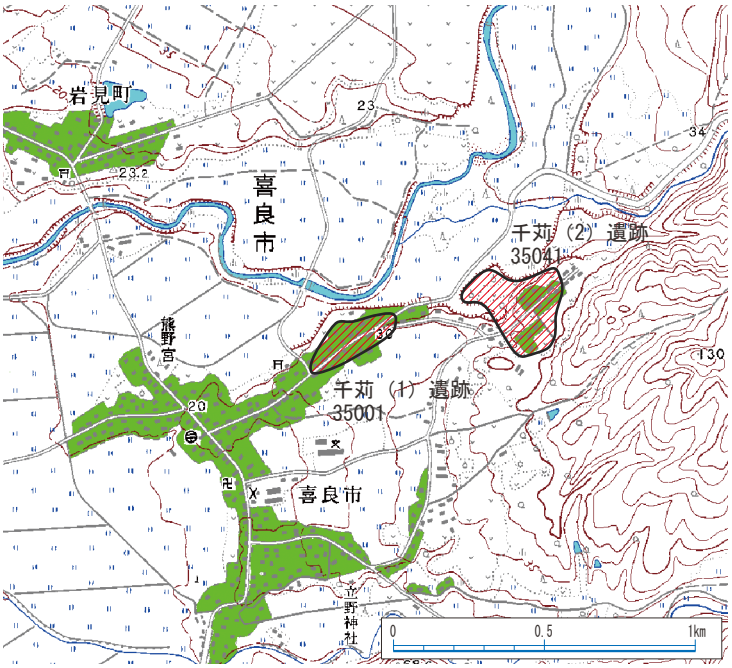
〔所 在 地〕金木町喜良市千苅53ほか

〔北　　緯〕40度53分49秒

〔東　　経〕140度29分12秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：金木川南岸の河岸段丘上に位置し、標高は約30ｍ程である。遺跡の範囲は、東西40ｍ、南北40ｍである。



第23図　千苅(1)遺跡の位置(35001)

○現 況 等：宅地及び畑地であり、宅地化が進行している。

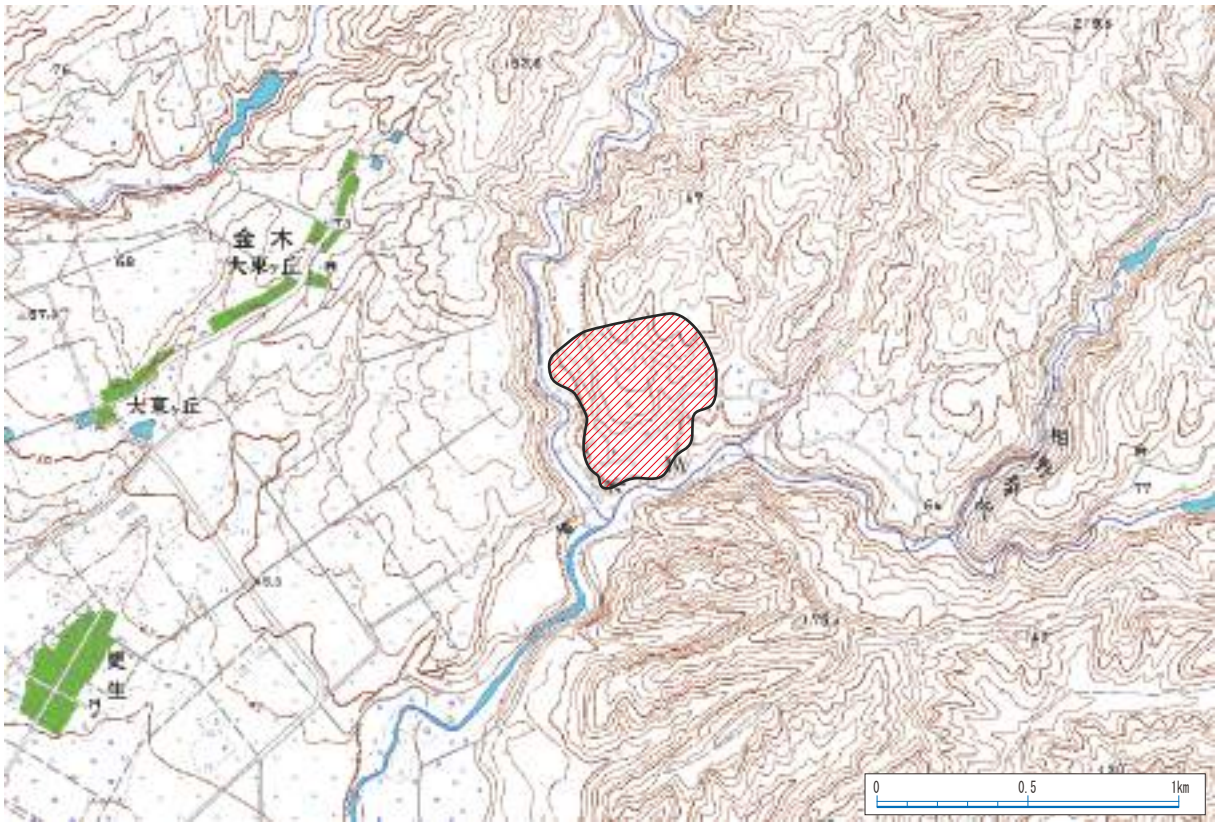
○確認・表採遺物：表採資料として壺形土器、深鉢、皿形土器、鉢形土器、石器、石刀、石斧、石匙岩版、凹石、石棒があるが、殆どの遺物が散逸している。一部、喜良市小学校で保管されている。青森県埋蔵文化財調査センターによる発掘調査では縄文時代晩期（大洞Ｃ１式～Ａ式）の土器が多数出土している。また、近世の墓地と銭貨埋設遺構が確認され、人骨７体分と陶磁器、銭貨が出土している。

○そ の 他：なし

〔発掘履歴〕平成６年に青森県埋蔵文化財調査センターによって、発掘調査が実施されている。

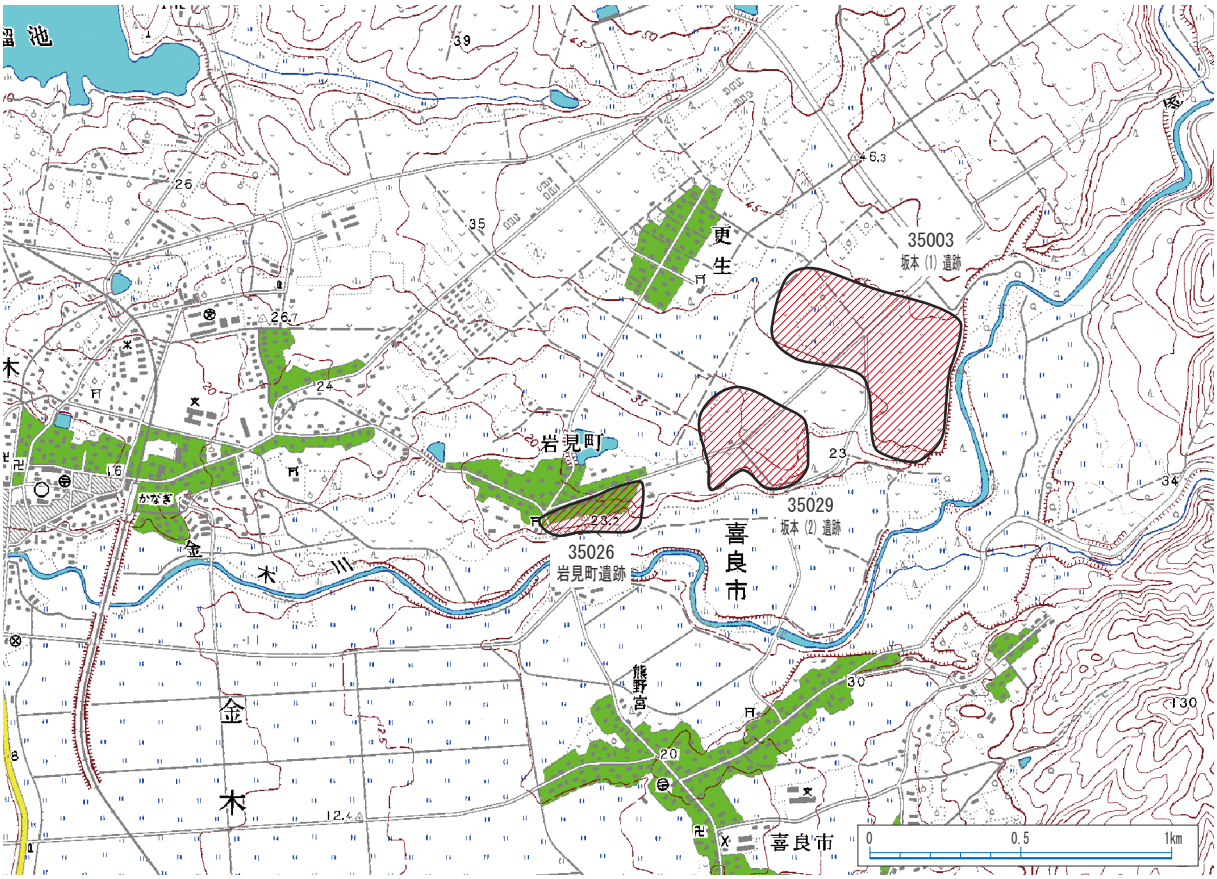
〔文　　献〕金木高等学校郷土研究部編 1971「特集　千苅遺跡」『東日流』第７号
竹内正光 1977「千苅遺跡出土の銅釧について」『考古風土記』第２号
青森県教育委員会 1995『千苅（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第174集

〔遺跡番号〕35002
〔遺　跡　名〕相野山（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕あいのやまかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕旧石器
〔所　在　地〕金木町芦野 644、645
〔北　　緯〕40 度 55 分 13 秒
〔東　　経〕140 度 30 分 17 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：金木川渓谷にのぞむ丘陵平坦部に位置し、標高は約 80 mである。範囲は東西 50 m、南北 50 mである。土取り及び、道路と田の造成により、殆ど遺跡が消滅している。
○現　況　等：原野（田は休耕田であり、原野化している。）
○確認・表採遺物：表採資料として後期旧石器時代と考えられる石槍やスクレイパーがあり、青森県立郷土館で保管している。
○そ　の　他：平成 18 年３月３日に相野山遺跡から相野山（１）遺跡に名称変更されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし



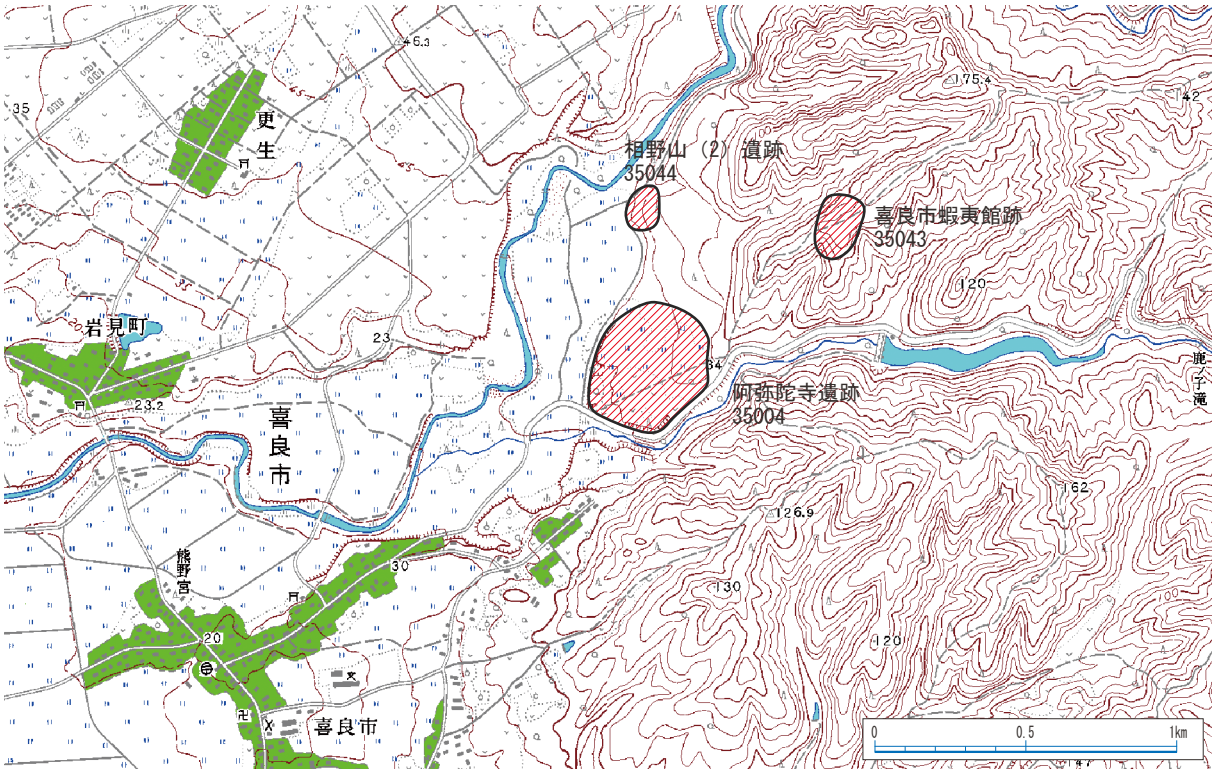
第24図　相野山(1)遺跡の位置(35002)

〔遺跡番号〕38003
〔遺　跡　名〕坂本（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕さかもとかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町喜良市坂本 56 ほか
〔北　　緯〕40 度 54 分 28 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 4 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：金木川北岸の更生部落内にあり、芦野方面よりなだらかに南に傾斜する台地上に位置する。
○現　況　等：畑地及び原野であり、遺跡の残存状況は良好であると考えられる。
○確認・表採遺物：昭和 36 年の確認調査では竪穴住居跡群が確認できたというが、現況は不明である。表採資料として土師器がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし



第25図　坂本(1)遺跡の位置(35003)

〔遺跡番号〕35004
〔遺　跡　名〕阿弥陀寺遺跡
〔遺跡名ふりがな〕あみだじいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町喜良市相野山 190 ほか
〔北　　緯〕40 度 54 分 11 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 53 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：喜良市中心部の東方金木川と高橋沢に挟まれた微高地上に位置し、東西約 150m、南北約 100 mの範囲である。
○現　況　等：畑地と原野である。すでに周辺では土取りが行われており、遺跡が破壊されている。
○確認・表採遺物：表採資料として、土師器片、須恵器片がある。また、かつて井戸を掘ったときにほぼ完全な土器（時代不明）を発見したという（所在不明）。
○そ　の　他：通称「阿弥陀寺」と呼ばれ、寺院跡と伝えられている。また、当遺跡一帯は旧喜良市集落の跡地であると言われている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし



第26図　阿弥陀寺遺跡の位置（35004）

〔遺跡番号〕35005

〔遺　跡　名〕嘉瀬（1）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かせかっこいちいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（前）、平安

〔所　在　地〕金木町上端山崎 115-1 ほか

〔北　　緯〕40 度 52 分 54 秒

〔東　　経〕140 度 28 分 16 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：小田川南岸の台地上に位置し、嘉瀬三十三観音の霊場付近及び金木南中南側の県道の南部一帯に位置する。

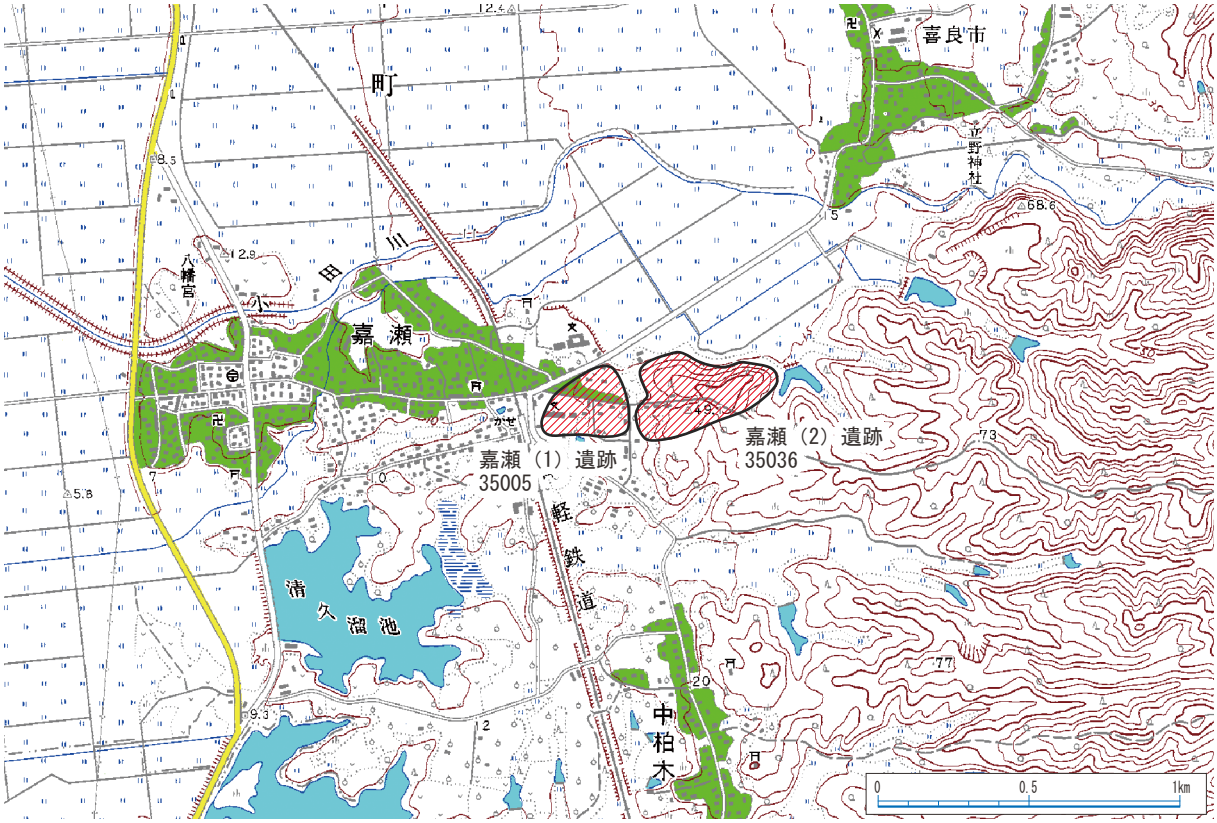
○現　況　等：三十三観音霊場付近の保存状況は良好であるが、県道付近は宅地化が進行している。

○確認・表採遺物：表採資料として、三十三観音石仏のある斜面上から縄文時代前期の土器、県道の南側から土師器・須恵器片がある。

○そ　の　他：なし

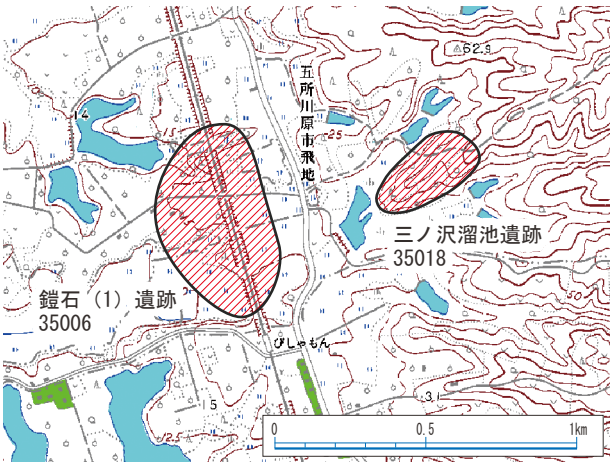
〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕なし



第27図　嘉瀬(1)遺跡の位置(35005)

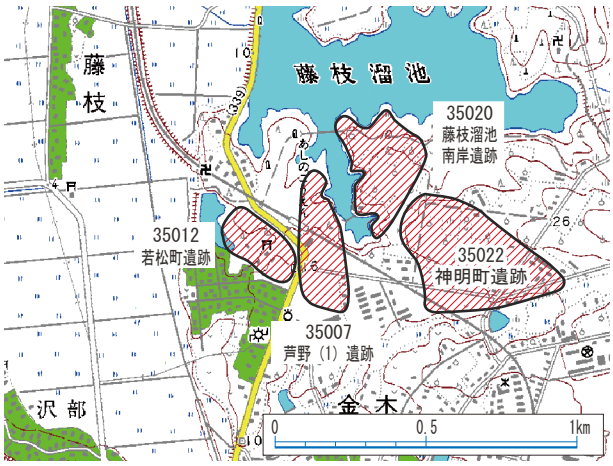
〔遺跡番号〕35006
〔遺　跡　名〕鎧石（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕よろいいしかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（後・晩）
〔所　在　地〕金木町中柏木鎧石 52
〔北　　緯〕40 度 52 分 54 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 16 秒
〔遺跡概要〕



第28図　鎧石(1)遺跡の位置(35006)

○立地・範囲：津軽鉄道毘沙門駅北側陸橋の両側の台地上、東西約 320 m、南北約 620 mの範囲に位置する。
○現 況 等：水田、リンゴ畑であり、保存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文時代後期及び晩期の土器片がある。
○そ の 他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕35007
〔遺　跡　名〕芦野（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕あしのかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町芦野 234
〔北　　緯〕40 度 54 分 42 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 09 秒



第29図　芦野(1)遺跡の位置(35007)

〔遺跡概要〕
○立地・範囲：藤枝溜池南岸、津軽鉄道芦野公園駅東側線路を挟んだ畑一帯に位置し、東西約 140 m、南北約 450 mの範囲である。
○現 況 等：畑地であり、一部宅地化が進行している。
○確認・表採遺物：表採資料として土師器片がある。
○そ の 他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1979「青森県遺跡詳細分布調査報告書」
青森県埋蔵文化財調査報告書第 58 集

〔遺跡番号〕35008

〔遺 跡 名〕芦野（2）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕あしのかっこにいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（早～晩）

〔所 在 地〕金木町川倉七夕野 83

〔北　　緯〕40 度 54 分 59 秒

〔東　　経〕140 度 27 分 34 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：藤枝溜池北東岸の尾根先端部に位置し、標高は約 10 mであり、範囲は東西約 95 m、南北 95 mである。

○現 況 等：溜池内に水没している。

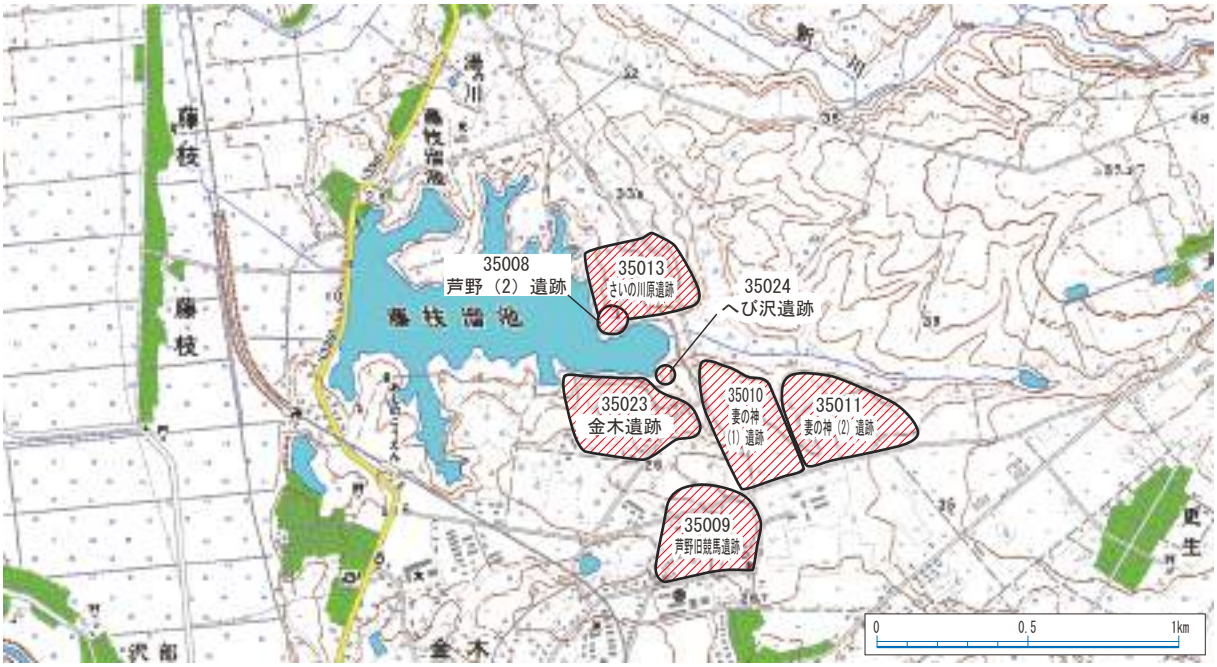
○確認・表採遺物：名久井文明氏により発掘調査が実施され、縄文時代早期から晩期の土器片、石錘、石鏃、石槍、磨製石斧、石匙、砥石、土錘が出土している（青森県立郷土館に寄贈）。

○そ の 他：名久井氏の調査では遺物包含層は 3 層に分層され、各時期の土器が出土しているが、そのうち円筒下層式土器以前の土器が層位的に出土している遺跡として貴重である。

〔発掘履歴〕1946 年に名久井文明氏により発掘調査が実施されている。

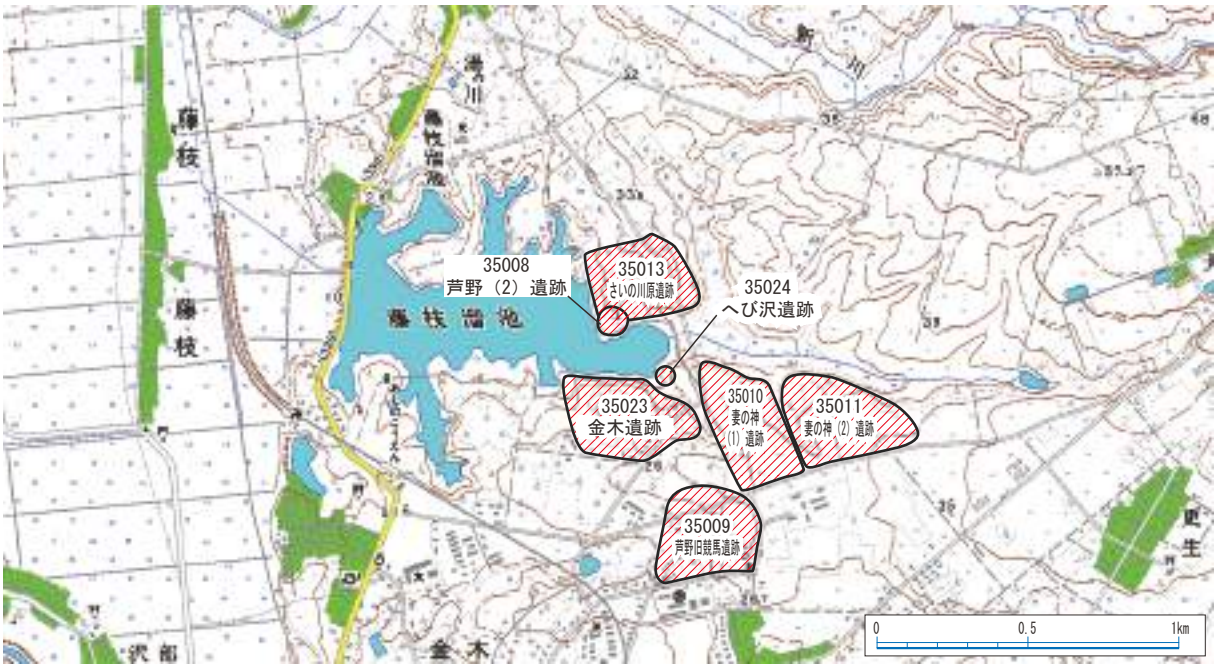
〔文　　献〕名久井文明 1971「青森県芦野遺跡の土器群について」『考古学雑誌』57 巻 2 号

村越潔 1973「東北北部における円筒下層式直前の土器」『北海道考古学』9 号



第30図　芦野(2)遺跡の位置(35008)

〔遺跡番号〕35009
〔遺　跡　名〕芦野旧競馬遺跡
〔遺跡名ふりがな〕あしのきゅうけいばいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（中）
〔所　在　地〕金木町芦野 559
〔北　　緯〕40 度 54 分 36 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 50 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：旧競馬場付近の北側標高約 25 ～ 30 mの緩やかな傾斜地に位置し、東西約 285 m、南北約 285 mの範囲である。
○現　況　等：畑地及び宅地であるが、平成 16 年から 17 年にかけて急速に宅地化が進んでいる。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文中期の土器片が多数出土している（所在不明）。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし



第31図　芦野旧競馬遺跡の位置（35009）

〔遺跡番号〕35010

〔遺 跡 名〕妻の神（1）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕さいのかみかっこいちいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕縄文（前・中・後）、平安

〔所 在 地〕金木町芦野 200、840

〔北　　緯〕40 度 54 分 48 秒

〔東　　経〕140 度 27 分 56 秒

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：藤枝溜池の東、妻の神沢南岸の台地上に位置し、東西約 150 m、南北約 150 mの範囲である。

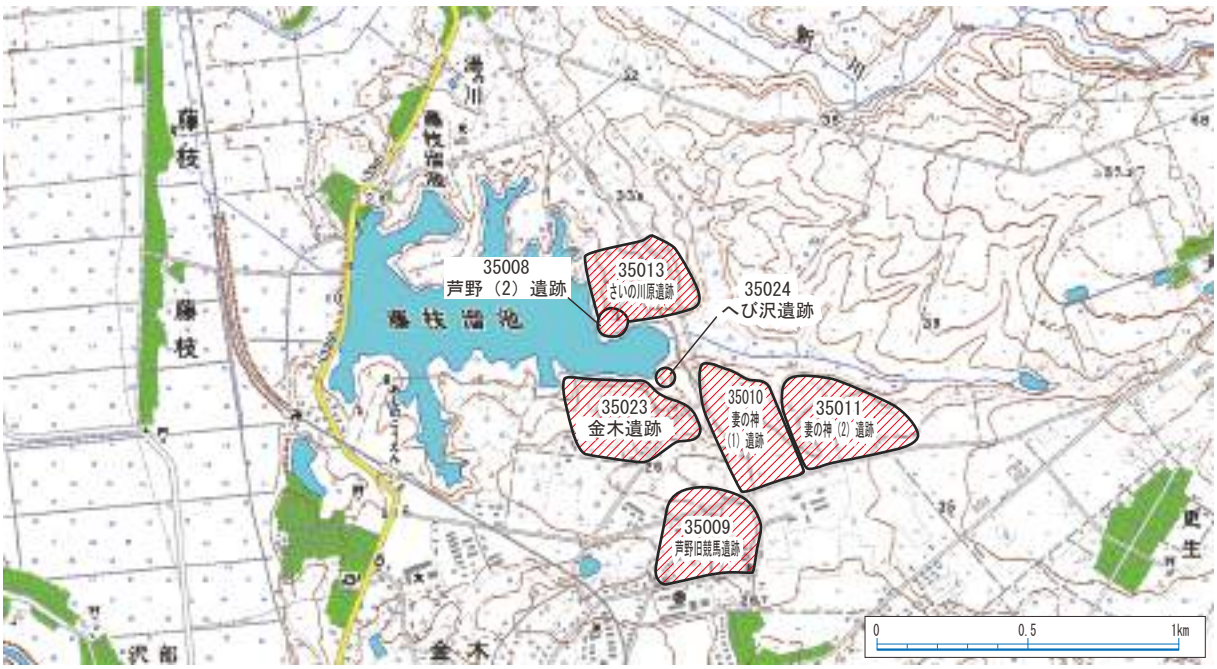
○現 況 等：畑、原野、宅地であり、道路周辺では宅地化が進行している。

○確認・表採遺物：発掘調査によって、縄文時代前～後期の土器、土偶、土製品、石器、石製品、平安時代の土師器が出土している（青森県埋蔵文化財調査センター、一部金木町歴史民俗資料館で保管）。

○そ の 他：発掘調査により、縄文時代の土坑、住居跡、石組炉、ピットと平安時代の竪穴住居跡が検出されている。

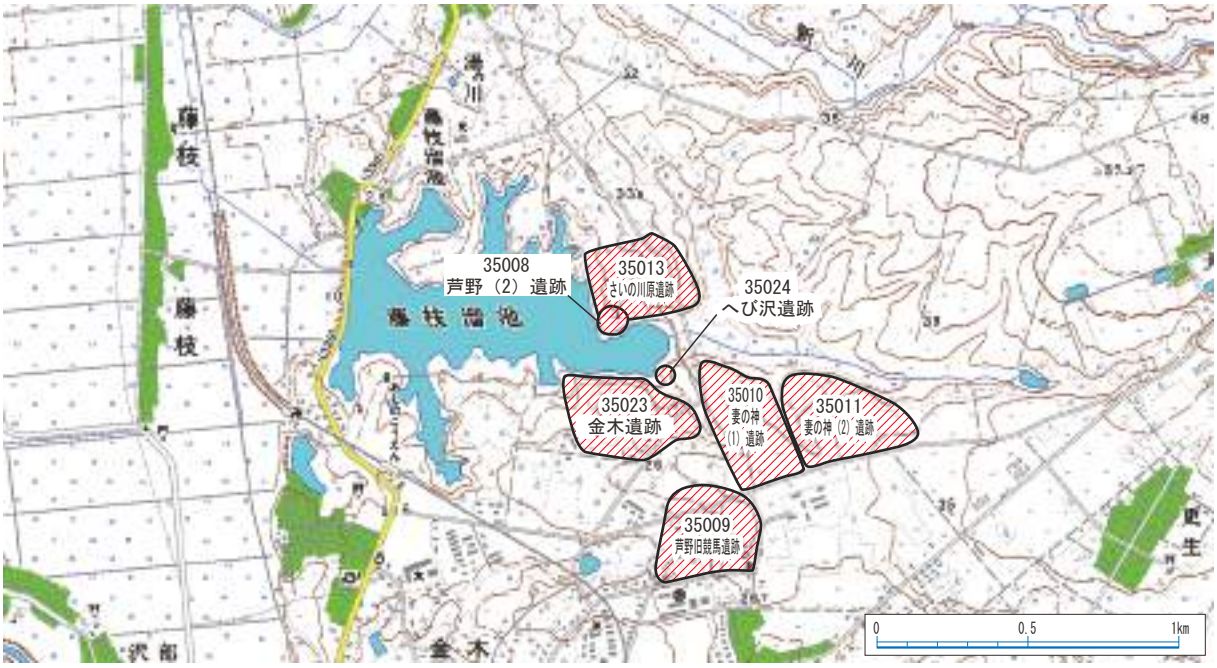
〔発掘履歴〕青森県教育委員会により昭和 50 年に発掘調査が実施されている。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1976『妻の神遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 30 集



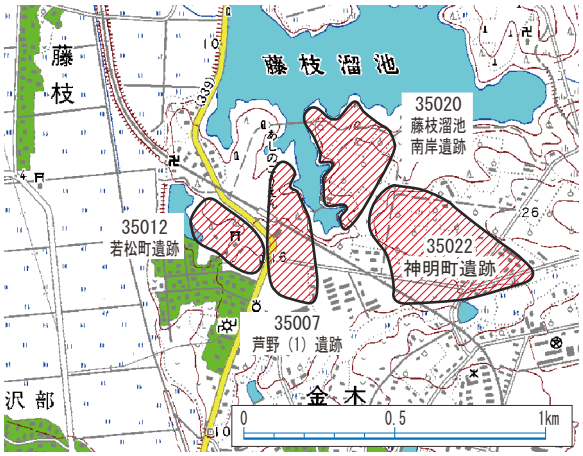
第32図　妻の神(1)遺跡の位置(35010)

〔遺跡番号〕35011
〔遺　跡　名〕妻の神（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕さいのかみかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（後）
〔所　在　地〕金木町芦野 550 ～ 559
〔北　　緯〕40 度 54 分 48 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 9 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：藤枝溜池の東、妻の神沢南岸の台地上に位置し、東西約 200 m、南北約 150 mの範囲である。
○現　況　等：畑、山林、原野であり、保存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文後期の土器、凹石、石錘、石斧、石刀、石槍、石錐、石皿がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県立金木高等学校郷土研究部編　1970『東日流』5・6 合併号
青森県立金木高等学校郷土研究部編　1972『東日流』8 号



第33図　妻の神(2)遺跡の位置(35011)

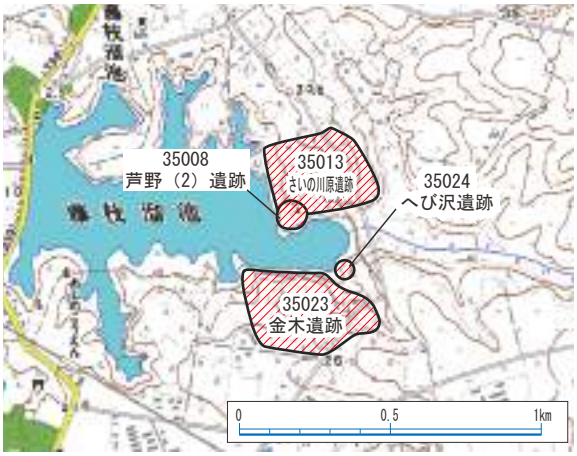
〔遺跡番号〕35012
〔遺　跡　名〕若松町遺跡
〔遺跡名ふりがな〕わかまつちょういせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町芦野若松町 265
〔北　　緯〕40 度 54 分 41 秒
〔東　　経〕140 度 26 分 59 秒
〔遺跡概要〕



第34図　若松町遺跡の位置(35012)

○立地・範囲：藤枝溜池の南東岸、妙廣稲荷神社周辺の台地上に位置し、東西約 215 m、南北約 240 mの範囲である。
○現　況　等：原野、山林であり、一部宅地化が進んでいる。
○確認・表採遺物：表採資料として土師器片がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕35013
〔遺　跡　名〕さいの川原遺跡
〔遺跡名ふりがな〕さいのかわらいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文、平安
〔所　在　地〕金木町川倉七夕野 94
〔北　　緯〕40 度 55 分 04 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 42 秒
〔遺跡概要〕



第35図　さいの川原遺跡の位置(35013)

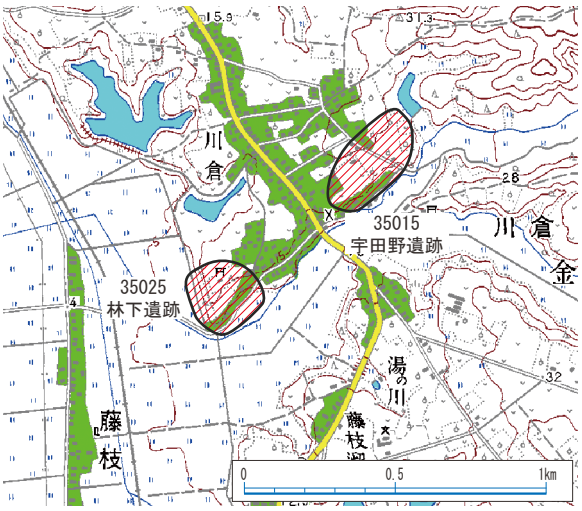
○立地・範囲：藤枝溜池の東岸、賽の川原地蔵尊周辺及びその北方の台地上に位置し、東西約 380 m、南北約 260 mの範囲である。
○現　況　等：山林、畑であるが、開田や重機による整地等で地形が変化している。また、遊歩道建設により一部破壊されている。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文土器片、土師器片、石器がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕35014
〔遺　跡　名〕湯の川遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ゆのかわいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町川倉七夕野 84-1324
〔北　　緯〕40 度 55 分 18 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 05 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：藤枝溜池の北東岸、津軽平野低湿地帯に伸びる舌状台地上に位置し、東西約 50 m、南北 100 mの範囲である。

第36図　湯の川遺跡の位置(35014)

○現　況　等：畑であるが、宅地化がかなり進行している。
○確認・表採遺物：表採資料として、土師器、須恵器がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕35015
〔遺　跡　名〕宇田野遺跡
〔遺跡名ふりがな〕うたのいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町川倉宇田野 145-1,155-46
〔北　　緯〕40 度 55 分 48 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 11 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：大沢内溜池南岸の台地に位置し、標高は 20 mを測る。
旧川倉火葬場付近からトヤ溜池西岸の畑までの東西約 260 m、南北約 330 mの範囲である。



第37図　宇田野遺跡の位置(35015)

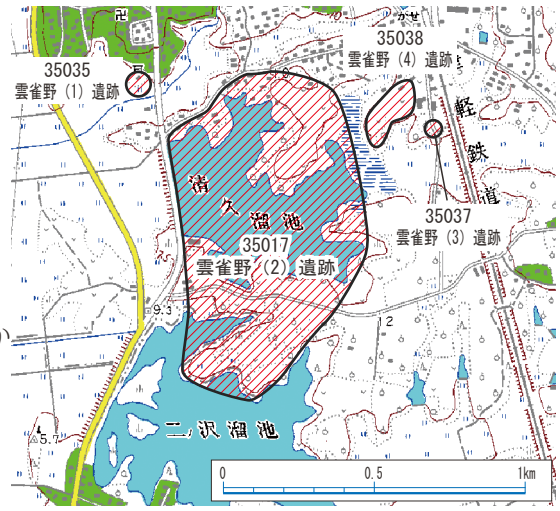
○現　況　等：畑地であるが、市道沿いに宅地化が進行している。
○確認・表採遺物：表採資料として土師器、須恵器片がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕35016
〔遺　跡　名〕川倉小学校遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かわくらしょうがっこういせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（中・後・晩）、平安
〔所　在　地〕金木町川倉七夕野 84-66
〔北　　緯〕40 度 55 分 15 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 15 秒
〔遺跡概要〕

第38図　川倉小学校遺跡の位置(35016)

○立地・範囲：藤枝溜池北岸の舌状台地及びその北方台地上に位置し、東西約 450 m、南北約 600 mの範囲である。
○現　況　等：宅地、学校、畑、原野であり、宅地化が進行している。
○確認・表採遺物：川倉小学校建設の際、土師器・須恵器が採集されている。発掘調査により、縄文時代晩期の土器片、石器、平安時代の土師器、須恵器、土錘、砥石、羽口、鉄滓が出土している。
○そ　の　他：発掘調査により 10 世紀初頭～中葉の竪穴住居跡 7 棟が検出された。
〔発掘履歴〕平成 16 年に五所川原市教育委員会により発掘調査が実施された。
〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2006『川倉小学校遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 28 集

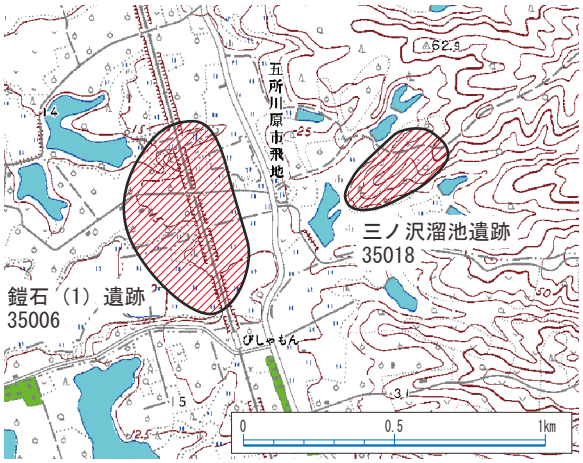
〔遺跡番号〕35017
〔遺　跡　名〕雲雀野（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ひばりのかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（後）、弥生、平安
〔所　在　地〕金木町嘉瀬雲雀野 64-66、74-1 ほか
〔北　　緯〕40 度 52 分 30 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 42 秒
〔遺跡概要〕



第39図　雲雀野(2)遺跡の位置(35017)

○立地・範囲：清久溜池周辺部と二ノ沢溜池北岸の舌状台地上に位置し、東西約 620 m、南北約 1,000 mの範囲である。
○現　況　等：畑地であり、遺跡北側では一部宅地化が進行している。
○確認・表採遺物：平成 2 年及び平成 17 年に青森県教育庁文化課の分布調査によって、縄文時代後期の土器片、弥生時代の土器片、平安時代の土師器、須恵器片が採取されている。
○そ　の　他：平成 18 年 3 月 3 日に遺跡の範囲変更が行われている。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1991『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 140 集

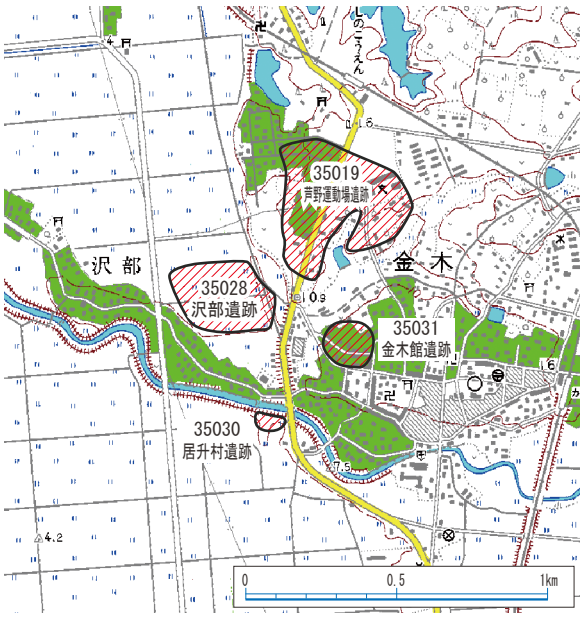
〔遺跡番号〕35018
〔遺　跡　名〕三ノ沢溜池遺跡
〔遺跡名ふりがな〕みのさわためいけいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（後）
〔所　在　地〕金木町中柏木不動野 46
〔北　　緯〕40 度 51 分 44 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 57 秒
〔遺跡概要〕



第40図　三ノ沢溜池遺跡の位置（35018）

○立地・範囲：三ノ沢溜池北東岸の舌状台地上に位置し、東西約 330 m、南北約 260 mの範囲である。
○現　況　等：山林であり、保存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文時代後期の土器片がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

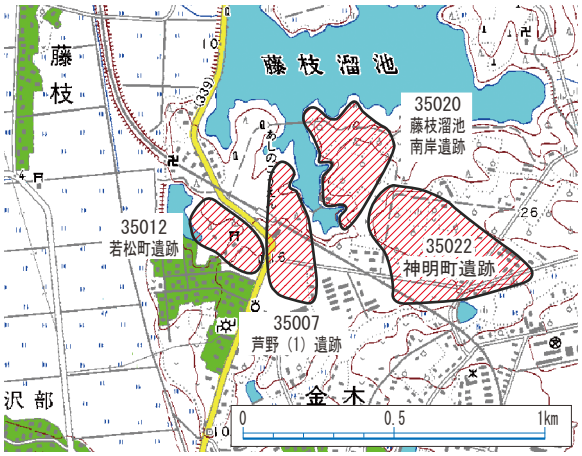
〔遺跡番号〕35019
〔遺　跡　名〕芦野運動場遺跡
〔遺跡名ふりがな〕あしのうんどうじょういせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（後）、平安
〔所　在　地〕金木町芦野 84-317
〔北　　緯〕40 度 54 分 30 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 01 秒
〔遺跡概要〕



第41図　芦野運動場遺跡の位置（35019）

○立地・範囲：津軽平野低湿地帯にのぞむ標高 16 mの台地上に位置し、金木中学校、グランド、芦野公園、若松町、赤坂に至る東西約 380 m、南北約 450 mの範囲である。
○現　況　等：畑地であるが、宅地化の進行が著しい。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文後期の土器片、土師器片、須恵器片がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

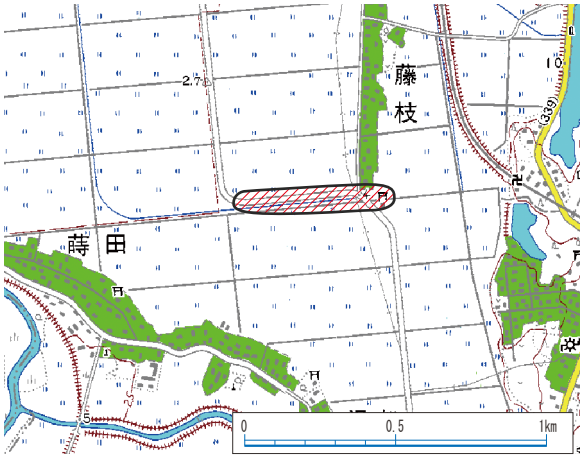
〔遺跡番号〕35020
〔遺　跡　名〕藤枝溜池南岸遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ふじえだためいけなんがんいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（晩）、平安
〔所　在　地〕金木町芦野 315 ～ 320
〔北　　緯〕40 度 54 分 51 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 19 秒
〔遺跡概要〕



第42図　藤枝溜池南岸遺跡の位置(35020)

○立地・範囲：藤枝溜池南岸の台地上に位置し、標高は 10 m程度である。東西約 280 m、南北約 400 mの範囲である。
○現　況　等：畑地であり、一部宅地化が進行している。
○確認・表採遺物：青森県教育委員会による分布調査の結果、縄文晩期の土器片、石鏃、石斧、石棒、石匙、勾玉等が採集されている。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕昭和 53 年に分布調査が実施されている。
〔文　　献〕青森県教育委員会　1979『青森県遺跡詳細分布調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 58 集

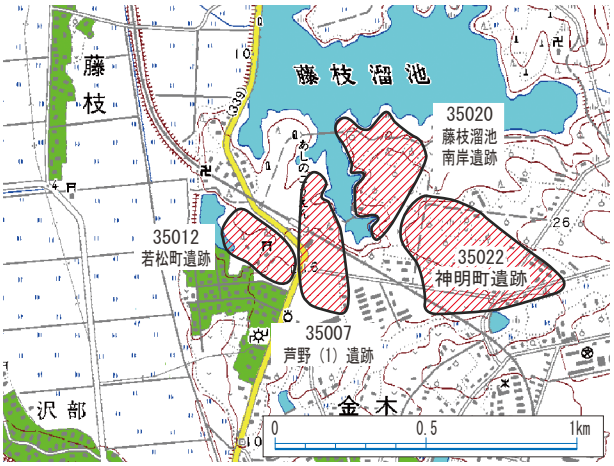
〔遺跡番号〕35021
〔遺　跡　名〕藤枝遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ふじえだいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町藤枝東田 90-（1・2）
〔北　　緯〕40 度 54 分 47 秒
〔東　　経〕140 度 26 分 19 秒
〔遺跡概要〕



第43図　藤枝遺跡の位置(35021)

○立地・範囲：藤枝部落の南端、保食神社の西側沖積地上に位置し、標高は約 4 mである。東西約 500 m、南北約 80 mの範囲である。
○現　況　等：田地であるが、東側の一部が宅地化している。
○確認・表採遺物：表採資料として土師器片、須恵器片がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

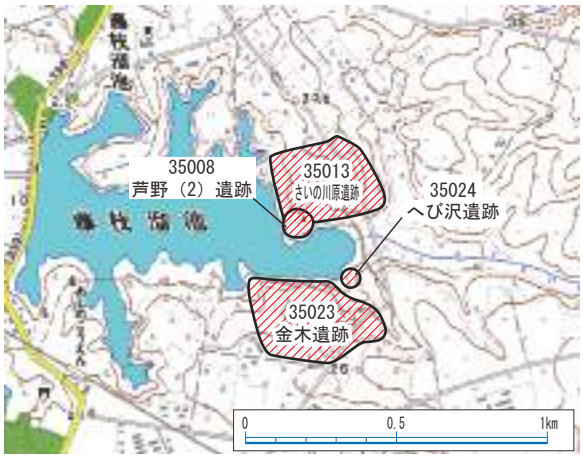
〔遺跡番号〕35022
〔遺　跡　名〕神明町遺跡
〔遺跡名ふりがな〕しんめいちょういせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（前～後）、弥生、平安
〔所　在　地〕金木町芦野
〔北　　緯〕40 度 54 分 36 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 50 秒
〔遺跡概要〕



第44図　神明町遺跡の位置（35022）

○立地・範囲：藤枝溜池の南東岸から南へ約 500 mの地点金木段丘面に位置する。東西 500 m、南北 380 mの範囲である。
○現　況　等：畑地であり、県道沿いは一部宅地化が進行している。
○確認・表採遺物：発掘調査により縄文土器（前期～後期）、弥生土器（前期末～中期）、土師器、須恵器、土製品、石製品が出土している。
○そ　の　他：発掘調査により、縄文時代後期の竪穴住居跡 2 棟、弥生時代の土坑墓 1 基、平安時代の竪穴住居跡 5 棟が検出されている。
〔発掘履歴〕青森県教育委員会により昭和 53 年に発掘調査が実施されている。
〔文　　献〕大橋公二 1972「青森県北津軽郡金木町神明町出土のワラビ手刀」『東日流』第 8 号
青森県教育委員会 1980『神明町遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 58 集

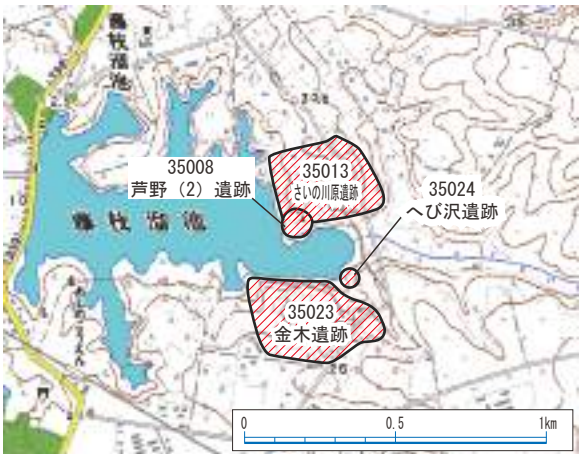
〔遺跡番号〕35023
〔遺　跡　名〕金木遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かなぎいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（前・晩）
〔所　在　地〕金木町芦野 200-102、103 ほか
〔北　　緯〕40 度 54 分 49 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 37 秒
〔遺跡概要〕



第45図　金木遺跡の位置（35023）

○立地・範囲：藤枝溜池南岸の台地上に位置し、東西 430 m、南北 260 mの範囲である。
○現　況　等：畑地であるが、重機により削平されており、遺跡は全体の 10 分の 1 を残すのみである。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文時代前期及び晩期の土器片がある。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

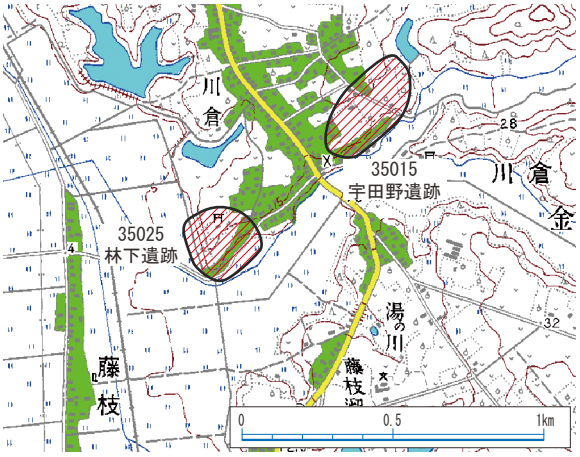
〔遺跡番号〕35024
〔遺　跡　名〕へび沢遺跡
〔遺跡名ふりがな〕へびさわいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（中・後）
〔所　在　地〕金木町芦野 200-101
〔北　　緯〕40 度 54 分 43 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 43 秒
〔遺跡概要〕



第46図　へび沢遺跡の位置(35024)

○立地・範囲：藤枝溜池南東岸の台地上に位置し、東西 40 m、南北 40 mの範囲である。
○現　況　等：原野であり、残存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文時代中期・後期の土器片、石鏃、石槍、石刀、石棒、凹石、石錘等がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

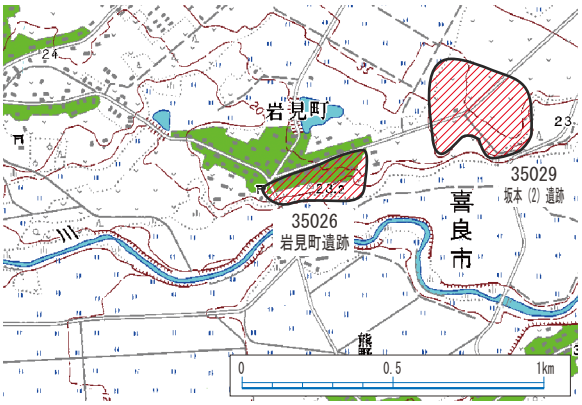
〔遺跡番号〕35025
〔遺　跡　名〕林下遺跡
〔遺跡名ふりがな〕はやししたいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町川倉林下 97-2
〔北　　緯〕40 度 55 分 35 秒
〔東　　経〕140 度 26 分 52 秒
〔遺跡概要〕



第47図　林下遺跡の位置(35025)

○立地・範囲：津軽鉄道川倉駅から東方約 350 mの地点、津軽平野低湿地帯に面した舌状台地上に位置し、東西 250m、南北 250m の範囲である。
○現　況　等：畑地及び原野であり、一部道路沿いに宅地化が進行している。
○確認・表採遺物：表採資料として土師器片、須恵器片、羽口がある（竹内正光氏保管）。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

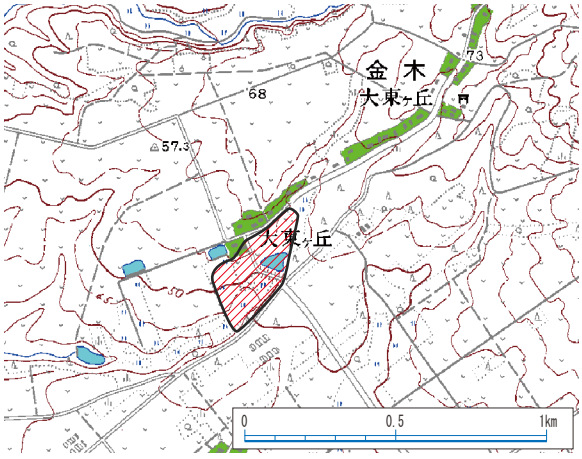
〔遺跡番号〕35026
〔遺　跡　名〕岩見町遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いわみちょういせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（中・晩）、平安
〔所　在　地〕金木町喜良市坂本 304-（1・2）
〔北　　緯〕40 度 54 分 11 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 38 秒
〔遺跡概要〕



第48図　岩見町遺跡の位置(35026)

○立地・範囲：金木川の北岸、中山山脈から伸びる丘陵地帯の末端の台地上に位置し、東西 360 m、南北 360 mの範囲である。
○現　況　等：大部分が畑地である。一部開田のため土取りにより破壊されているが、それを除けば保存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文中期・晩期の土器片、土師器片がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

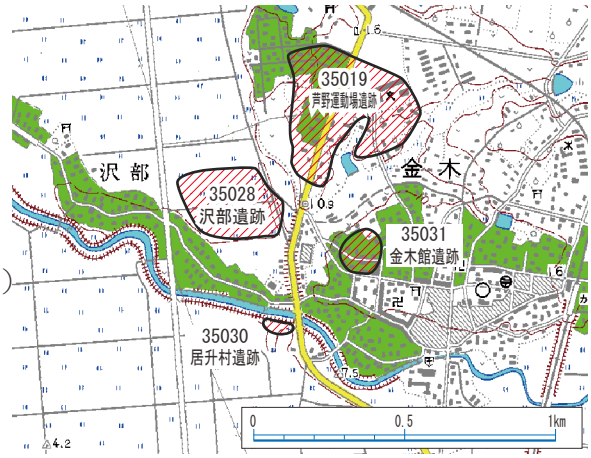
〔遺跡番号〕35027
〔遺　跡　名〕大東ヶ丘遺跡
〔遺跡名ふりがな〕だいとうがおかいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文、平安
〔所　在　地〕金木町川倉七夕野 84-697
〔北　　緯〕40 度 55 分 2 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 59 秒
〔遺跡概要〕



第49図　大東ヶ丘遺跡の位置(35027)

○立地・範囲：大東ヶ丘の集落の南西部、中山山脈から伸びる標高 50 m前後の丘陵上に位置し、東西 280 m、南北 360 m の範囲である。
○現　況　等：畑地であり、残存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文土器片、土師器片がある。
○そ　の　他：なし
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

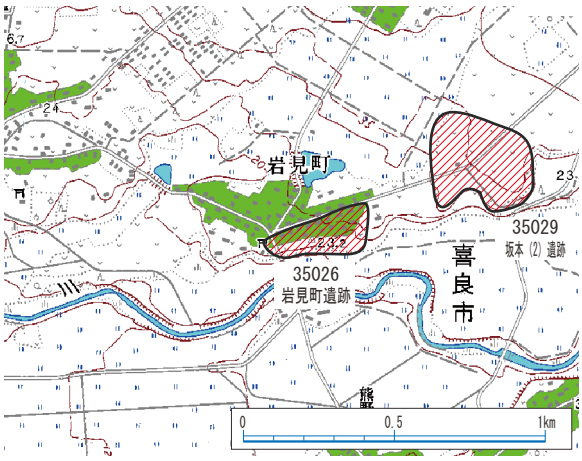
〔遺跡番号〕35028
〔遺　跡　名〕沢部遺跡
〔遺跡名ふりがな〕さわべいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安、中世
〔所　在　地〕金木町沢部（小田川土改区排水路）
〔北　　緯〕40 度 54 分 19 秒
〔東　　経〕140 度 26 分 48 秒
〔遺跡概要〕



第50図　沢部遺跡の位置(35028)

○立地・範囲：金木川の北岸、沖積地上に立地し、現在スーパーストア「ノア」を含む周辺一帯である。東西 330 m、南北 210 mの範囲である。
○現　況　等：スーパストア「ノア」の建物及び駐車場として舗装されており、詳細は不明である。
○確認・表採遺物：表採資料として土師器片、須恵器片、青磁片がある。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕竹内正光 1981「津軽平野における擦文の遺跡」『考古風土記』第 6 号

〔遺跡番号〕35029
〔遺　跡　名〕坂本（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕さかもとかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町喜良市坂本
336 ほか
〔北　　緯〕40 度 54 分 10 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 40 秒
〔遺跡概要〕



第51図　坂本(2)遺跡の位置(35029)

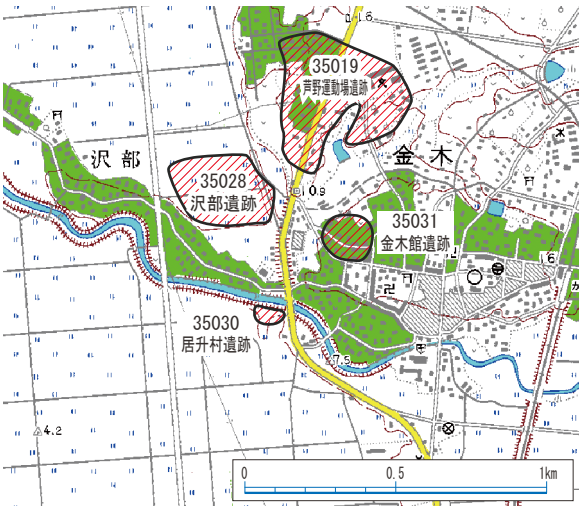
○立地・範囲：金木川の北西岸、中山山脈から伸びる丘陵地帯の末端の台地上に位置し、東西 190 m、南北 240 mの範囲である。
○現　況　等：以前は水田、畑地であったが、近年宅地化が進行しており、遺跡の破壊が著しい。
○確認・表採遺物：表採資料として土師器片、須恵器片がある。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

〔遺跡番号〕35030
〔遺　跡　名〕居升村遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いますむらいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町沢部（小田川土改区）
〔北　　緯〕40 度 54 分 7 秒
〔東　　経〕140 度 26 分 55 秒
〔遺跡概要〕

第52図　居升村遺跡の位置(35030)

○立地・範囲：金木川と国道 339 号線が交差する地点の南西付近沖積地に位置し、東西 120 m、南北 50 mの範囲である。
○現　況　等：田地であり、保存状況は良好である。
○確認・表採遺物：水田の基盤整備事業の際、擦文土器、土師器片、須恵器片、陶器片、土錘、骨片等が採集された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕竹内正光 1981「津軽平野における擦文の遺跡」『考古風土記』第 6 号

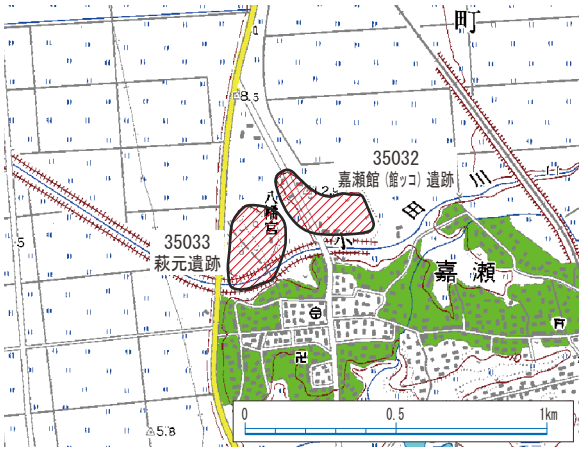
〔遺跡番号〕35031
〔遺　跡　名〕金木館遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かなぎだていせき
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安・中世
〔所　在　地〕五所川原市金木町朝日山
〔北　　緯〕40 度 54 分 14 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 5 秒
〔遺跡概要〕



第53図　金木館遺跡の位置(35031)

○立地・範囲：旧金木町中心街のある丘陵地西端部に位置し、標高は 10m 程であり、東西 130m、南北 150m の範囲である。
○現　況　等：市街地化が進行し、現在では遺構の確認はできない状況である。
○確認・表採遺物：不明
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕船水清編 1976『金木郷土史』金木町役場

〔遺跡番号〕35032
〔遺　跡　名〕嘉瀬館（館ッコ）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かせだて（たてっこ）いせき
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安・中世
〔所　在　地〕金木町嘉瀬萩元
〔北　　緯〕40 度 53 分 8 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 30 秒
〔遺跡概要〕



第54図　嘉瀬館遺跡の位置(35032)

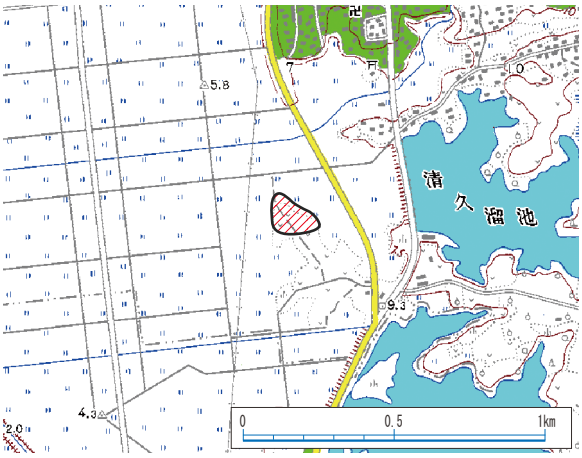
○立地・範囲：小田川の北岸、標高 10 m程に位置し、東西 320 m、南北 220 mの範囲である。
○現　況　等：畑地、宅地であり、西側部分は道路により削平されている。
○確認・表採遺物：館の東側と西側には南北に走る空堀があり、西側の堀の規模は長さ 70 m、幅は上部で 6.5 ～ 9 m程、深さは 0.8 ～ 1.6 m程である。表採資料として土師器がある。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕船水清編 1976『金木郷土史』金木町役場

〔遺跡番号〕35033
〔遺　跡　名〕萩元遺跡
〔遺跡名ふりがな〕はぎもといせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町嘉瀬萩元 181-1、170-177、307-321、158-2
〔北　　緯〕40 度 53 分 4 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 19 秒
〔遺跡概要〕

第55図　萩元遺跡の位置(35033)

○立地・範囲：国道 339 号線と小田川が交差する地点の西側、津軽低湿地帯に囲まれた標高 10 m程の台地上に位置し、東西 170 m、南北 280 mの範囲である。
○現　況　等：畑地、原野であり、遺跡地内に八幡宮が存在する。現存状況は良好である。
○確認・表採遺物：平成 2 年度に青森県教育庁文化課の分布調査によって、平安時代の土師器、須恵器片が採取されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1991『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 140 集

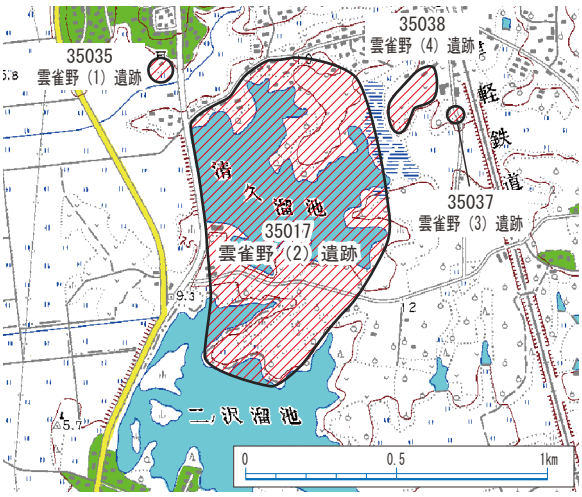
〔遺跡番号〕35034
〔遺　跡　名〕鎧石（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕よろいいしかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文、平安
〔所　在　地〕金木町中柏木鎧石 423 ほか
〔北　　緯〕40 度 52 分 4 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 16 秒
〔遺跡概要〕



第56図　鎧石(2)遺跡の位置(35034)

○立地・範囲：二ノ沢溜池の東岸丘陵上、標高 10 m程に位置し、東西 150 m、南北 130 mの範囲である。
○現　況　等：畑地であり、残存状況は良好である。
○確認・表採遺物：平成２年度に青森県教育庁文化課の分布調査によって、縄文土器、土師器、須恵器が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1991『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 140 集

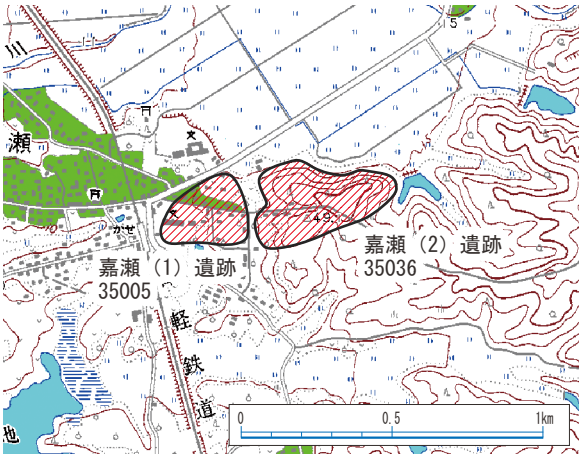
〔遺跡番号〕35035
〔遺　跡　名〕雲雀野（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ひばりのかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所　在　地〕金木町嘉瀬雲雀野 332-（1・2）、339-3 ほか
〔北　　緯〕40 度 52 分 44 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 28 秒
〔遺跡概要〕



第57図　雲雀野(1)遺跡の位置(35035)

○立地・範囲：清久溜池の北東岸、小田川の南岸に位置し、標高は 10 m程である。東西 70 m 、南北 70 mの範囲である。
○現　況　等：神社境内であり、上部は削平を受けている。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文土器片がある。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

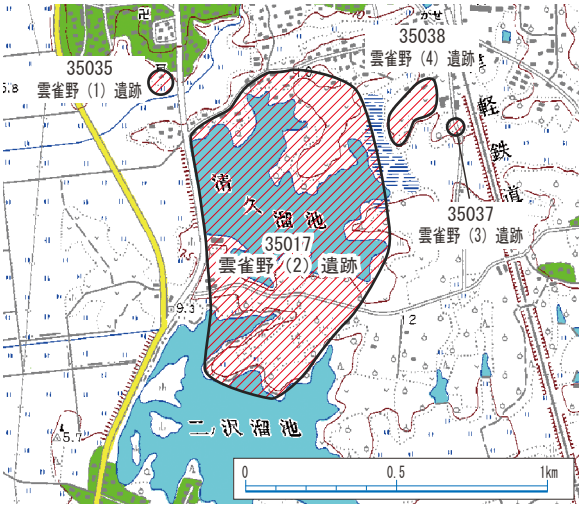
〔遺跡番号〕35036
〔遺　跡　名〕嘉瀬（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かせかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（前）、平安
〔所　在　地〕金木町嘉瀬上端山崎 2-1 ほか
〔北　　緯〕40 度 52 分 55 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 34 秒
〔遺跡概要〕



第58図　嘉瀬(2)遺跡の位置(35036)

○立地・範囲：嘉瀬三十三観音及びスキー場周辺の丘陵地内に位置し、標高は 20 ～ 50 mである。東西 450 m、南北 280 mの範囲である。
○現　況　等：山林、三十三観音霊場及びスキー場であり、一部スキー場により削平されているが、残存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として縄文時代前期の土器片、土師器片がある。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

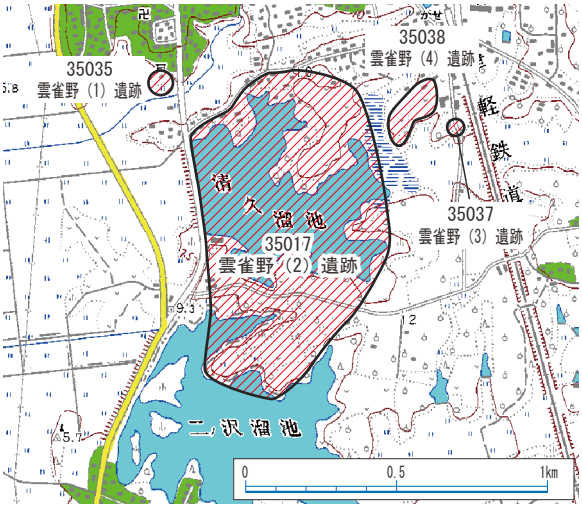
〔遺跡番号〕35037
〔遺　跡　名〕雲雀野（3）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ひばりのかっこさんいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所　在　地〕金木町嘉瀬雲雀野 5-1 ほか
〔北　　緯〕40 度 52 分 40 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 10 秒
〔遺跡概要〕



第59図　雲雀野(3)遺跡の位置(35037)

○立地・範囲：清久溜池東岸丘陵上の標高 10 m 程に位置し、東西 150 m、南北 220 mの範囲である。
○現　況　等：畑地及び山林であり、現存状況は良好である。
○確認・表採遺物：平成２年度に青森県教育庁文化課の分布調査によって、縄文土器片が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1991『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 140 集

〔遺跡番号〕35038
〔遺　跡　名〕雲雀野（4）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ひばりのかっこよんいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町嘉瀬雲雀野 667-277、276、53、54 ほか
〔北　　緯〕40 度 52 分 41 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 06 秒



第60図　雲雀野(4)遺跡の位置(35038)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：清久溜池東岸丘陵上の標高 10 m程に位置し、東西 50 m、南北 50 mの範囲である。

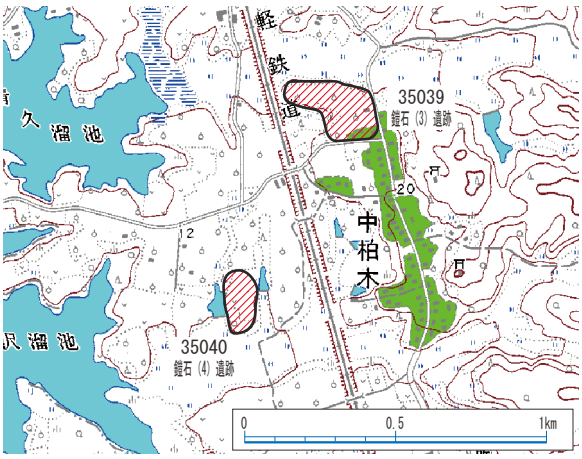
○現　況　等：山林、畑地、原野であり、現存状況は良好である。

○確認・表採遺物：平成２年度に青森県教育庁文化課の分布調査によって、平安時代の土師器、須恵器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1991『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 140 集

〔遺跡番号〕35039
〔遺　跡　名〕鎧石（3）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕よろいいしかっこさんいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所　在　地〕金木町中柏木鎧石 373-13 ほか
〔北　　緯〕40 度 52 分 33 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 26 秒



第61図　鎧石(3)遺跡の位置(35039)

〔遺跡概要〕

○立地・範囲：清久溜池東方 1km 程に位置し、標高は約 10 mである。東西 310 m、南北 150 mの範囲である。

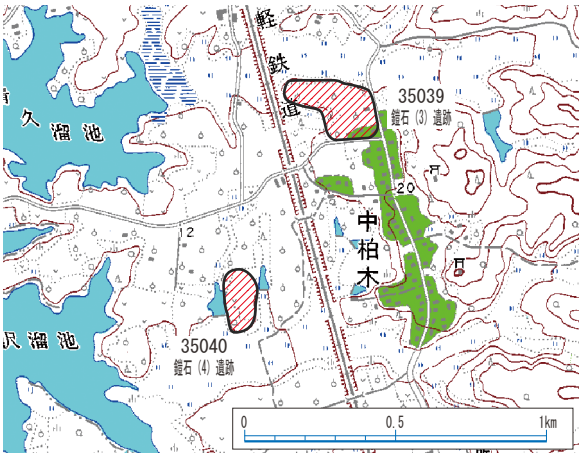
○現　況　等：リンゴ畑、宅地であるが、道路沿いは宅地化が進行している。

○確認・表採遺物：平成２年度に青森県教育庁文化課の分布調査によって、縄文土器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1991『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 140 集

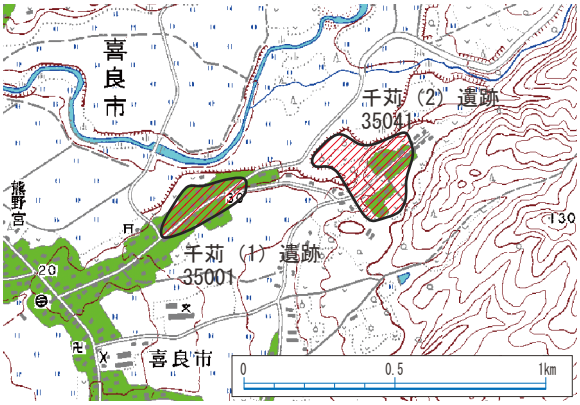
〔遺跡番号〕35040
〔遺　跡　名〕鎧石（4）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕よろいいしかっこよんいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所　在　地〕金木町中柏木鎧石 184-（102・108・109・10・7・116・103）
〔北　　緯〕40 度 52 分 13 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 11 秒



第62図　鎧石(4)遺跡の位置(35040)

〔遺跡概要〕
○立地・範囲：二ノ沢溜池から東方 500 mの場所で二つの沢沿いに挟まれた標高 10 m程の丘陵上に位置する。東西 110 m、南北 210 mの範囲である。
○現　況　等：山林及び畑地であり、現存状況は良好である。
○確認・表採遺物：平成 2 年に青森県教育庁文化課の分布調査によって、縄文土器片が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1991『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 140 集

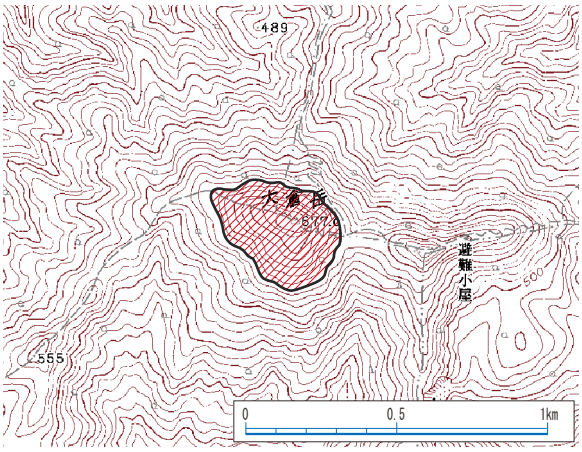
〔遺跡番号〕35041
〔遺　跡　名〕千苅（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕せんがりかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕金木町喜良市千苅 29-10 ほか
〔北　　緯〕40 度 53 分 54 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 38 秒



第63図　千苅(2)遺跡の位置(35041)

〔遺跡概要〕
○立地・範囲：金木川南東岸の河岸段丘上に位置し、標高は 40 m前後である。東西 300 m、南北 300 mの範囲である。
○現　況　等：畑地、宅地であり、道路沿いでは宅地化の進行が著しい。
○確認・表採遺物：平成 4 年の青森県教育庁文化課による分布調査によって、平安時代の土師器片が採取されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1993『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 155 集

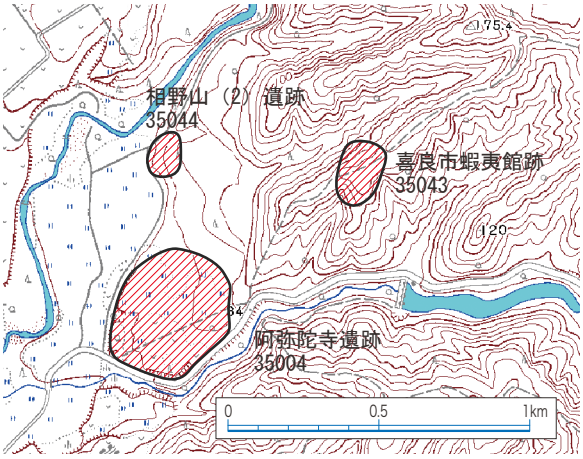
〔遺跡番号〕35042
〔遺　跡　名〕大倉岳館跡
〔遺跡名ふりがな〕おおくらだけたてあと
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安、中世
〔所　在　地〕金木町金木山国有林
77 林班へほか
〔北　　緯〕40 度 58 分 12 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 54 秒
〔遺跡概要〕



第64図　大倉岳館跡の位置(35042)

○立地・範囲：大倉岳の山頂部を中心として、南北 460 m、東西 640 mの範囲である。
○現　況　等：一帯は山林である。一部盗掘跡があるが、その他は良好である。
○確認・表採遺物：山頂部より西に 150 m程下がった緩傾斜面に幅約 2 m、深さ約 50cm の堀跡が丘陵部を囲むように南北方向に確認された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕竹内正光 1983「大倉岳諸聞記」『郷土誌北奥文化』第 4 号
〔備　　考〕平成 18 年 3 月 3 日に新規登録した遺跡である。

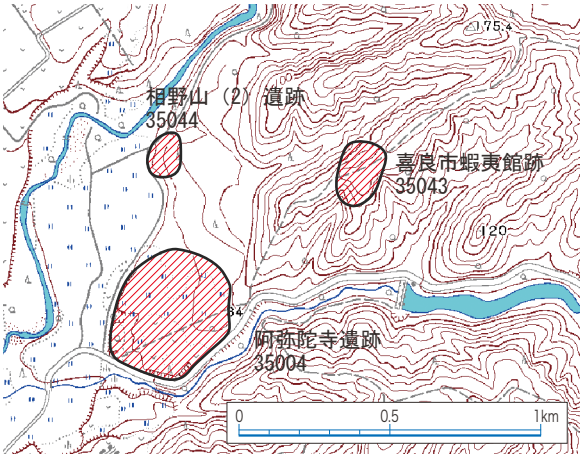
〔遺跡番号〕35043
〔遺　跡　名〕喜良市蝦夷館遺跡
〔遺跡名ふりがな〕きらいちえぞだていせき
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安、中世
〔所　在　地〕金木町喜良市喜良市
山国有林 38 林班に 2 小班ほか
〔北　　緯〕40 度 54 分 28 秒
〔東　　経〕140 度 30 分 20 秒
〔遺跡概要〕



第65図　喜良市蝦夷館遺跡の位置(35043)

○立地・範囲：高橋沢の鹿の子ダム北東の丘陵平坦部に位置し、標高は約 120 mである。東西 200 m、南北 240 mの範囲である。
○現　況　等：一帯は山林である。一部木材運搬用の林道建設によって、破壊されている。
○確認・表採遺物：北東部から西部にかけて丘陵斜面に沿って堀跡が確認されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕船水清編 1976『金木郷土史』金木町役場
〔備　　考〕平成 18 年 3 月 3 日に新規登録した遺跡である。

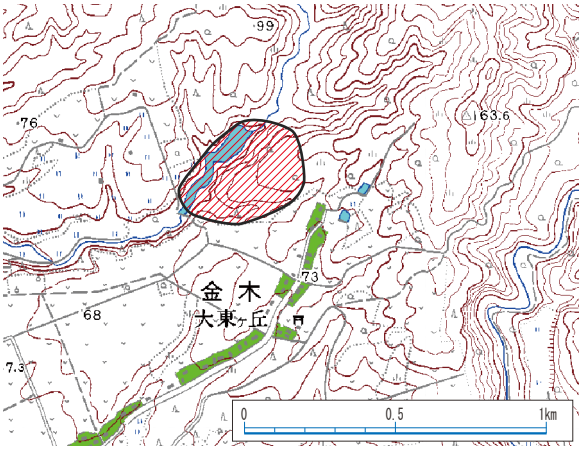
〔遺跡番号〕35044
〔遺　跡　名〕相野山（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕あいのやまかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文、平安
〔所　在　地〕金木町喜良市相野山 43-1、
　　蔵助平 1-1、1-4
〔北　　緯〕40 度 54 分 30 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 52 秒



第66図　相野山(2)遺跡の位置(35044)

〔遺跡概要〕
○立地・範囲：金木川南岸丘陵上に位置し、標高は約 30m である。
○現　況　等：一部畑造成により削平されている。
○確認・表採遺物：平成 18 年 4 月 17 日、畑地造成の際に須恵器長頸壷 2 個体分、坏 1 個体分が出土している（図版 6）。
○そ　の　他：通称「別当の林」と呼ばれている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし
〔備　　考〕平成 18 年 3 月 3 日に新規登録した遺跡である。

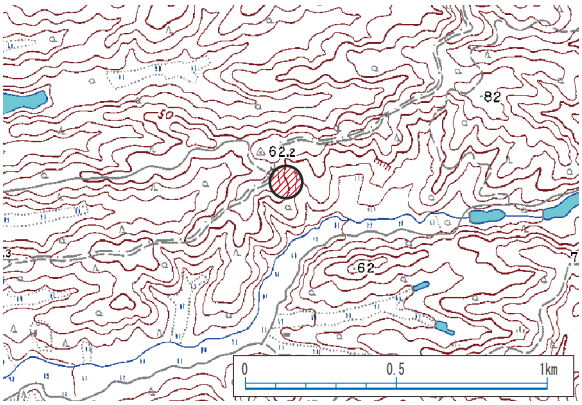
〔遺跡番号〕35045
〔遺　跡　名〕川倉遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かわくらいせき
〔種　　別〕製鉄跡
〔主な時代〕近世
〔所　在　地〕金木町川倉七夕野、川倉女坂
〔北　　緯〕40 度 55 分 40 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 21 秒



第67図　川倉遺跡の位置(35045)

〔遺跡概要〕
○立地・範囲：新川東岸丘陵部及び溜池周辺に位置し、標高は約 70 mである。東西 500 m、南北 320 mの範囲である。
○現　況　等：山林及び溜池地内であり、溜池の侵食により一部破壊されている。
○確認・表採遺物：近世とみられる製鉄遺構が確認され、鉄滓・羽口等が表採された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし
〔備　　考〕平成 18 年 3 月 3 日に新規登録した遺跡である。

〔遺跡番号〕35046
〔遺　跡　名〕中新山製鉄遺跡
〔遺跡名ふりがな〕なかしんやませいてついせき
〔種　　別〕製鉄跡
〔主な時代〕近世
〔所　在　地〕金木町川倉外ヶ沢
〔北　　緯〕40 度 56 分 13 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 02 秒



第68図　中新山製鉄遺跡の位置(35046)

〔遺跡概要〕
○立地・範囲：中新山の南東端の沢沿いに位置し、標高は約 50m である。
○現　況　等：山林であり、保存状況は良好である。
○確認・表採遺物：表採資料として鉄滓、炭化材がある。
○そ　の　他：近世とみられる炭焼窯も確認されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕なし

1. 千苅(1)遺跡(東から)

2. 相野山(1)遺跡(南西から)

3. 坂本(1)遺跡(南西から)

4. 阿弥陀寺遺跡(南西から)

5. 嘉瀬(1)遺跡(南から)

6. 鎧石(1)遺跡(東から)

7. 芦野(1)遺跡(南東から)

8. 芦野(2)・さいの川原遺跡(南東から)

写真6　金木地区遺跡分布調査写真(1)

1. 芦野旧競馬場遺跡（北西から）

2. 妻の神(1)遺跡（南から）

3. 妻の神(2)遺跡（南から）

4. 若松町遺跡（北東から）

5. 湯の川遺跡（南から）

6. 宇田野遺跡（南から）

7. 川倉小学校遺跡（南西から）

8. 雲雀野(2)遺跡（南から）

写真7　金木地区遺跡分布調査写真(2)

1. 雲雀野(2)遺跡(北から)

2. 三ノ沢溜池遺跡(北東から)

3. 芦野運動場遺跡(南から)

4. 藤枝溜池南岸遺跡(北から)

5. 藤枝遺跡(西から)

6. 神明町遺跡(南東から)

7. 金木遺跡(東から)

8. へび沢遺跡(北西から)

写真8　金木地区遺跡分布調査写真(3)

1. 林下遺跡（北から）

2. 岩見町遺跡（北西から）

3. 大東ヶ丘遺跡（南から）

4. 大東ヶ丘遺跡（北から）

5. 沢部遺跡（西から）

6. 坂本（２）遺跡（北西から）

7. 居升村遺跡（東から）

8. 金木館遺跡（北西から）

写真9　金木地区遺跡分布調査写真（4）

1. 嘉瀬館(館ッコ)遺跡(北から)

2. 萩元遺跡(南西から)

3. 鎧石(2)遺跡(南西から)

4. 雲雀野(1)遺跡(南から)

5. 嘉瀬(2)遺跡(北から)

6. 雲雀野(3)遺跡(南から)

7. 雲雀野(4)遺跡(南東から)

8. 鎧石(3)遺跡(南から)

写真10　金木地区遺跡分布調査写真(5)

1. 鎧石(4)遺跡(北から)

2. 千苅(2)遺跡(南東から)

3. 大倉岳館跡(南から)

4. 喜良市蝦夷館遺跡の堀跡(東から)

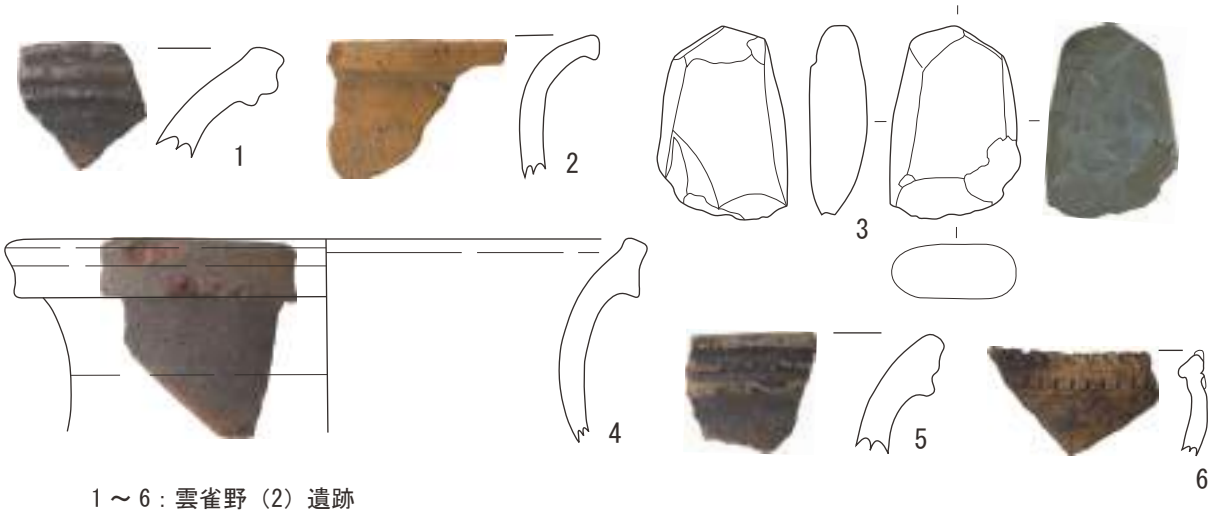
5. 相野山(2)遺跡(南から)

6. 川倉遺跡(南西から)

7. 川倉遺跡より表採した羽口

8. 中新山製鉄遺跡(南東から)

写真11　金木地区遺跡分布調査写真(6)



1～6：雲雀野（2）遺跡

1・4・5：須恵器、3：磨製石斧、6：弥生土器

7：川倉遺跡

8～10：相野山（2）遺跡

7：フイゴ羽口

8～10：須恵器長頸壷・坏

図版6　金木地区の遺跡表採資料

第４章　五所川原市・五所川原地区の遺跡

〔遺跡番号〕05001

〔遺 跡 名〕長者森山遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ちょうじゃもりやまいせき

〔種　　別〕城館跡

〔主な時代〕平安、中世

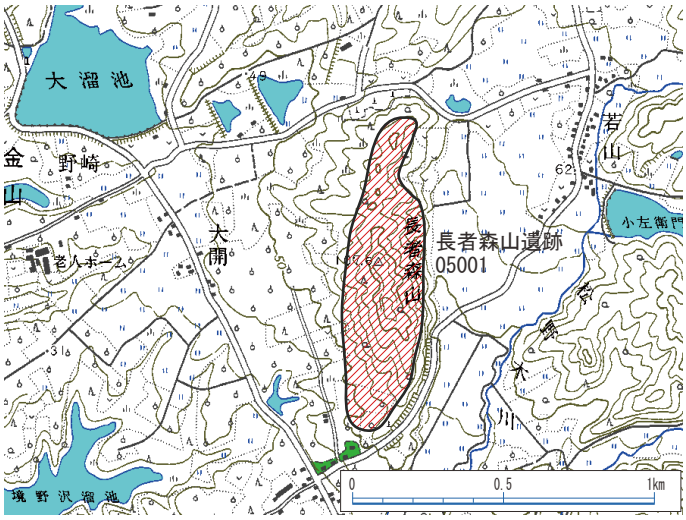
〔所 在 地〕大字松野木字花笠 93-2

〔北　　緯〕40 度 48 分 22 秒

〔東　　経〕140 度 30 分 43 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：松野木集落の北側、標高 107 ｍの独立丘陵上に位置する。



第 69 図　長者森山遺跡の位置（05001）

○現 況 等：山林・原野・公園。
尾根上に遊歩道が整備され、一部、公園として利用されている。

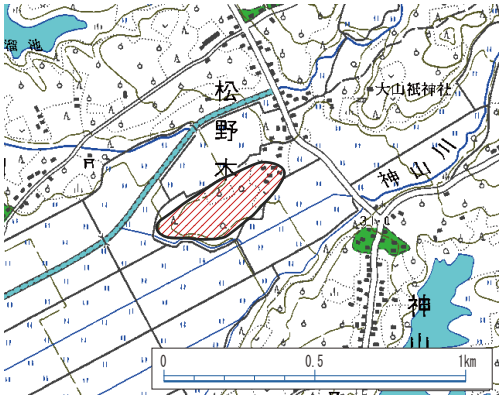
○確認・表採遺物：平安時代の土師器・須恵器が表採されている。

○そ の 他：館主などは不明である。尾根上には堀で囲まれた郭があり、内部には竪穴住居跡とみられる凹地がある。

〔発掘履歴〕昭和 21 年、津軽考古学会によって発掘調査が行われ、炭化籾を検出したという。平成３年には簡易測量･縄張り調査が行われている。別名､「長者森館」とも言う。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書
新谷雄蔵編 1985『五所川原市史』津軽書房
新谷雄蔵 1993「五所川原市域における遺跡調査・考古学研究の歩み」
『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
小山彦逸 1993「中世城館跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
福士貞蔵 1941『長橋村史』長橋村役場

〔遺跡番号〕05002
〔遺 跡 名〕観音林遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かんのんばやしいせき
〔種　　別〕集落跡、城館跡
〔主な時代〕縄文（後・晩）、平安、中世
〔所 在 地〕大字松野木字花笠 81
〔北　　緯〕40 度 47 分 49 秒
〔東　　経〕140 度 30 分 30 秒



第 70 図　観音林遺跡の位置（05002）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：松ノ木集落の西側、松野木川と神山川に挟まれた丘陵端部、標高 33 mに位置する。

○現 況 等：丘陵上が平坦に削られ、建築現場の資材置き場となっており、遺構はかなり破壊されたとみられる。丘陵西端部は残存しており、堀跡も残されている。

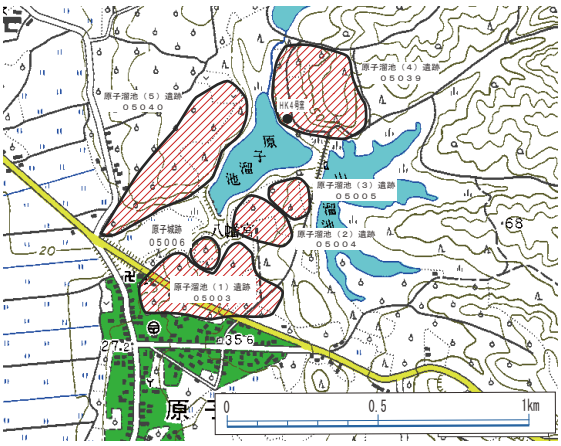
○確認・表採遺物：縄文時代（後･晩期）、平安時代、中世の遺構･遺物が多数検出されている（昭和 49 年及び昭和 54 年～平成 3 年）。

○そ の 他：集落を一重の空堀が取り囲んでおり、東西 160 m、南北 100 mの範囲である。平安時代の環濠集落とみられる。遺跡名の由来はかつてこの地に観音堂があったことによるという。

〔発掘履歴〕昭和 49 年及び昭和 54 年～平成 3 年まで計 10 回にわたって、畑地造成に先立って、新谷雄蔵氏を調査担当者に五所川原市教育委員会が発掘調査を行っている。

〔文　　献〕
青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書
新谷雄蔵 1976「観音林遺跡の調査研究」『考古風土記』1
新谷雄蔵 1985『五所川原市史』津軽書房
新谷雄蔵 1993「観音林遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
小山彦逸 1993「中世城館跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
五所川原市教育委員会 1975『観音林遺跡』五所川原市埋蔵文化財報告書第 3 集
五所川原市教育委員会 1984 ～ 1992『観音林遺跡（第二次～第十次）』
五所川原市埋蔵文化財報告書第 7 ～ 15 集
藤沼邦彦ほか 2004「青森県五所川原市観音林遺跡」『亀ヶ岡文化遺物実測図集』
弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告 1

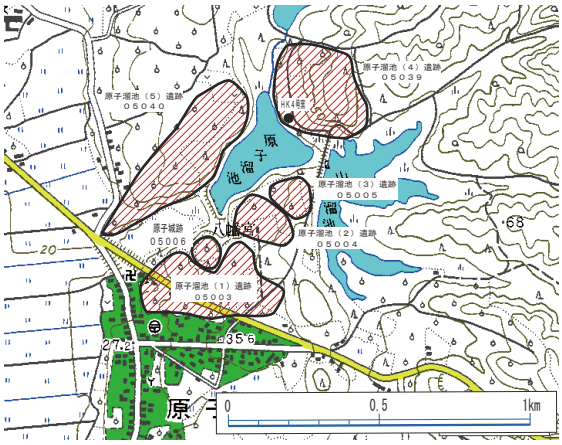
〔遺跡番号〕05003
〔遺　跡　名〕原子溜池（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕はらこためいけかっこいちいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（前・中・後）、平安
〔所　在　地〕大字原子字山元 109
〔北　　緯〕40 度 46 分 04 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 34 秒
〔遺跡概要〕



第 71 図　原子溜池（1）遺跡の位置（05003）

○立地･範囲：原子溜池の南側丘陵上、標高 27 ～ 40 mに位置する。
○現　況　等：りんご畑・原野
○確認・表採遺物：縄文時代（前期～後期）の土器・石器、平安時代の須恵器片が出土している（昭和 48 年調査）。
〔発掘履歴〕昭和 48 年 4 ～ 5 月に国道 102 号線改良工事に伴い、青森県教育庁文化課が発掘調査を行った。同じく昭和 48 年 8 月には五所川原市教育委員会によって発掘調査が行われている。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1974『今別町浜名遺跡・中宇田遺跡・西田遺跡・五郎兵衛山遺跡・五所川原市原子溜池遺跡群』青森県埋蔵文化財調査報告書第 13 集
五所川原市教育委員会 1974『原子遺跡』五所川原市埋蔵文化財報告書第 2 集
福田友之 1993「原子溜池（1）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05004
〔遺　跡　名〕原子溜池（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕はらこためいけかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（前・中・後）、平安
〔所　在　地〕大字原子字山元 280-22
〔北　　緯〕40 度 46 分 12 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 43 秒
〔遺跡概要〕



第 72 図　原子溜池(2)遺跡の位置(05004)

○立地･範囲：原子溜池の東側丘陵上、標高 30 ～ 40 mに位置する。
○現　況　等：りんご畑

○確認・表採遺物：縄文時代（前～後期）の土器および土偶、平安時代の土師器・須恵器が表採されている。

○そ の 他：原子溜池（1）遺跡より北へ 50 mの所にある。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「原子溜池（2）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05005

〔遺 跡 名〕原子溜池（3）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕はらこためいけかっこさんいせき

〔種　　別〕散布地

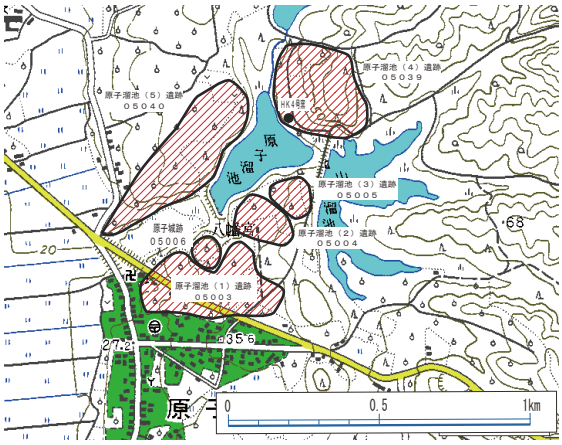
〔主な時代〕縄文（中）

〔所 在 地〕大字原子字山元

280-（11・12・17）

〔北　　緯〕北緯 40 度 46 分 15 秒

〔東　　経〕東経 140 度 31 分 48 秒



第 73 図　原子溜池(3)遺跡の位置(05005)

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：原子溜池と山道溜池に挟まれた丘陵上、標高 30 ～ 40 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑・原野

○確認・表採遺物：平成 3 年の市史編纂事業による分布調査で縄文時代中期前半の土器（円筒上層式）が採集されている。

○そ の 他：原子溜池（2）遺跡より北へ 50 mの所にある。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「原子溜池（3）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05006

〔遺 跡 名〕原子城遺跡

〔遺跡名ふりがな〕はらこじょういせき

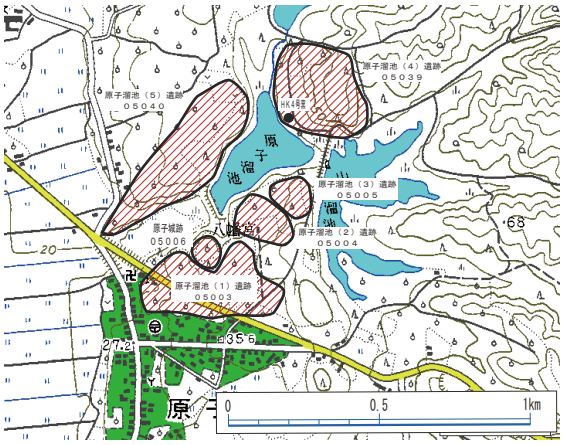
〔種　　別〕散布地、城館跡

〔主な時代〕縄文（前・中・後）、平安、中世

〔所 在 地〕大字原子字山元 109 ほか

〔北　　緯〕40 度 46 分 09 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 36 秒



第 74 図　原子城遺跡の位置（05006）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：原子溜池南岸丘陵上、標高 35 mに位置する。国道 101 号線原子バイパス近くの八幡宮を中心とした場所にある。東西 275 m × 南北 150 mほどで大きく三つの郭からなる。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成６年の主郭調査では、縄文時代（前～後期）の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器、中世では陶磁器（青磁・白磁・朝鮮産陶器・越前焼）、銭貨、釘等が出土している。

○そ の 他：中世では 12 ～ 16 世紀までの陶磁器が出土しており、なかでも 15 ～ 16 世紀の陶磁器が多く出土している（平成６年調査）。

〔発掘履歴〕平成６年に五所川原市史編纂事業の一環として、五所川原市教育委員会が試掘調査を行っている。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書』
新谷雄蔵編 1985『五所川原市史』津軽書房
小山彦逸 1998「五所川原市内の城館と中世都市」『五所川原市史　通史編１』五所川原市編
五所川原市教育委員会 1974『原子遺跡』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第２集
五所川原市教育委員会 1995『原子城跡』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集
半沢紀 1993「中世陶磁器類」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05007

〔遺 跡 名〕野里遺跡

〔遺跡名ふりがな〕のざといせき

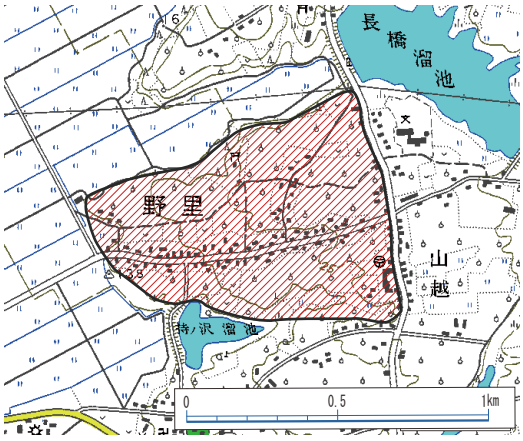
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（晩）、平安、近世

〔所 在 地〕大字野里字牧ノ原４－１ほか、字牧原

〔北　　緯〕40 度 47 分 09 秒

〔東　　経〕140 度 30 分 40 秒



第 75 図　野里遺跡の位置（05007）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：持ノ沢溜池北東丘陵上、標高 20 ～ 25 mに位置する。

○現 況 等：宅地・りんご畑・畑地。野里小学校跡地裏側一帯。

○確認・表採遺物：平成３年に市史編纂事業による現地調査では、縄文時代（晩期）の土器、平安時代の土師器・須恵器片が表採されている。

〇そ の 他：平成４年度に青森県文化課による分布調査によって、遺跡範囲の拡大が行われている。

〔発掘履歴〕平成 11 ～ 13 年に宅地造成に伴う試掘調査が五所川原市教育委員会によって行われる。

〔文　　献〕福田友之 1993「野里遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

青森県教育委員会 1993『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 155 集

〔遺跡番号〕05008

〔遺 跡 名〕川崎遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かわさきいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕縄文（晩）、平安、近世

〔所 在 地〕大字前田野目字川崎 1-1、2

〔北　　緯〕40 度 44 分 48 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 38 秒

〔遺跡概要〕　（第 76 図参照）

〇立地･範囲：前田野目川の左岸丘陵上、標高 50 mに位置する。

〇現 況 等：宅地・りんご畑

〇確認・表採遺物：かつて溜池に面する丘陵斜面から窯壁片が採取され、須恵器窯跡２基が存在していたという。しかし、現在は不明である。

〇そ の 他：地元の話によると、かつて一帯は真言館遺跡といわれ、津軽三千坊の一つである梵珠千坊（高野千坊）の修行者が居住した館跡であるとされる。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕新谷武 1981「五所川原市周辺の須恵器窯跡出土の長頸壷について」『弘前大学考古学研究』第１号

福士貞蔵 1941『長橋村誌』長橋村役場

福田友之 1993「川崎遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

村越潔・新谷武 1974「青森県前田野目砂田遺跡発掘調査概報」『北奥古代文化』第６号

〔遺跡番号〕05009

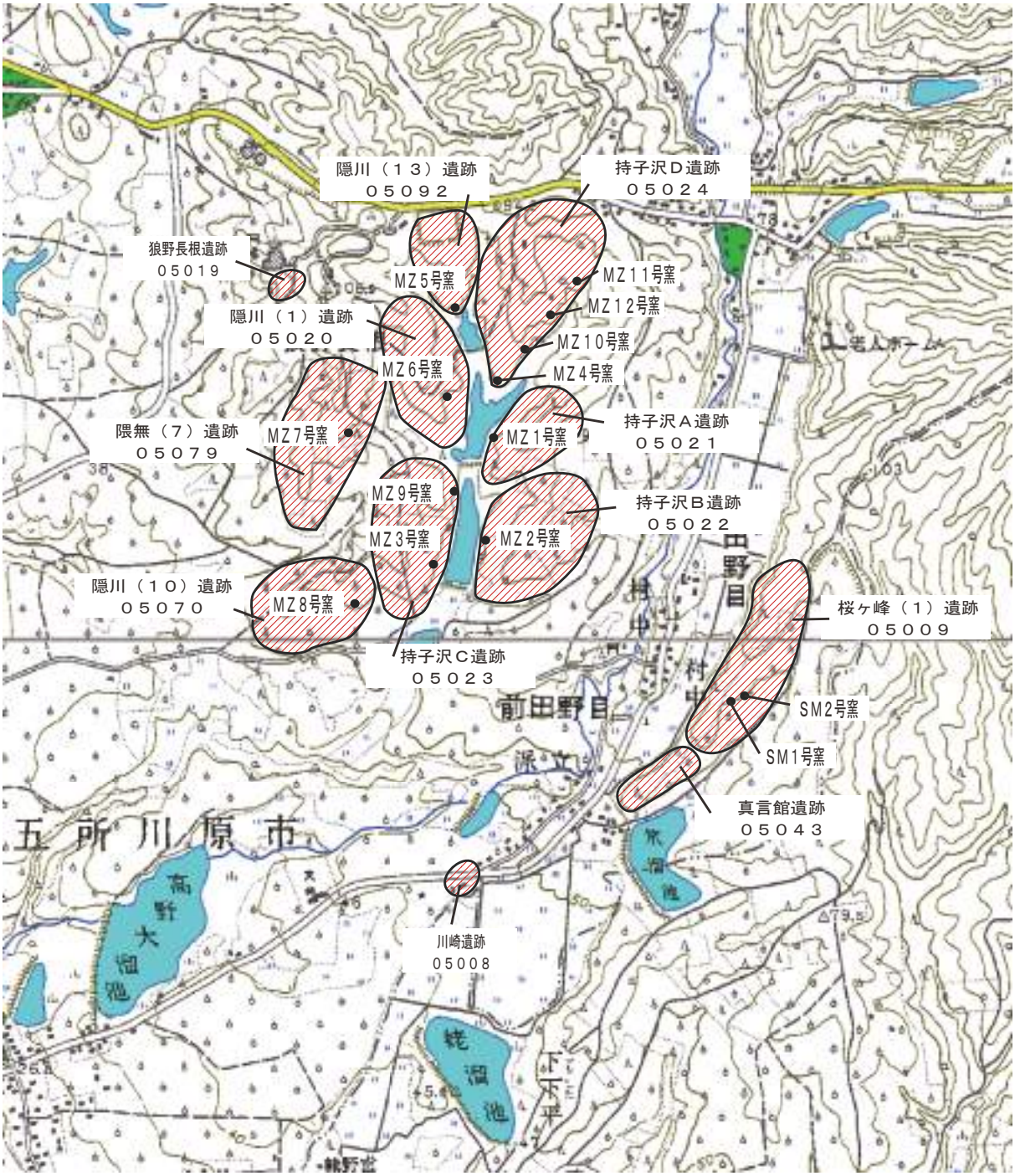
〔遺 跡 名〕桜ヶ峰（1）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕さくらがみねかっこいちいせき

〔種　　別〕散布地、須恵器窯跡

〔主な時代〕縄文（草創～晩）、弥生、平安、近世

〔所 在 地〕大字前田野目字桜ヶ峰 86-4、86-23 ほか



第 76 図　桜ヶ峰（1）遺跡の位置（05009）

※ＭＺ５・６・10・11・12 号窯は国指定史跡。

〔北　　緯〕40 度 45 分 08 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 13 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：前田野目川の左岸、笊溜池の北東部丘陵上、標高 65 ～ 70 ｍに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯（SM1 号窯・SM2 号窯）が所在する。

○現　況　等：りんご畑・山林・津軽自動車道。窯跡周辺は元りんご畑で、現在はケヤキの植林になっている。

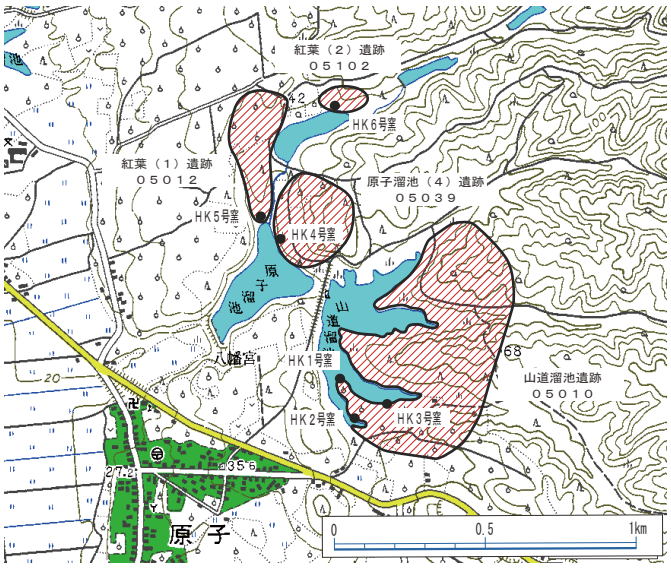
○確認・表採遺物：縄文時代（草創～晩期）の土器・石器、弥生土器（後期）、平安時代の須恵器などが出土している（平成 11 年調査）。特に草創期の爪形文土器や早期の貝殻腹縁文土器は貴重な発見例である。

〔発掘履歴〕昭和 48 年に新谷武氏が SM1 号窯の発掘調査を行う。
平成 11 年に青森県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査が行われる。縄文時代あるいは古代～近世の遺構である土器埋設遺構 1 基・溝状遺構 2 基、土坑 5 基などが検出されている。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
青森県教育委員会 2001『桜ヶ峰（1）遺跡―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 299 集
新谷武 1973『桜ヶ峰窯跡調査概要』
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
福田友之 1993「桜ヶ峰（1）遺跡」『五所川原市史　史料編 1』五所川原市編

〔備　　考〕SM1 号窯は昭和 48 年に新谷武氏によって、遺跡分布調査の際に発見され、平成 11 年の磁器探査で改めて特定された。SM2 号窯は平成 11 年に磁気探査の際に発見された。平成 3 年度の青森県教育庁文化課による分布調査で、遺跡範囲の拡大が行われた。
平成 4 年 5 月 8 日には「桜ヶ峰遺跡」が「桜ヶ峰（1）遺跡」となった。

〔遺跡番号〕05010
〔遺 跡 名〕山道溜池遺跡
〔遺跡名ふりがな〕やまみちためいけいせき
〔種　　別〕散布地、須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字原子字山元 278
〔北　　緯〕40 度 46 分 11 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 01 秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：原子地区、山道溜池の東岸丘陵上、標高 30 ～ 40 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 3 基（HK1 号窯・HK2 号窯・HK3 号窯）が所在する。



第 77 図　山道溜池遺跡の位置（05010）

○現 況 等：原野・りんご畑。窯跡は溜池の満水時に水没する。

○確認・表採遺物：平安時代の土師器・須恵器片が表採される。HK3 号窯からは坏・鉢・壷・甕

の須恵器片が出土している。

〔発掘履歴〕平成 14 年に HK3 号窯の発掘調査が五所川原市教育委員会によって行われる。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

福田友之 1993「山道溜池遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

村越潔・新谷武 1974「青森県前田野目砂田遺跡発掘調査概報」『北奥古代文化』第 6 号

〔備　　考〕HK2 号窯は平成 13 年の分布調査で発見された。HK3 号窯は平成 10 年の分布調査で発見された。

〔遺跡番号〕05011

〔遺 跡 名〕砂田 B 遺跡

〔遺跡名ふりがな〕すなだびーいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字前田野目字砂田 51-67、57-124、57-125

〔北　　緯〕40 度 46 分 07 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 59 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：前田野目川の左岸、鳥子沢の北岸丘陵部、標高 110 ～ 150 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 3 基（MD1 号窯・MD2 号窯・MD8 号窯）が所在する。

○現 況 等：山林・原野。MD1 号窯は林道工事によって焚口部分がわずかに破壊されている。窯体は昭和 43 年の調査以後、埋め戻されずに床面が露出している。窯体の上部には作業場とみられるテラスが良く残されている。MD2 号窯は窯尻部分がわずかに残存しているだけである。

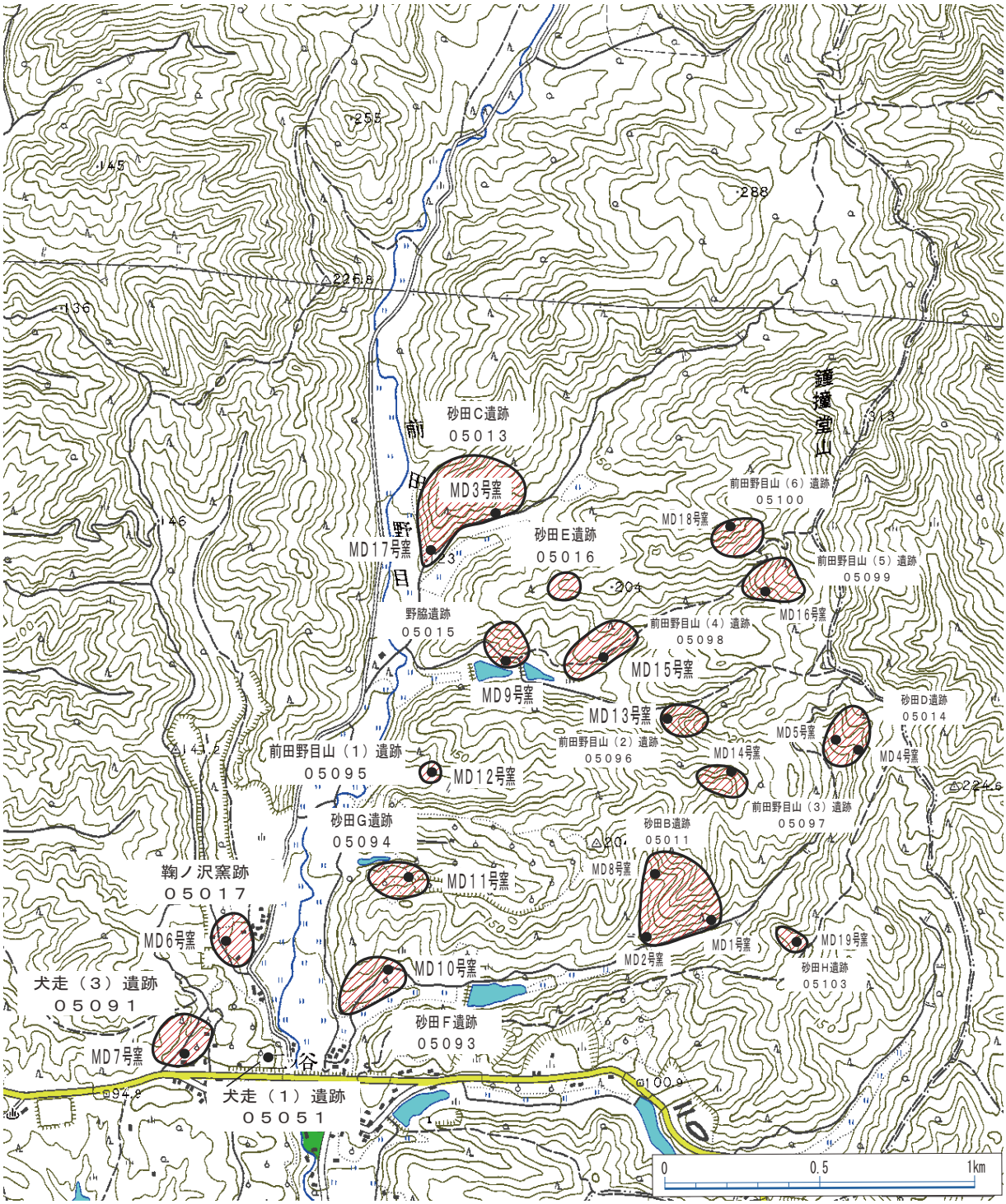
○確認・表採遺物：MD1 号窯からは坏・長頸壷・広口壷・甕が出土している。
MD2 号窯からは須恵器片・窯壁片が表採されている。
MD8 号窯からは須恵器甕片・窯壁片が表採されている。

○そ の 他：MD1 号窯は昭和 42 年（1967）に林道工事の際、発見された。MD2 号窯は 1960 年代に林道工事の際に発見された。MD8 号窯は平成 11 年の分布調査によって発見された。

〔発掘履歴〕MD1 号窯では、昭和 43 年 5 月に立正大学の坂詰秀一氏によって、発掘調査が行われている。

〔文　　献〕福田友之 1993「砂田 B 遺跡 1 号窯」「砂田 B 遺跡 2 号窯」『五所川原市史　史料編 1』五所川原市編
五所川原市教育委員会 1968『津軽・前田野目窯跡』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集
五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内の須恵器窯跡発掘調査報告書』
五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

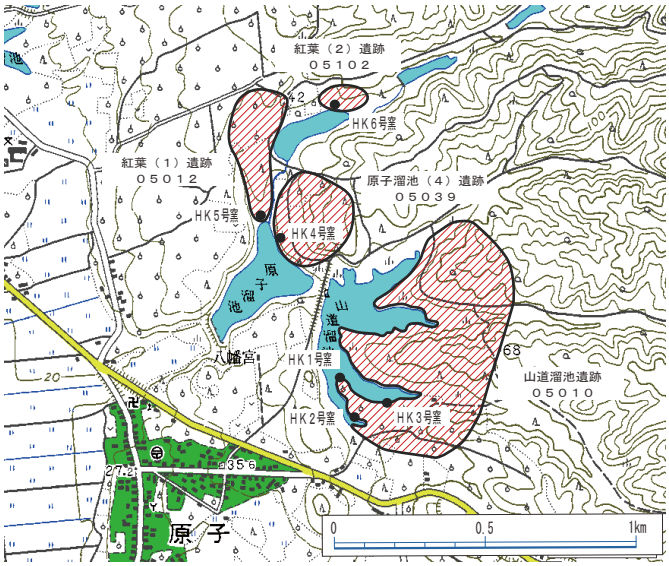
〔備　　考〕MD8 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。



第 78 図　前田野目窯跡群の位置

※MD 6・7・8・11・12・13・16 号窯は国指定史跡。

〔遺跡番号〕05012
〔遺 跡 名〕紅葉（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕もみじかっこいちいせき
〔種　　別〕集落跡、須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字原子字紅葉 279-1
・285-35
〔北　　緯〕40 度 46 分 27 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 43 秒



第 79 図　紅葉（1）遺跡の位置（05012）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：原子溜池の北岸丘陵部、標高 30 mに位置する。丘陵先端部には五所川原須恵器窯 1 基（HK5 号窯）が所在する。

○現 況 等：山林・原野。窯跡は溜池内に水没しており、干水時に窯体が露出する。窯跡の北側の平坦な丘陵部分には竪穴住居跡とみられる窪地が 10 数個確認されている。

○確認・表採遺物：HK5 号窯周辺からは甕の体部片が表採されている。

〔発掘履歴〕平成 14 年に五所川原市教育委員会が平坦部にある竪穴住居 2 棟の発掘調査を実施した。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『紅葉遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 24 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕HK5 号窯は平成 11 年の分布調査によって発見された。

〔遺跡番号〕05013
〔遺 跡 名〕砂田 C 遺跡
〔遺跡名ふりがな〕すなだしーいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目山国有林 142 林班そ小班
〔北　　緯〕40 度 46 分 51 秒
〔東　　経〕140 度 33 分 33 秒

〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川左岸の支流、沼ノ沢の北岸丘陵上、標高 130 mのところに五所川原須恵器窯跡が 2 基（MD3 号窯・MD17 号窯）確認されている。両者の距離はおよそ 250 m離れている。

○現 況 等：山林・原野。MD3 号窯は林道工事によって破壊され、窯尻と燃焼部の一部が残存するのみである。斜面の灰原は良く残されている。MD17 号窯は林道下の斜面にあって良好に残されている。

○確認・表採遺物：MD3 号窯からは削平された土砂が林道脇に一部残されており、そこから須恵器片（皿・坏・鉢・壷・甕）、窯壁片が表採されている。MD17 号窯からは甕の体部片ほかを採取した。

○そ の 他：MD3 号窯は 1960 年代に林道工事の際に発見された窯跡である。
MD17 号窯は平成 12 年の分布調査によって発見された。

〔発掘履歴〕MD3 号窯は 1972 年に立正大学の坂詰秀一氏によって、発掘調査が行われている。
MD17 号窯は平成 14 年に測量調査が行われている。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
坂詰秀一 1972「津軽持子沢窯跡の調査」『月刊考古学ジャーナル』第 75 号
福田友之 1993「砂田 C 遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05014
〔遺 跡 名〕砂田 D 遺跡
〔遺跡名ふりがな〕すなだでぃーいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字砂田 51-64
〔北　　緯〕40 度 46 分 25 秒
〔東　　経〕140 度 34 分 22 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川左岸の支流、鳥ノ子沢の北岸丘陵上、標高 170 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯跡が 2 基（MD4 号窯・MD5 号窯）ある。両者の距離はおよそ 30 m離れている。なお、かつて窯跡が 3 基あったが、そのうちの 1 基はすでに破壊されて消滅した。

○現 況 等：山林・原野。MD4 号窯は窯跡が発掘調査された状態で残されている。

〇確認・表採遺物：MD4 号窯は坏・広口壷・長頸壷・甕が出土している。
MD5 号窯は灰原調査のため出土量が多い。坏・広口壷・長頸・甕出土している。
また、壷には底部に菊花状文があるものもみられる。

〇そ の 他：1960 年代に林道工事の際に発見された窯跡である。MD4 号窯は林道工事により、窯尻部分が破壊されている。

〔発掘履歴〕昭和 48 年に村越潔氏・新谷武氏によって、MD4 号窯は窯体の調査、MD5 号窯は灰原の調査が行われている。

〔文　　献〕新谷武 1981「五所川原市周辺の須恵器窯跡出土の長頸壷について」『弘前大学考古学研究』第 1 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
榊原滋高 1998「五所川原砂田 D 窯須恵器の分析」『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 21 集
福田友之 1993「砂田 D 遺跡 1 号窯」「砂田 D 遺跡 2 号窯」『五所川原市史史料編 1 』五所川原市編
村越潔・新谷武 1974「青森県前田野目砂田遺跡発掘調査概報」『北奥古代文化』第 6 号

〔遺跡番号〕05015
〔遺 跡 名〕野脇遺跡
〔遺跡名ふりがな〕のわきいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字野脇 93
〔北　　緯〕40 度 46 分 34 秒
〔東　　経〕140 度 33 分 37 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

〇立地･範囲：前田野目川左岸の支流、増沢の北岸丘陵上、標高 120 ～ 130 mに位置する。
遺跡内には五所川原須恵器窯跡が 1 基（MD9 号窯）所在する。

〇現 況 等：山林・原野。窯跡は林道下の沼地に面しており、良好に残っている。

〇確認・表採遺物：須恵器の窯壁片や甕片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD9 号窯は平成 10 年の分布調査で発見された。

〔遺跡番号〕05016
〔遺 跡 名〕砂田E遺跡
〔遺跡名ふりがな〕すなだいーいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字前田野目山 1-6
〔北　　緯〕40 度 46 分 41 秒
〔東　　経〕140 度 33 分 44 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の左岸、沼ノ沢と増沢に挟まれた丘陵上、標高 170 mに位置する。平成 3 年の市史編纂事業による現地調査で、須恵器窯跡が確認された。
○現 況 等：山林・原野。林道工事によって窯跡の焚口部分がすでに破壊されている。
○確認・表採遺物：須恵器片と窯壁片が採集された。
○そ の 他：平成 3 年に窯跡が発見されたが、その後の分布調査では確認できず、現状は不明である。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「砂田 E 遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05017
〔遺 跡 名〕鞠ノ沢窯跡
〔遺跡名ふりがな〕まりのさわかまあと
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字鞠ノ沢 48-49
〔北　　緯〕40 度 46 分 04 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 58 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の右岸丘陵上、標高 100 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯跡 1 基（MD6 号窯）が所在する。
○現 況 等：盛土後に窯体の周囲をコンクリートで保護している。
○確認・表採遺物：須恵器の長頸壷・広口壷・甕・碗・坏が出土している。
○そ の 他：昭和 42 年に牧場整備の際に発見され、県内ではじめて確認された須恵器窯跡で、最大規模のものである。
〔発掘履歴〕昭和 43 年 5 月に立正大学の坂詰秀一氏が発掘調査を実施している。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 1968『津軽・前田野目窯跡』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
福田友之 1993「鞠ノ沢遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕MD6 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05018
〔遺 跡 名〕持子沢館
〔遺跡名ふりがな〕もっこざわだて
〔種　　別〕散布地、城館跡
〔主な時代〕縄文（後）、平安、中世
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 536-2、540-（1・2）
〔北　　緯〕40 度 44 分 50 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 56 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：前田野目川と高野大溜池に挟まれた丘陵端部、標高 40 mに位置する。規模は東西 300 m、南北 185 mの範囲で、郭は大きく 6 つに分けられる。
○現 況 等：りんご畑・山林・原野。りんご畑の中には、段上の遺構が残り、郭の痕跡を残すものとされる。また､舌状台地の端部を切る堀切が一部に残されている。
○確認・表採遺物：平成 3 年の市史編纂事業分布調査において、縄文土器、土師器・須恵器が表採されている。
○そ の 他：「高野館跡」･「稲館」という別称を持つが、館主や沿革は不明である。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書』
新谷雄蔵 1985『五所川原市史』津軽書房
小山彦逸 1993「中世城館跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
小山彦逸 1998「五所川原市内の城館と中世都市」『五所川原市史　通史編 1 』五所川原市編
沼館愛三 1977『津軽諸城の研究』みちのく双書第 34 集　青森県文化財保護協会

〔遺跡番号〕05019
〔遺 跡 名〕狼野長根遺跡
〔遺跡名ふりがな〕おいのながねいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（晩）、平安
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 629
〔北　　緯〕40 度 45 分 43 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 18 秒

〔遺跡概要〕（第 80 図参照）

○立地･範囲：狼野長根公園の西方丘陵上、標高 100 mに位置する。

○現 況 等：狼野長根公園・山林・原野・津軽富士見ランドホテル・駐車場。

○確認・表採遺物：縄文時代（晩期）の土器、平安時代の土師器・須恵器片が表採されている。

○そ の 他：住居跡とみられる窪地が広い範囲に認められる。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「狼野長根遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05020

〔遺 跡 名〕隠川（1）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこいちいせき

〔種　　別〕散布地、須恵器窯跡

〔主な時代〕縄文（中・後）、平安

〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 695-4 外

〔北　　緯〕40 度 45 分 31 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 36 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：狼野長根公園内にあり、奥溜池西岸丘陵斜面に位置し、標高 68 m上にある。
遺跡内に五所川原須恵器窯跡 1 基（MZ6 号窯）が所在する。

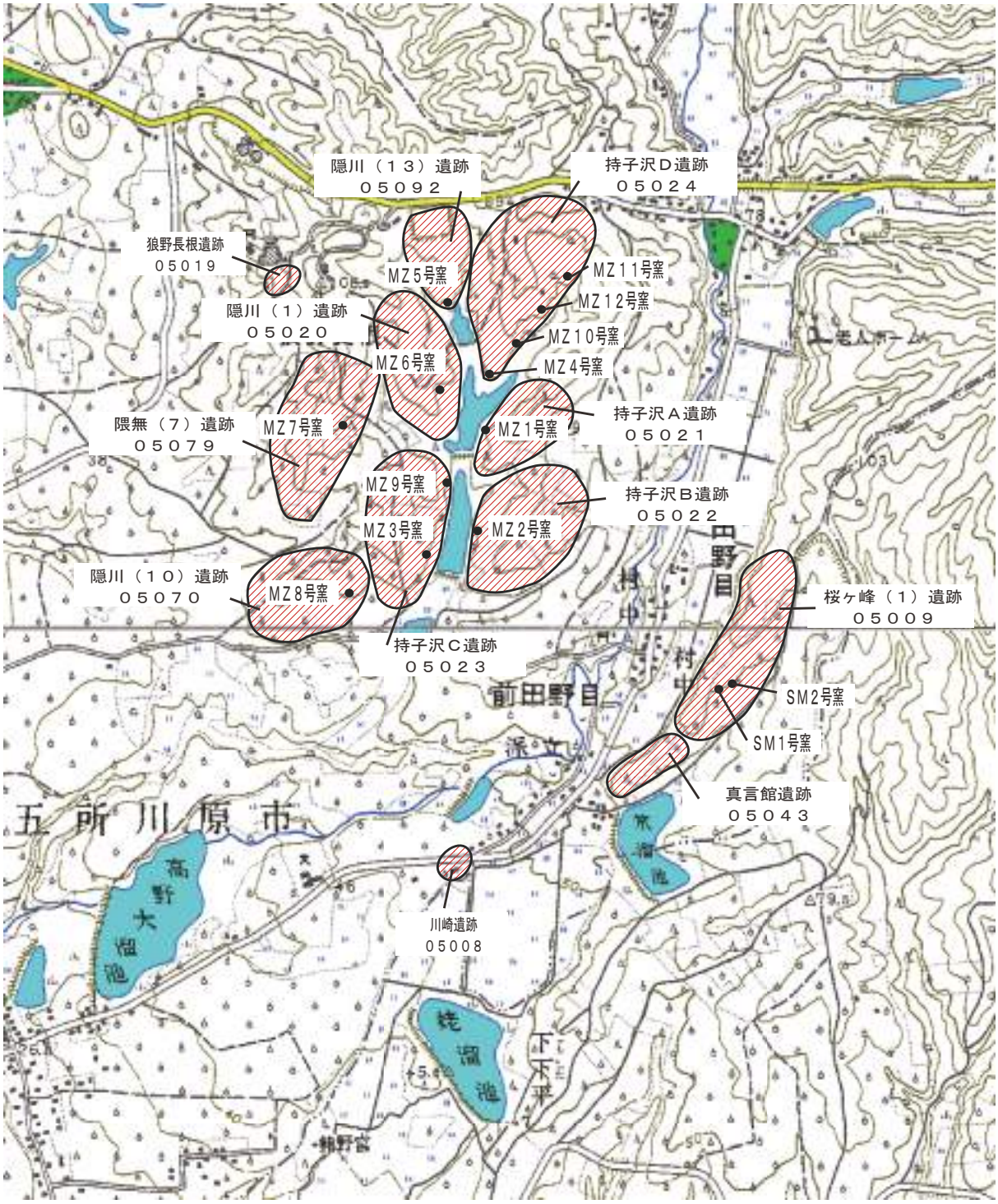
○現 況 等：MZ6 号窯周辺は、芝生を植生し、東屋・トイレ・ベンチ等の公園施設がある。
窯跡は調査後に土嚢で保護して埋め戻している。

○確認・表採遺物：縄文土器・土師器・須恵器が表採されている。
平成 13 年の MZ6 号窯調査では窯跡から須恵器（ミニュチュア・皿・蓋・坏・鉢・壷・甕）が出土している。

〔発掘履歴〕平成 13 年に五所川原市教育委員会が MZ6 号窯の発掘調査を実施した。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
福田友之 1993「隠川（1）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕MZ6 号窯は平成 10 年の磁気探査によって発見された。
MZ6 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。



第 80 図　持子沢窯跡群の位置（05020 ～ 05024・05070・05079・05092）

※ＭＺ５・６・10・11・12 号窯は国指定史跡。

〔遺跡番号〕05021
〔遺 跡 名〕持子沢A遺跡
〔遺跡名ふりがな〕もっこざわえーいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川693
〔北　　緯〕40度45分29秒
〔東　　経〕140度32分44秒
〔遺跡概要〕
○立地・範囲：持子沢地区、奥溜池南東岸の丘陵上、標高60ｍに位置する。五所川原須恵器1基（MZ1号窯）が所在する。
○現 況 等：原野で狼野長根公園内にある。MZ1号窯は溜池に水没している。
○確認・表採遺物：平成12年に溜池内から鉢・甕が採集されている。
〔発掘履歴〕昭和47年に立正大学の坂詰秀一氏がMZ1号窯（持子沢A地点）の発掘調査を行ったが、溜池内に水没したため未発掘に終わっている。
〔文　　献〕五所川原市教育委員会2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第25集
坂詰秀一1972「津軽・持子沢窯跡の調査」『月刊考古学ジャーナル』第75号
福田友之1993「持子沢A遺跡」『五所川原市史　史料編1』五所川原市編
〔備　　考〕MZ1号窯は新谷武氏によって、1970年頃に発見された窯跡である。

〔遺跡番号〕05022
〔遺 跡 名〕持子沢B遺跡
〔遺跡名ふりがな〕もっこざわびーいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川692
〔北　　緯〕40度45分19秒
〔東　　経〕140度32分41秒
〔遺跡概要〕（第80図参照）
○立地・範囲：持子沢地区、中溜池東岸の丘陵上、標高55ｍに位置する。五所川原須恵器1基（MZ2号窯）が所在する。

○現 況 等：狼野長根公園内にある。MZ2号窯は溜池の満水時に水没没する。
○確認・表採遺物：壷・甕・坏の須恵器片が出土している。「神」と記されたヘラ記号を持つ個体が出土している。

〔発掘履歴〕昭和 47 年に立正大学の坂詰秀一氏が MZ2 号窯の発掘調査を行った。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
坂詰秀一 1972「津軽・持子沢窯跡の調査」『月刊考古学ジャーナル』第 75 号
坂詰秀一 1973「津軽持子沢窯跡調査概報」『北奥古代文化』第 5 号
福田友之 1993「持子沢 B 遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕MZ2 号窯は新谷武氏によって、1970 年頃に発見された窯跡である。

〔遺跡番号〕05023
〔遺 跡 名〕持子沢 C 遺跡
〔遺跡名ふりがな〕もっこざわしーいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 629-33、696-97
〔北　　緯〕40 度 45 分 19 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 35 秒
〔遺跡概要〕（第 80 図参照）
○立地･範囲：持子沢地区、中溜池西岸の丘陵上、標高 60 m に位置する。五所川原須恵器窯跡 2 基（MZ3 号窯・MZ9 号窯）が所在する。
○現 況 等：山林・原野で狼野長根公園内にある。MZ9 号窯は用水堰によって、焚口及び燃焼部の一部が破壊されている。
○確認・表採遺物：MZ3 号窯からは須恵器の広口壷･長頸壷･坏片､灰原部分から壷･甕･坏のほか、鉄斧が出土している。MZ9 号窯からは窯壁片・甕片が表採されている。
〔発掘履歴〕昭和 48 年に立正大学の坂詰秀一氏が MZ3 号窯（持子沢 D 地点）の発掘調査を行った。
〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
坂詰秀一 1974「津軽持子沢窯跡第二調査概報」『北奥古代文化』第 6 号
福田友之 1993「持子沢 C 遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05024
〔遺 跡 名〕持子沢 D 遺跡
〔遺跡名ふりがな〕もっこざわでぃーいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 693、695-（4・81）

〔北　　緯〕40 度 45 分 39 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 46 秒

〔遺跡概要〕（第 80 図参照）

○立地･範囲：持子沢地区、奥溜池北岸の丘陵上、標高 60 ～ 80 mに位置する。五所川原須恵器窯跡 4 基（MZ4 号窯･MZ10 号窯･MZ11 号窯･MZ12 号窯）が所在する。

○現 況 等: 狼野長根公園の山林･原野の中にあり、窯跡は良好に残されている。ただし、MZ4 号窯のみ溜池に水没している。

○確認･表採遺物: MZ4 号窯周辺では坏・蓋・甕片が採集されている。MZ10 号窯・MZ11 号窯周辺では窯壁片・甕片が採集されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

福田友之 1993「持子沢 D 遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕平成 10 年の分布調査で MZ10 号窯が発見される。平成 12 年の分布調査で MZ4 号窯・MZ11 号窯・MZ12 号窯が発見される。

MZ10 号窯･MZ11 号窯･MZ12 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05025

〔遺 跡 名〕境山遺跡

〔遺跡名ふりがな〕さかいやまいせき

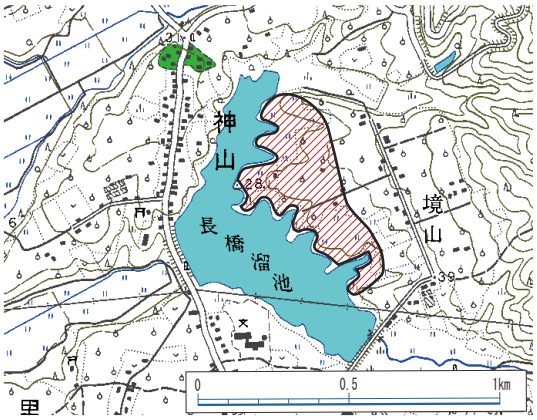
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字神山字境山 13

〔北　　緯〕40 度 47 分 31 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 13 秒



第 81 図　境山遺跡の位置（05025）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：神山川左岸、長橋溜池の東岸丘陵上、標高 25 ～ 30 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑・水田・山林・原野。

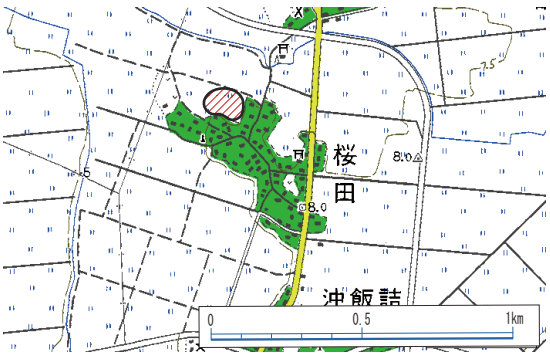
○確認･表採遺物：平成 3 年の市史編纂事業による現地調査で、平安時代の土師器・須恵器片が採集されている。

○そ の 他：かつて水田造成の際に、遺跡の多くが破壊されたとされる。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「境山遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05026
〔遺　跡　名〕鴻の巣遺跡
〔遺跡名ふりがな〕こうのすいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕大字桜田字鴻の巣 153
〔北　　緯〕40 度 50 分 36 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 15 秒



第 82 図　鴻の巣遺跡の位置（05026）

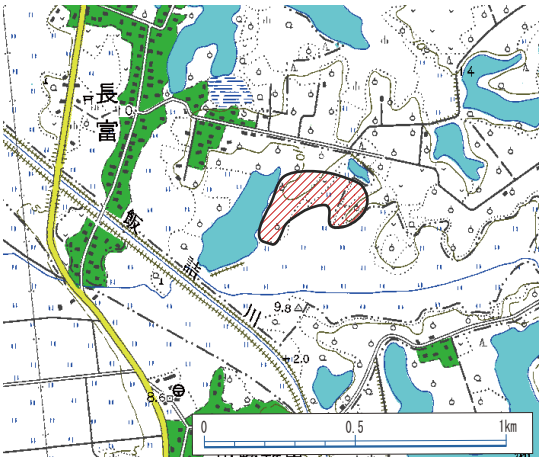
〔遺跡概要〕
○立地･範囲：中崎溜池の西方 1.5km の沖積地、標高 7 mに位置する。
○現　況　等：一帯は墓地・宅地・畑地・水田となっている。
○確認･表採遺物：かつて耕作中に須恵器の長頸壷 1 個体が発見されている。また、平成 3 年の市史編纂事業の現地調査では、平安時代の土師器片も採取されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「鴻の巣遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05027
〔遺　跡　名〕沢田遺跡
〔遺跡名ふりがな〕さわだいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（前・中・晩）
〔所　在　地〕大字飯詰字石田
〔北　　緯〕40 度 49 分 48 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 57 秒

第 83 図　沢田遺跡の位置（05027）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：糠塚川右岸の丘陵上にあり、標高 40 ～ 60 mに位置する。
○現　況　等：山林・原野
○確認･表採遺物：広範囲に渡って土器片が散乱している。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「沢田遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05028
〔遺 跡 名〕長富遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ながとみいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（前・中）
〔所 在 地〕大字長富字鎧石
〔北　　緯〕40 度 51 分 40 秒
〔東　　経〕140 度 27 分 49 秒
〔遺跡概要〕



第 84 図　長富遺跡の位置（05028）

○立地･範囲：飯詰川右岸丘陵上、標高 10 m に位置する。
○現 況 等：畑地・水田。かつて周囲にあった溜池は消失し、湿地帯となっている。
○確認･表採遺物：平成 3 年の市史編纂事業現地調査において縄文時代前期末葉の竪穴住居跡が崖面で確認され、土器・石器類も表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「鎧石遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
〔備　　考〕本遺跡は旧金木町に所在する「鎧石遺跡」と重複するため、大字名をとって「長富遺跡」に名称変更した。

〔遺跡番号〕05029
〔遺 跡 名〕金山大溜池遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かなやまおおためいけいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字金山字千代鶴、字松ヶ枝
〔北　　緯〕40 度 48 分 49 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 49 秒
〔遺跡概要〕

第 85 図　金山大溜池遺跡の位置（05029）

○立地･範囲：天神川左岸、大溜池の西岸丘陵上、標高 30 mに位置する。
○現 況 等：小学校跡地・りんご畑・宅地
○確認･表採遺物：平成 3 年の市史編纂事業における現地調査で、平安時代の須恵器片が採集されている。溜池水門付近に須恵器片が散布しており、散布地は溜池の中にも広がる可能性がある。

〔発掘履歴〕平成 11 年に五所川原市教育委員会が試掘調査を行っている。

〔文　　献〕福田友之 1993「金山大溜池遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05030

〔遺 跡 名〕福泉遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ふくいずみいせき

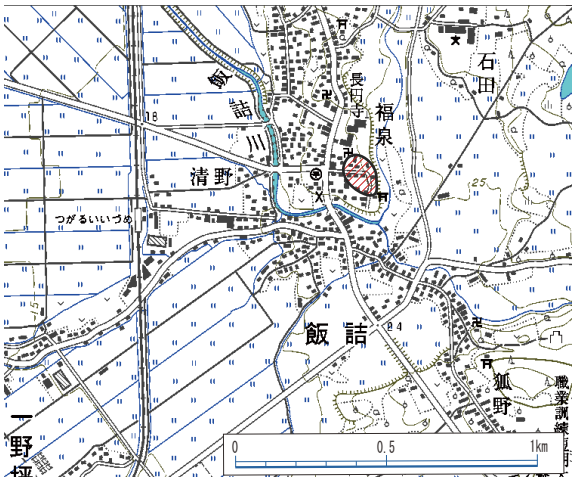
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（晩）

〔所 在 地〕大字飯詰字福泉 198

〔北　　緯〕40 度 49 分 52 秒

〔東　　経〕140 度 29 分 16 秒



第 86 図　福泉遺跡の位置（05030）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：飯詰川右岸の丘陵地、標高 30 m に位置する。飯詰集落のほぼ中央にあたり、飯詰八幡宮境内地と一帯の宅地である。

○現 況 等：住宅地・畑地・神社境内地

○確認・表採遺物：主に縄文時代晩期の土器が出土している（昭和 57 年調査）。

〔発掘履歴〕昭和 57 年に新谷雄蔵氏を調査担当者に五所川原市教育委員会が発掘調査を行っている。

〔文　　献〕赤沼英男 1986「布目状圧痕文のある石状遺物について」『郷土誌北奥文化』第７号

新谷雄蔵 1993「福泉遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

五所川原市教育委員会 1983『福泉遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第６集

〔遺跡番号〕05031

〔遺 跡 名〕藤巻遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ふじまきいせき

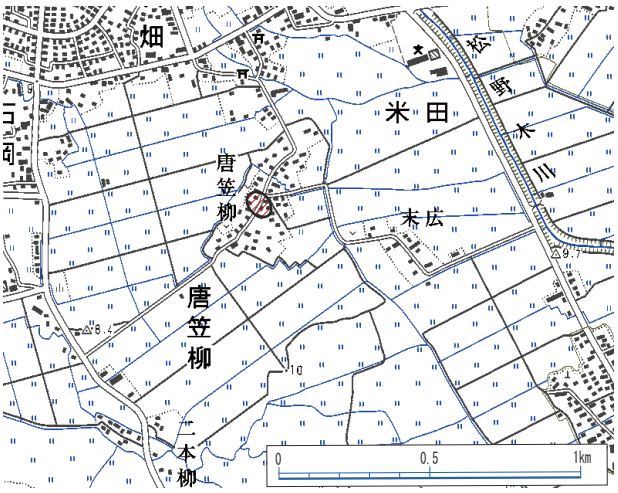
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（後・晩）

〔所 在 地〕大字唐笠柳字藤巻 427-2

〔北　　緯〕40 度 48 分 00 秒

〔東　　経〕140 度 28 分 04 秒



第 87 図　藤巻遺跡の位置（05031）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：松野木川の左岸沖積地、標高９ｍに位置する。

○現　況　等：宅地・畑地

○確認･表採遺物：昭和 27 年に家屋新築の掘削中に環状土器（内部が空洞で本体に口縁部をつけたもの。大洞 C2 式）が発見される。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「藤巻遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05032

〔遺　跡　名〕十三盛遺跡

〔遺跡名ふりがな〕じゅうさんもりいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（晩）、平安

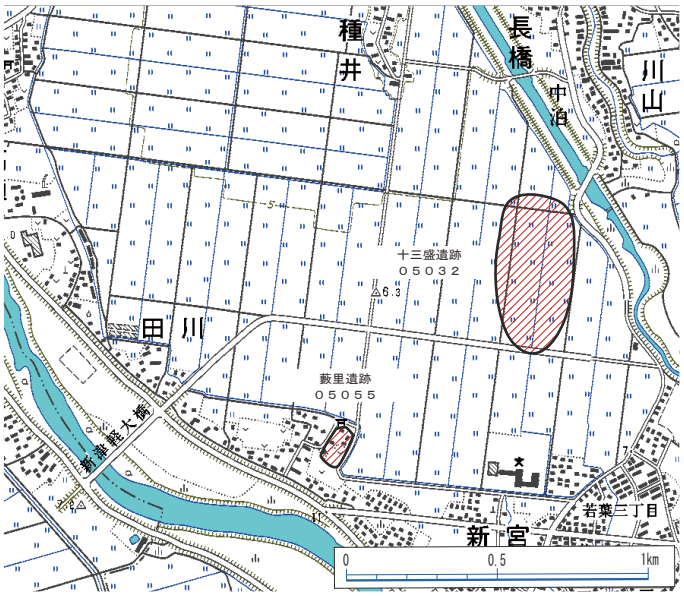
〔所　在　地〕大字長橋字広野 341-2

〔北　　緯〕40 度 49 分 39 秒

〔東　　経〕140 度 26 分 23 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：岩木川と旧十川に挟まれた沖積地、標高６ｍに位置する。



第 88 図　十三盛遺跡の位置（05032）

○現　況　等：水田地帯である。

○確認･表採遺物：縄文晩期の土器片のほか、平安時代の土師器・須恵器が表採されている。

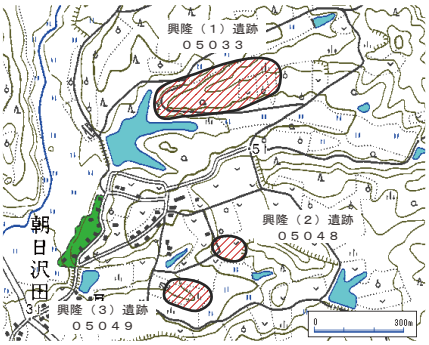
○そ　の　他：かつては円墳状の盛土があり、地元で「十三盛」と呼称されていたが、水田開発により削平された。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕半沢　紀 1987「十三盛遺跡」『郷土誌　北奥文化』第８号

福田友之 1993「十三盛遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

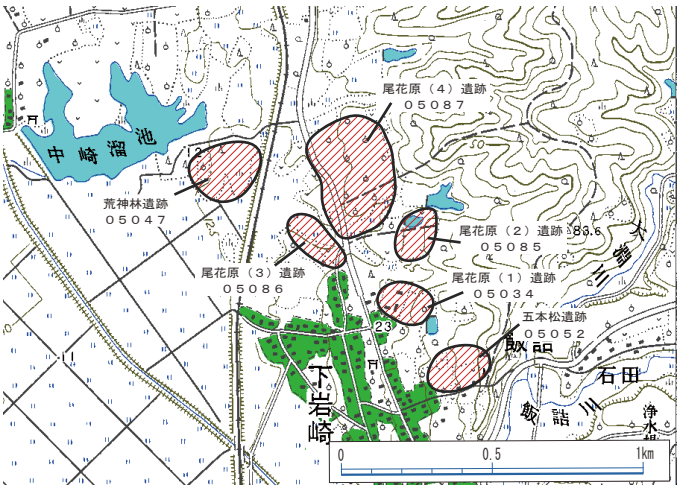
〔遺跡番号〕05033
〔遺　跡　名〕興隆（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕こうりゅうかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所　在　地〕大字飯詰字沢田 85-85
〔北　　緯〕40 度 49 分 54 秒
〔東　　経〕140 度 30 分 28 秒



第 89 図　興隆（1）遺跡の位置（05033）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：糠塚川左岸丘陵上、標高 50 ～ 60 mに位置する。
○現　況　等：山林・原野で、遺跡は良好に残されている。
○確認・表採遺物：縄文土器・石器片が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「興隆（1）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

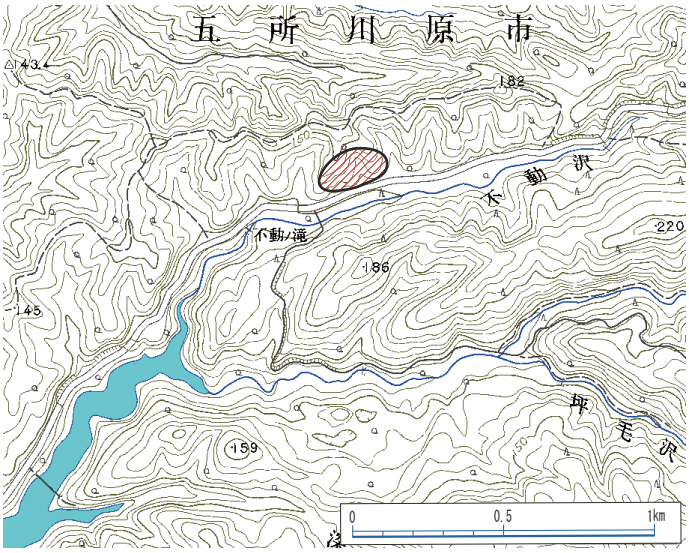
〔遺跡番号〕05034
〔遺　跡　名〕尾花原（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕おばなはらかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（中）、平安
〔所　在　地〕大字下岩崎字尾花原 34
〔北　　緯〕40 度 50 分 29 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 08 秒



第 90 図　尾花原（1）遺跡の位置（05034）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：中崎溜池の南東方向、
大淵川右岸の丘陵上、標高 25 mに位置する。
○現　況　等：宅地・りんご畑
○確認・表採遺物：平成３年には縄文時代中期（円筒上層ｄ式）の土器片と平安時代の須恵器片が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「尾花原遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
〔備　　考〕本遺跡はすでに尾花原（2）遺跡があることから、整合性を考慮して、「尾花原遺跡」から「尾花原（1）遺跡」に名称変更した。

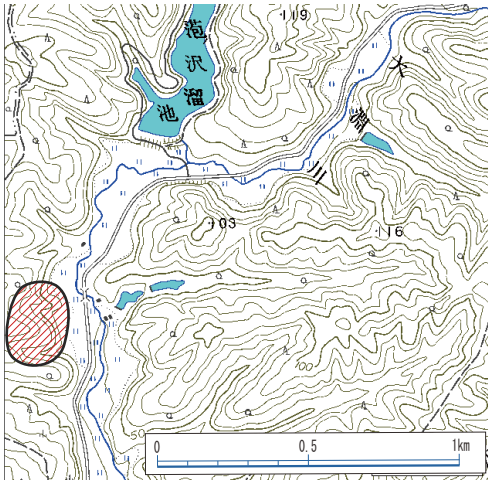
〔遺跡番号〕05035
〔遺 跡 名〕不動遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ふどういせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字飯詰字石田 326
〔北　　緯〕40 度 51 分 13 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 01 秒
〔遺跡概要〕
○立地･範囲：不動沢の右岸丘陵上、
標高 110 mに位置する。



第 91 図　不動遺跡の位置（05035）

○現 況 等：畑地
○確認・表採遺物：昭和 28 年頃の土地開墾の際に、平安時代の土師器片、鉄滓、フイゴ羽口が出土したとされる。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「不動遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

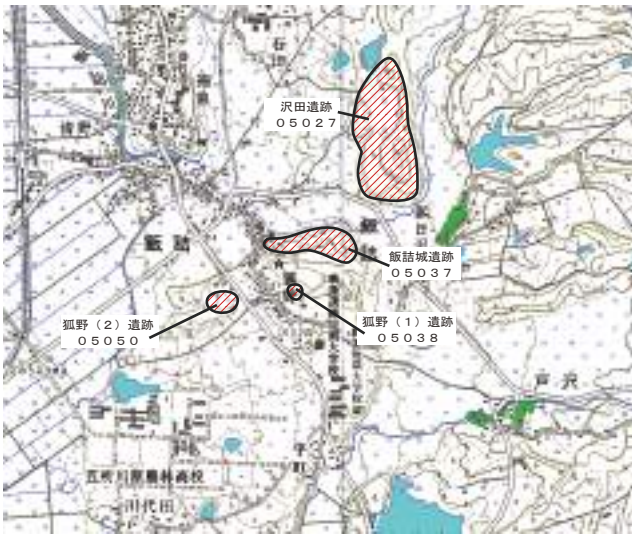
〔遺跡番号〕05036
〔遺 跡 名〕味噌ヶ沢遺跡
〔遺跡名ふりがな〕みそがさわいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所 在 地〕大字飯詰字影日沢
〔北　　緯〕40 度 51 分 17 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 51 秒
〔遺跡概要〕
○立地･範囲：大淵川の右岸丘陵上、
標高 50 ～ 60 mに位置する。



第 92 図　味噌ヶ沢遺跡の位置（05036）

○現 況 等：畑地
○確認・表採遺物：縄文時代の遺物包蔵地とされるが、不明である。
○そ の 他：過去に営林署で軌道開拓を行った際に数十個のヒスイ？の入った甕を掘り出したとされているが、所在不明である。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「味噌ヶ沢遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05037
〔遺 跡 名〕飯詰城遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いいづめじょういせき
〔種　　別〕散布地、城館跡
〔主な時代〕縄文、平安、中世
〔所 在 地〕大字飯詰字福泉 298 ほか
〔北　　緯〕40 度 49 分 34 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 40 秒



第 93 図　飯詰城跡の位置（05037）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：津軽飯詰駅から東方 1.5km、津軽平野を望む梵珠山地西麓に位置する。北に糠塚川、南に天神川に挟まれた丘陵端部にあり、標高は西側端部の高所で 56 mをはかる。三つの主要な郭で構成され、南北両側に階段状の帯郭が設けられている。規模は東西 470 m、南北は最大 200 mの範囲である。

○現 況 等：一部の公園、畑地のほかは山林に覆われている。

○確認・表採遺物：縄文時代の土器や石器、平安時代の土師器・須恵器、15・16 世紀代の中世陶磁器が表採されている。

○そ の 他：別名を「高館城」、「高楯城」と言う。飯詰城の終末は浪岡城落城の 10 年後、天正 16 年（1588）に大浦為信によって滅亡したとされる。

〔発掘履歴〕なし

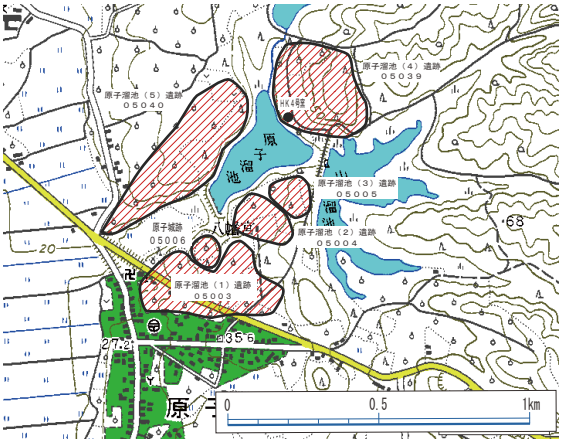
〔文　　献〕
青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書』
新谷雄蔵 1985『五所川原市史』津軽書房
太田文雄 1982「飯詰高楯城跡史蹟散歩」『郷土誌　北奥文化』第３号
小山彦逸 1998「五所川原市内の城館と中世都市」『五所川原市史　通史編１』五所川原市編
小山彦逸 1993「中世城館跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
五所川原市教育委員会　1996『飯詰城をめぐる諸問題』
沼館愛三 1977『津軽諸城の研究』みちのく双書第 34 集　青森県文化財保護協会
半沢紀 1989「飯詰高楯城に関する諸問題」『津軽平野』創刊号
半沢紀 1990「飯詰高楯城址採集の陶磁器について」『津軽平野』第二号
半沢紀 1993「中世陶磁器類」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
半沢紀 2000「飯詰城に関する諸問題（1)」『郷土誌　北奥文化』第 21 号　北奥文化研究会
半沢紀 2001「飯詰城に関する諸問題（2)」『郷土誌　北奥文化』第 22 号　北奥文化研究会
福士貞蔵 1951『飯詰村史』飯詰村役場

〔遺跡番号〕05038
〔遺 跡 名〕狐野（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕きつねのかっこいちいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文、平安
〔所 在 地〕大字飯詰字狐野 169-14
〔北　　緯〕40 度 49 分 26 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 39 秒
〔遺跡概要〕
○立地･範囲：糠塚川と天神川に挟まれた丘陵上、標高 25 mに位置する。

第 94 図　狐野（1）遺跡の位置（05038）

○現 況 等：畑地・宅地
○確認･表採遺物：昭和 53･54 年調査では、縄文時代の土器･石器、平安時代の土師器･須恵器･鉄滓・フイゴ羽口が出土している。
〔発掘履歴〕昭和 53・54 年調査に新谷雄蔵氏を調査担当者に五所川原市教育委員会で発掘調査を行っている。
〔文　　献〕新谷雄蔵 1993「狐野製鉄遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
五所川原市教育委員会 1979「狐野製鉄遺跡（第一次発掘調査概報）」
五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第 5 集
五所川原市教育委員会 1980「狐野製鉄遺跡（第二次発掘調査概報）」
五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第 6 集
〔備　　考〕本遺跡は狐野(2)遺跡との整合性を考慮して､｢狐野製鉄遺跡｣から｢狐野(1)遺跡｣に名称変更している。

〔遺跡番号〕05039
〔遺 跡 名〕原子溜池（4）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕はらこためいけかっこよんいせき
〔種　　別〕集落跡、須恵器窯跡
〔主な時代〕縄文、平安
〔所 在 地〕大字原子字山元 284-10 ほか
〔北　　緯〕40 度 46 分 23 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 48 秒



第 95 図　原子溜池（4）遺跡（05039）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：原子溜池・山道溜池の北岸丘陵上、標高 50 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯１基（HK4 号窯）が所在する。

○現 況 等：りんご畑。HK4 号窯は溜池内に水没しており、干水時に窯体が露出する。

○確認・表採遺物：縄文土器、平安時代の土師器・須恵器が出土している（平成９年調査）。

〔発掘履歴〕平成９年に新谷雄蔵氏を調査担当者に五所川原市教育委員会が発掘調査を実施している。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 1997『原子溜池（4）遺跡・原子溜池（5）遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 20 集

五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

福田友之 1993「原子溜池（4）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕本遺跡は原子溜池（1）～（3）遺跡に連なっており、整合性を考慮して、「原子下溜池（4）遺跡」から「原子溜池（4）遺跡」に名称変更している。HK4 号窯は平成 11 年の分布調査で発見された。

〔遺跡番号〕05040

〔遺 跡 名〕原子溜池（5）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕はらこためいけかっこごいせき

〔種　　別〕集落跡

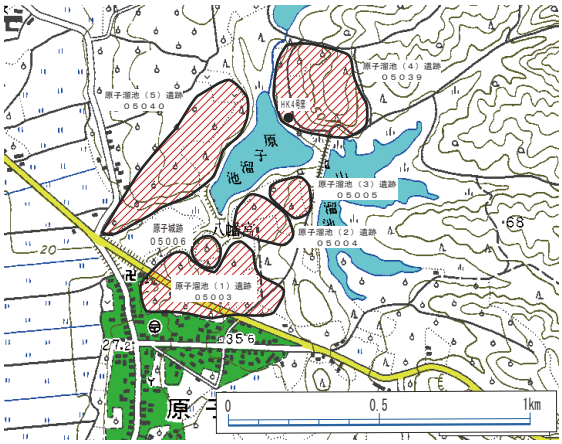
〔主な時代〕縄文（前・中・後）、平安

〔所 在 地〕大字原子字紅葉 96 ほか

〔北　　緯〕40 度 46 分 20 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 37 秒

〔遺跡概要〕



第 96 図　原子溜池(5)遺跡の位置(05040)

○立地･範囲：原子溜池の南西岸丘陵上、標高 25 mに位置する。

○現 況 等：山林・原野・畑地。鉄塔が建っている。

○確認・表採遺物：縄文時代（前～後期）の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器が出土している。

○そ の 他：縄文時代の竪穴住居跡３基、土坑 16 基、石囲炉１基、埋設土器遺構１基が検出されている（平成９年調査）。

〔発掘履歴〕平成９年に新谷雄蔵氏を調査担当者に五所川原市教育委員会が発掘調査を行っている。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 1997『原子溜池（4）遺跡・原子溜池（5）遺跡』
五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 20 集
福田友之 1993「原子溜池（5）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

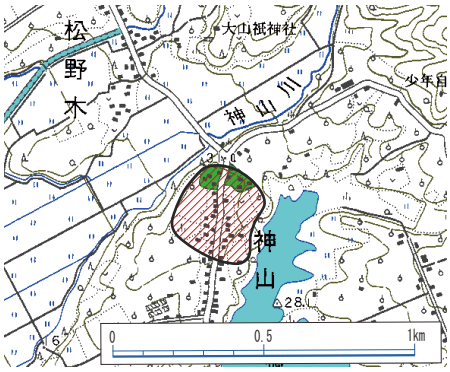
〔備　　考〕本遺跡は原子溜池（1）～（3）遺跡に連なっており、整合性を考慮して、「原子下溜池（5）遺跡」から「原子溜池（5）遺跡」に名称変更している。

〔遺跡番号〕05041
〔遺 跡 名〕金山館遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かねやまだていせき
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安、中世
〔所 在 地〕大字金山字千代鶴、字梅ヶ枝
〔北　　緯〕40 度 48 分 57 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 52 秒

第 97 図　金山館遺跡の位置（05041）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：金山大溜池の北西部丘陵上、標高 43 mに位置する。天神川左岸の丘陵上にある。規模は東西 150 m、南北 225 mの範囲にある単郭である。
○現 況 等：山林・りんご畑のほか、本館跡は主要地方道五所川原・金木線によって二分され、一部が破壊されている。
○確認・表採遺物：平成 3 年に土師器・須恵器片のほかに、14 ～ 15 世紀代の白磁・珠洲焼が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書
新谷雄蔵 1985『五所川原市史』津軽書房
小山彦逸 1993「中世城館跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
小山彦逸 1998「五所川原市内の城館と中世都市」『五所川原市史　通史編 1 』五所川原市編
半沢紀 1993「中世陶磁器類」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05042
〔遺　跡　名〕神山館遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かみやまだていせき
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安、中世
〔所　在　地〕大字神山字鶉野 15-1 ほか
〔北　　緯〕40 度 47 分 44 秒
〔東　　経〕140 度 30 分 51 秒



第 98 図　神山館遺跡の位置（05042）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：神山川左岸の丘陵上、神山集落北端の標高 35 mに位置する。東西 350 m、南北 295 mの範囲にある。館は 5 つの郭にわかれる可能性がある。
○現　況　等：ほとんどりんご畑であるが、一部道路沿いは宅地となっている。
○確認・表採遺物：平成 3 年の市史編纂事業の分布調査において、16 世紀代の青磁・瀬戸美濃製品が表採されている。
○そ　の　他：『本藩通観録』には「下ノ切神山村館主神山左京之助‥‥神山館深浦弾正」とある。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書
新谷雄蔵 1985『五所川原市史』津軽書房
小山彦逸 1993「中世城館跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
半沢紀 1993「中世陶磁器類」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05043
〔遺　跡　名〕真言館遺跡
〔遺跡名ふりがな〕しんごんだていせき
〔種　　別〕城館跡
〔主な時代〕平安、中世
〔所　在　地〕大字前田野目字桜ケ峰 86-30
〔北　　緯〕40 度 44 分 56 秒
〔東　　経〕140 度 33 分 01 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の左岸に面した標高 69 mほどの丘陵上に立地する。北東側から舌状に伸びる丘陵端部に位置し、前田野目川流域の平野部を望む。南側は笊溜池に接している。館跡は丘陵頂部に半球形の堀跡が巡り、主要な郭を構成している。規模は南北 60 m、東西 22 mほどである。また、南側には帯郭

状の地形が残り、これを含めると南北 150 m、東西 100 mの範囲となる。

○現 況 等：山林に覆われ、堀跡・土塁などの城郭遺構も良く残っている。

○確認・表採遺物：土師器・須恵器が採取されており、平安時代とみられる。

○そ の 他：館跡の来歴は定かでないが、梵珠山に近く、阿闍羅・十三とならぶ高野千坊と呼ばれる寺院が多くあったところと伝えられる。本館跡も寺院跡ではないかとする説もあるが、根拠は乏しい。また、関連史料に『東日流大成記』（五所川原市土岐家文書）に「前田野目に真言館有り。当寺真言宗の寺也。堀を廻したる故に館と言う。屋敷三反に足らず。」とあり、寺院跡との見方をしている。なお、館跡の付近を通る旧道は大釈迦・外ヶ浜方面へ通じる道路であった。

〔発掘履歴〕平成 8 年に五所川原市史編纂に伴う学術調査が五所川原市教育委員会によって行われている。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』青森県文化財調査報告書
新谷雄蔵 1985『五所川原市史』津軽書房
小山彦逸 1993「中世城館跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
小山彦逸 1996『真言館跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 19 集

〔遺跡番号〕05044

〔遺 跡 名〕石田遺跡

〔遺跡名ふりがな〕いしだいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕縄文、平安、中世、近世

〔所 在 地〕大字飯詰字石田 180-2、184 ほか

〔北　　緯〕40 度 50 分 05 秒

〔東　　経〕140 度 29 分 30 秒

第 99 図　石田遺跡の位置（05044）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：飯詰川左岸の丘陵上、標高 25 ～ 30 mに位置する。

○現 況 等：飯詰小学校の校庭を含む周辺の宅地・畑地が範囲となる。

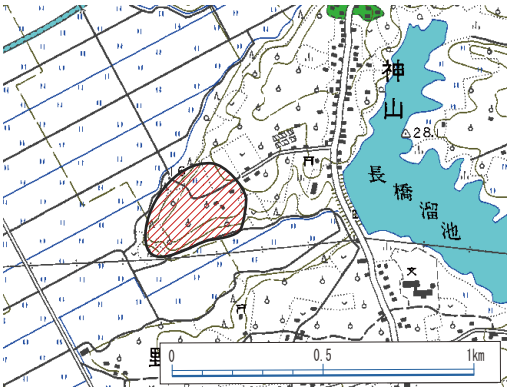
○確認・表採遺物：昭和 59 年、県文化課による現地調査の際に平安時代の土師器・須恵器片を採取している。平成 3 年の市史編纂事業による現地調査でも土師器・須恵器片・鉄滓を採取している。また、かつて 15 世紀代の青磁 2 点が表採されている。平成 6 年の調査では、縄文土器、平安時代の土師器･須恵器･擦文土器、

中世の瓦質土器・陶器等が出土している。

〔発掘履歴〕昭和 56 年、新谷雄蔵氏によって発掘調査が行われる。
平成 6 年に飯詰小学校増築に伴う発掘調査が五所川原市教育委員会によって行われる。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 1994『石田遺跡』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第 16 集
半沢紀 1993「中世陶磁器類」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
福田友之 1993「石田遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05045
〔遺 跡 名〕鶉野遺跡
〔遺跡名ふりがな〕うずらのいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（後・晩）、平安
〔所 在 地〕大字神山字鶉野 116-1、117-1、124 ほか
〔北　　緯〕40 度 47 分 24 秒
〔東　　経〕140 度 30 分 29 秒



第 100 図　鶉野遺跡の位置（05045）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：長橋溜池の西側丘陵上、標高 20 mに位置する。
○現 況 等：畑地・りんご畑・山林・宅地。
○確認・表採遺物：昭和 59 年の分布調査の際に崖面から須恵器窯跡とみられる焼土遺構と須恵器片が発見されたが、現在のところ窯跡の確認には至っていない。また、竪穴住居跡とみられる落ち込みも確認されている。平成 3 年の市史編纂事業による分布調査で、縄文時代（後・晩期）の土器片、平安時代の土師器・須恵器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「鶉野遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05046
〔遺 跡 名〕七ツ館遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ななつだていせき
〔種　　別〕散布地、城館跡
〔主な時代〕平安、中世
〔所 在 地〕大字七ツ館字西流 78-2 ほか
〔北　　緯〕40 度 46 分 30 秒

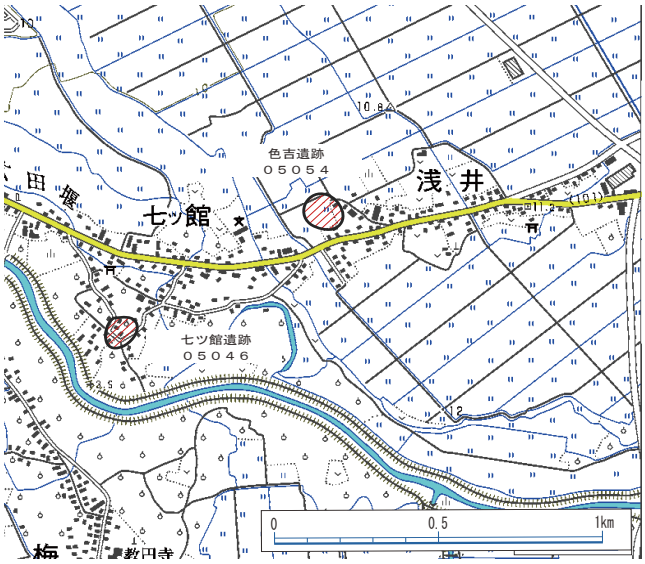
〔東　　経〕140 度 28 分 40 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：七ツ館集落の南側、十川右岸の沖積地、標高 10 mに位置する。

○現 況 等：畑地・水田・宅地・神社境内地・りんご畑。

○確認・表採遺物：これまで平安時代の土師器・須恵器のほか、古銭・磁器（染付）が表採されている。平成 3 年の市史編纂事業による現地調査でも平安時代の須恵器片が採集されている。



第 101 図　七ツ館遺跡の位置（05046）

○そ の 他：『津軽年代記』によれば昔、館跡が 7 ヶ所あったとされ、寛永年中に開墾のため破壊されたという。土塁跡・堀跡らしきものは認められるが、断定できない。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕太田文雄「七ツ館の館跡について」『東奥文化』第 59 集

沼館愛三 1977『津軽諸城の研究』みちのく双書第 34 集　青森県文化財保護協会

福田友之 1993「七ツ館遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05047

〔遺 跡 名〕荒神林遺跡

〔遺跡名ふりがな〕こうじんばやしいせき

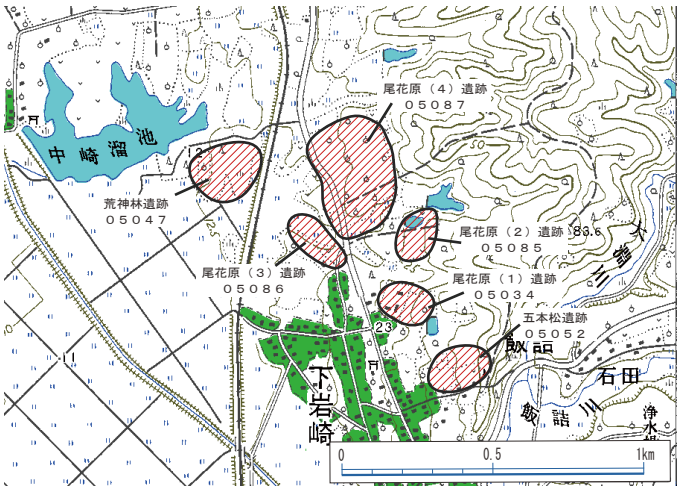
〔種　　別〕散布地、城館跡

〔主な時代〕縄文（晩）・平安・中世

〔所 在 地〕大字下岩崎字尾花原 151-2 ほか

〔北　　緯〕40 度 50 分 44 秒

〔東　　経〕140 度 28 分 42 秒



第 102 図　荒神林遺跡の位置（05047）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：中崎溜池の南西側丘陵上、標高 10 mに位置する。中崎溜池は消失し、現在は湿地帯となっている。

○現 況 等：山林・原野・畑地・水田。

〇確認・表採遺物：これまでに縄文晩期の土器片、平安時代の土師器・須恵器片・擦文土器、12 ～ 13 世紀代とみられる白磁片も表採されている。

〇そ の 他：地元では「重助館」とも呼称されている。二重の堀跡とみられる遺構が台地の北側を巡っており、館跡の特徴を備えている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕半沢紀 1993「中世陶磁器類」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

福田友之 1993「荒神林遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05048

〔遺 跡 名〕興隆（2）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕こうりゅうかっこにいせき

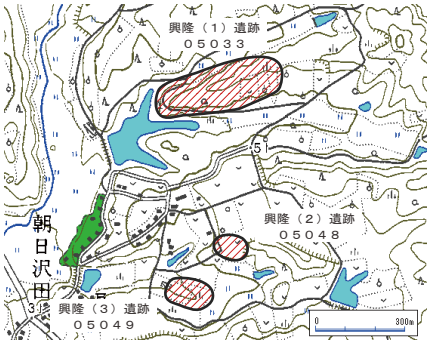
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文

〔所 在 地〕大字飯詰字沢田 85

〔北　　緯〕40 度 49 分 36 秒

〔東　　経〕140 度 30 分 29 秒



第 103 図　興隆 (2) 遺跡の位置 (05048)

〔遺跡概要〕

〇立地･範囲：糠塚川左岸丘陵上、標高 50 mに位置する。

〇現 況 等：畑地・荒地。土砂採取で完全に遺跡が破壊されたものとみられる。

〇確認・表採遺物：平成３年の市史編纂事業による現地調査で、フラスコ状土坑が崖面で確認される。縄文土器・石器剥片も表採される。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「興隆（2）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05049

〔遺 跡 名〕興隆（3）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕こうりゅうかっこさんいせき

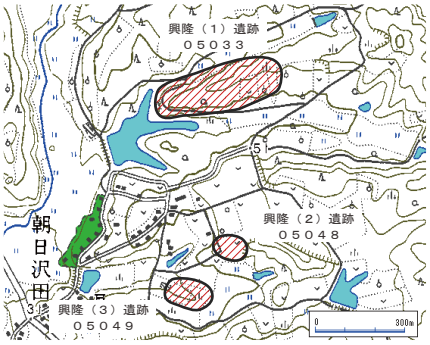
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（前）

〔所 在 地〕大字飯詰字沢田

〔北　　緯〕40 度 49 分 32 秒

〔東　　経〕140 度 30 分 22 秒



第 104 図　興隆 (3) 遺跡の位置 (05049)

〔遺跡概要〕

〇立地･範囲：糠塚川左岸の丘陵上、標高 45 mに位置する。

○現 況 等：畑地・荒地。土砂採取で完全に遺跡が破壊されたものとみられる。
○確認・表採遺物：縄文時代前期末葉（円筒下層ｄ式）の土器が３個体発見されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「興隆（3）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05050
〔遺 跡 名〕狐野（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕きつねのかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字飯詰字狐野 107-3
〔北　　緯〕40 度 49 分 25 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 23 秒
〔遺跡概要〕
○立地･範囲：糠塚川左岸の丘陵上、
標高 35 mに位置する。

第 105 図　狐野（2）遺跡の位置（05050）

○現 況 等：畑地・宅地
○確認・表採遺物：かつて、平安時代の竪穴住居跡が崖面に露出し、土師器が採集されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕福田友之 1993「狐野（2）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05051
〔遺 跡 名〕犬走（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いぬばしりかっこいちいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字犬走 55-138
〔北　　緯〕40 度 45 分 52 秒
〔東　　経〕140 度 33 分 02 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の右岸丘陵上にあり、標高 80 mのところにある。
○現 況 等：荒地・原野。本遺跡は削平を受けたものとみられ、現在は平坦な地形である。
周辺部はバイパス工事や土砂採取等により、急な崖となる箇所もある。

〇確認・表採遺物：須恵器長頸壷１個体が発見されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「犬走（1）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05052

〔遺 跡 名〕五本松遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ごほんまついせき

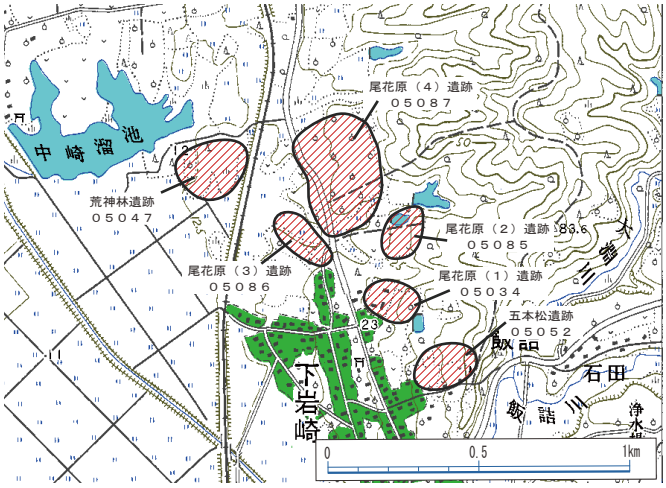
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字飯詰字影日沢 219-40

〔北　　緯〕40 度 50 分 21 秒

〔東　　経〕140 度 29 分 18 秒



第 106 図　五本松遺跡の位置（05052）

〔遺跡概要〕

〇立地･範囲：大淵川と飯詰川の合流点、右岸の丘陵上、標高 50 ～ 60 mに位置する。

〇現 況 等：畑地・墓地

〇確認・表採遺物：かつて、平安時代の竪穴住居跡が崖面に露出していたが、現在では墓地となって不明である。平成３年の市史編纂事業による現地調査では、土師器片が採取された。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「五本松遺跡」
『五所川原市史　史料編１』
五所川原市編

〔遺跡番号〕05053

〔遺 跡 名〕田子ノ浦遺跡

〔遺跡名ふりがな〕たごのうらいせき

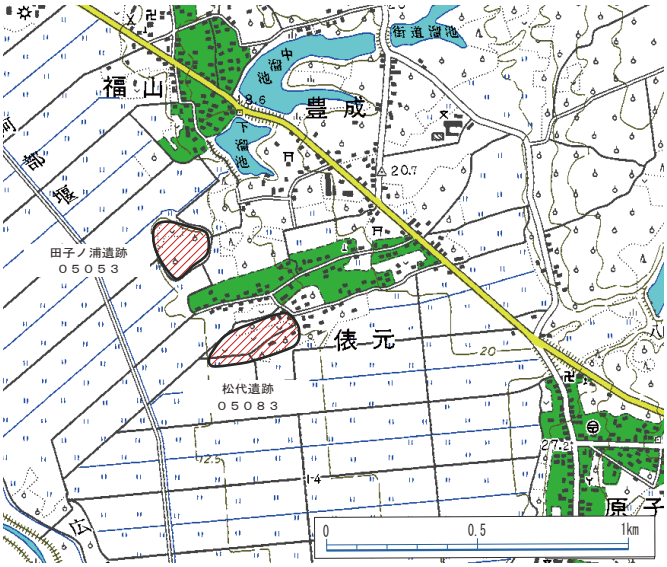
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字豊成字田子ノ浦 163

〔北　　緯〕40 度 46 分 20 秒

〔東　　経〕140 度 30 分 32 秒



第 107 図　田子ノ浦遺跡の位置（05053）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：十川右岸の沖積地、標高 12 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認･表採遺物：平安時代の土師器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「田子ノ浦遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05054

〔遺 跡 名〕色吉遺跡

〔遺跡名ふりがな〕いろよしいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（中・晩）、平安

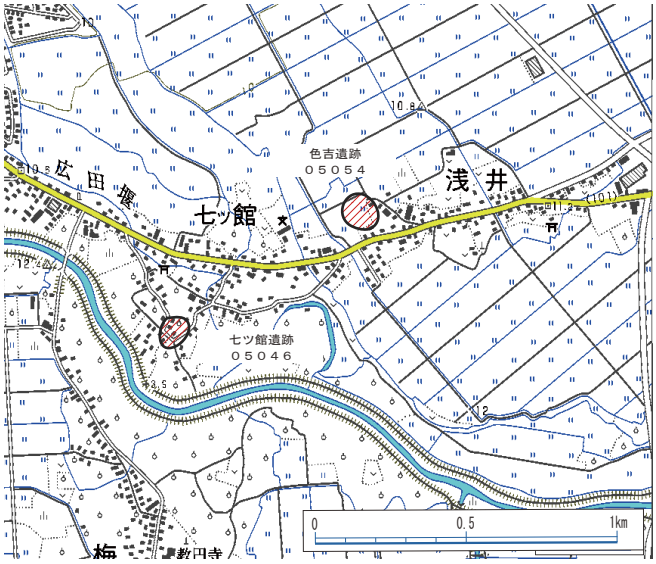
〔所 在 地〕大字浅井字色吉 145-2

〔北　　緯〕40 度 46 分 41 秒

〔東　　経〕140 度 29 分 06 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：十川右岸の沖積地、標高 10 mに位置する。



第 108 図　色吉遺跡の位置（05054）

○現 況 等：畑地・宅地

○確認･表採遺物：縄文晩期大洞 C2 式の土器片、黒曜石片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「色吉遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05055

〔遺 跡 名〕藪里遺跡

〔遺跡名ふりがな〕やぶさといせき

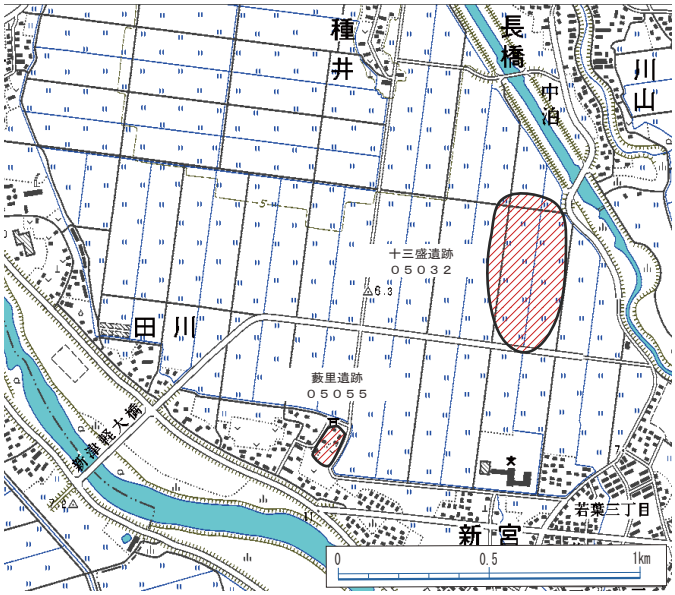
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文（晩）、平安、近世

〔所 在 地〕大字田川字藪里 112-1･2

〔北　　緯〕40 度 49 分 20 秒

〔東　　経〕140 度 25 分 54 秒



第 109 図　藪里遺跡の位置（05055）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：岩木川の右岸沖積地、標高６ｍに位置する。

○現　況　等：田川八幡宮の境内地と周辺の畑地。

○確認・表採遺物：縄文晩期の土器片、平安時代の土師器・須恵器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「藪里遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05056

〔遺　跡　名〕中子遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ちゅうしいせき

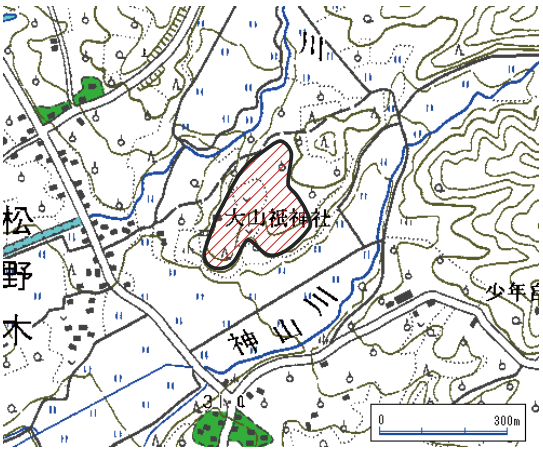
〔種　　別〕散布地、城館跡

〔主な時代〕平安

〔所　在　地〕大字松野木字中子 6-10

〔北　　緯〕40 度 48 分 02 秒

〔東　　経〕140 度 30 分 59 秒



第 110 図　中子遺跡の位置（05056）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：松野木川と神山川に挟まれた丘陵上、標高 45 ～ 50 ｍに位置する。
大山祇神社一帯。

○現　況　等：神社境内地と周辺のりんご畑。今回の調査で大山祇神社のある丘陵には、階段状のテラスと丘陵端部を切る堀切が残されており、館跡と判断された。

○確認・表採遺物：これまでに平安時代の土師器・須恵器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「中子遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔遺跡番号〕05057

〔遺　跡　名〕稲葉遺跡

〔遺跡名ふりがな〕いなばいせき

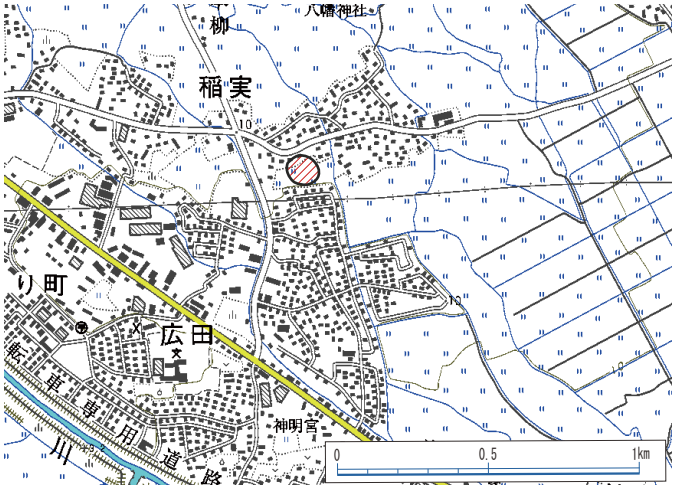
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安、近世

〔所　在　地〕大字稲実字稲葉 83-1

〔北　　緯〕40 度 47 分 16 秒

〔東　　経〕140 度 28 分 06 秒



第 111 図　稲葉遺跡の位置（05057）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：十川の右岸沖積地、標高 8 mに位置する。

○現　況　等：畑地・宅地

○確認･表採遺物：これまでに平安時代の土師器・須恵器片、近世陶磁器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕福田友之 1993「稲葉遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05058

〔遺　跡　名〕平野遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ひらのいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安、中世

〔所　在　地〕大字梅田字平野 48-1

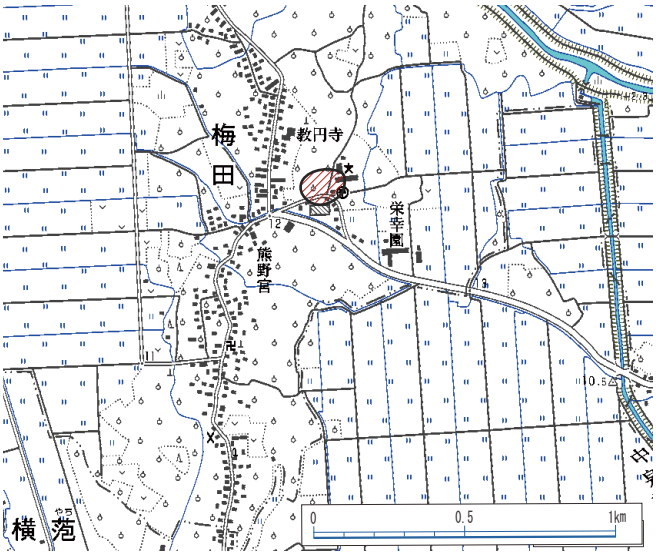
〔北　　緯〕40 度 46 分 00 秒

〔東　　経〕140 度 28 分 43 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：十川の左岸沖積地、標高 10 mに位置する。

○現　況　等：一帯は畑地・りんご畑・小学校跡地・郵便局跡地になっている。



第 112 図　平野遺跡の位置（05058）

○確認･表採遺物：平安時代の須恵器片、中世の中国製染付が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕半沢紀 1993「中世陶磁器類」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

福田友之 1993「平野遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔遺跡番号〕05059

〔遺　跡　名〕桜ヶ峰（2）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕さくらがみねかっこにいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文、弥生、平安

〔所　在　地〕大字前田野目字桜ケ峰 86-9 ほか

〔北　　緯〕40 度 45 分 02 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 18 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：前田野目川の左岸丘陵上、標高 60 ～ 70 mに立地する。

○現 況 等：リンゴ園・津軽自動車道

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片が採取されている。平成７年調査では縄文時代（前期～晩期）の土器･石器、弥生土器、続縄文土器（後北式）、平安時代の土師器･須恵器が出土している。

〔発掘履歴〕平成７年に青森県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査が行われる。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

青森県教育委員会 1997『桜ヶ峰（2）遺跡－国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－』青森県埋蔵文化財調査報告書第 208 集

福田友之 1993「桜ヶ峰（2）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05060

〔遺 跡 名〕桜ヶ峰（3）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕さくらがみねかっこさんいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文、平安

〔所 在 地〕大字前田野目字桜ケ峰

〔北　　緯〕40 度 44 分 53 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 10 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：前田野目川の左岸丘陵上、笊溜池東部丘陵上、標高 55 ～ 75 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑・山林

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器・須恵器が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

福田友之 1993「桜ヶ峰（3）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05061

〔遺 跡 名〕犬走（2）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕いぬばしりかっこにいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字持子沢字犬走

〔北　　緯〕40 度 45 分 27 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 02 秒

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：前田野目川の右岸丘陵上、標高 80 ～ 90 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑・山林

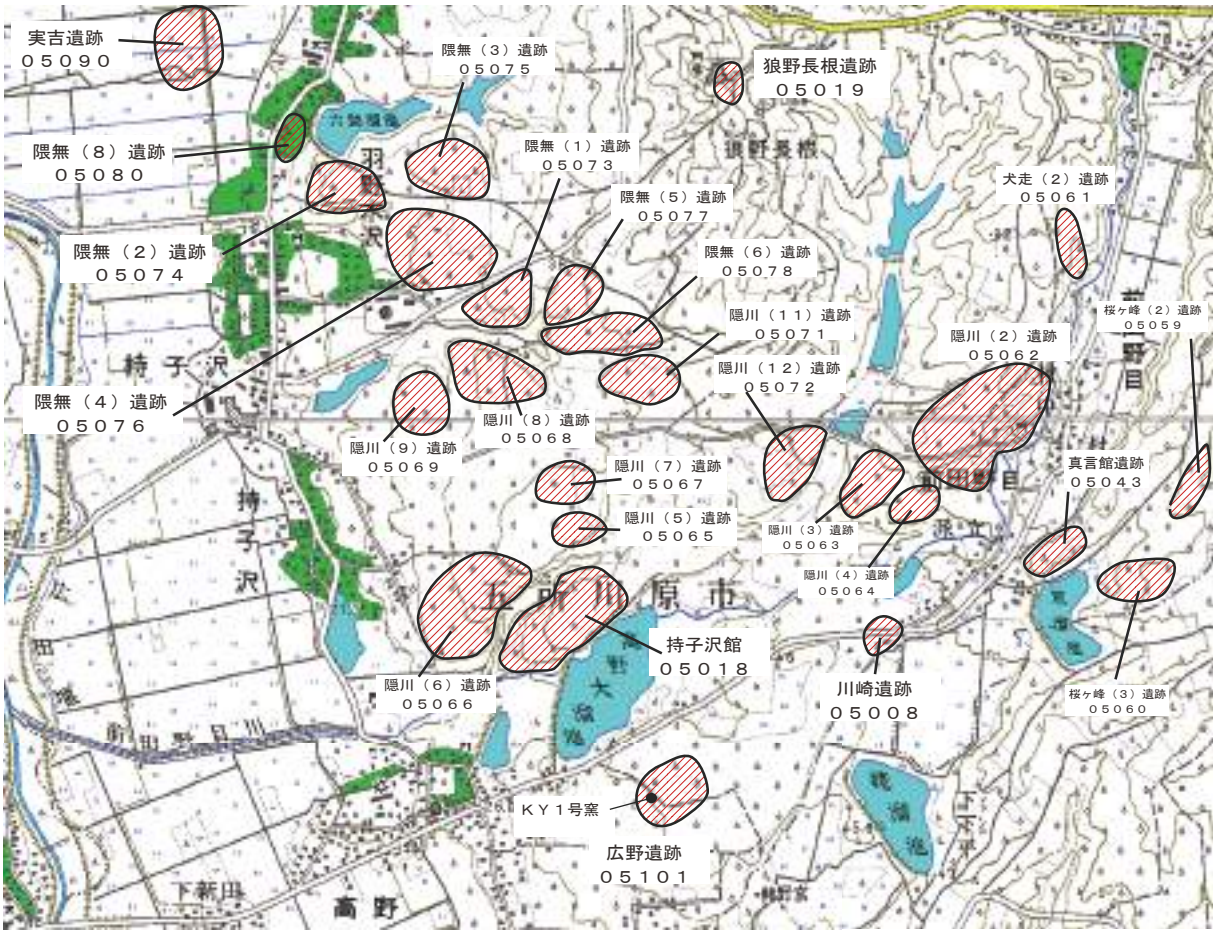
○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、平安時代の土師器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

福田友之 1993「犬走（2）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。



第 113 図　七和地区の遺跡位置

〔遺跡番号〕05062
〔遺 跡 名〕隠川（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこにいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕旧石器、縄文（早～晩）、平安、近世
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 622 ほか
〔北　　緯〕40 度 45 分 10 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 53 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：前田野目川右岸の丘陵上、標高 40 ～ 70 mのところに立地する。
○現 況 等：津軽自動車道・りんご畑・山林・荒地、東端に松倉神社が所在する。
○確認・表採遺物：旧石器（荒屋型彫刻刀）、縄文土器（早～晩期）・石器類、平安時代の土師器・須恵器・鉄滓などが出土している（平成 10・11 年調査）。
○そ の 他：平成 10・11 年調査では、ロクロピットを有する竪穴住居跡が確認され、周辺の窯跡（MZ 支群）との関連が注目される。須恵器製作工人の集落跡か。
〔発掘履歴〕平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、平安時代の土師器・須恵器片が表採される。平成９年に青森県教育庁文化課が試掘調査を行う。平成 10・11 年には五所川原市教育委員会が発掘調査を行う。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
五所川原市教育委員会　2000『隠川（2）外遺跡発掘調査報告書―県営前田野目農免農道整備事業に伴う発掘調査報告書―』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 22 集
福田友之 1993「隠川（2）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05063
〔遺 跡 名〕隠川（3）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこさんいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（前～晩）、弥生、平安、近世
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 52 ほか
〔北　　緯〕40 度 45 分 01 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 41 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：前田野目川右岸の丘陵上、標高 50 ～ 55 mに位置する。
○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道

〇確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、平安時代の土師器片などが表採される。平成７年調査では、縄文時代（前期～晩期）の土器・石器、弥生時代の土器、平安時代の土師器、須恵器が出土している。

〇そ の 他：平成７年調査では、縄文時代の土坑 11 基、平安時代の竪穴住居６軒、掘立柱建物２棟、溝状遺構２条が検出される。掘立柱建物と外周溝を伴う住居を検出している。

〔発掘履歴〕平成７年に青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を行う。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

青森県教育委員会 1997『隠川（3）―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 210 集

福田友之 1993「隠川（3）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05064

〔遺 跡 名〕隠川（4）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこよんいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕縄文（早～晩）、弥生、平安、近世

〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 616 ほか

〔北　　緯〕40 度 45 分 01 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 34 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

〇立地･範囲：前田野目川右岸の丘陵上、標高 45 ～ 50 mに位置する。

〇現 況 等：りんご畑、津軽自動車道

〇確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、平安時代の土師器･須恵器片が表採される。平成８年調査では、縄文（早期～晩期）の土器･石器、弥生土器、平安時代の土師器・須恵器、近世・近代の陶磁器・銭貨等が出土している。

〇そ の 他：平成８年調査では、平安時代の竪穴住居跡７軒、土坑７基、溝状遺構１条、並列溝状遺構、井戸跡１基が検出されている。なかでもロクロピットを有する竪穴住居跡が確認されており、周辺の窯跡との関連が注目される。

〔発掘履歴〕平成８年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

青森県教育委員会 1998『隠川（4）・隠川（12）遺跡Ⅰ―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業

に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 244 集

福田友之 1993「隠川（4）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05065

〔遺 跡 名〕隠川（5）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこごいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字持子沢字隠川

〔北　　緯〕40 度 44 分 57 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 58 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：高野大溜池の北部丘陵上、標高 30 ～ 40 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、平安時代の土師器・須恵器片が採集された。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

福田友之 1993「隠川（5）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05066

〔遺 跡 名〕隠川（6）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっころくいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文、平安

〔所 在 地〕大字持子沢字隠川

〔北　　緯〕40 度 44 分 51 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 45 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：前田野目川の右岸丘陵上、標高 30 ～ 40 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、

平安時代の土師器・須恵器片が採取された。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
福田友之 1993「隠川（6）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05067

〔遺 跡 名〕隠川（7）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこなないせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安、近世

〔所 在 地〕大字持子沢字隠川

〔北　　緯〕40 度 45 分 03 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 56 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：前田野目川の右岸丘陵上、標高 40 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、平安時代の土師器・須恵器片が採取された。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
福田友之 1993「隠川（7）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05068

〔遺 跡 名〕隠川（8）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこはちいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文、平安

〔所 在 地〕大字持子沢字隠川

〔北　　緯〕40 度 45 分 14 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 45 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：持子沢地区の東方丘陵上、標高 30 ～ 40 mに位置する。

〇現 況 等：りんご畑
〇確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器片が採取された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
福田友之 1993「隠川（8）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05069
〔遺 跡 名〕隠川（9）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこきゅういせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川
〔北　　緯〕40 度 45 分 12 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 37 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
〇立地･範囲：持子沢地区の東方丘陵上、標高 30 mに位置する。
〇現 況 等：りんご畑
〇確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片が採取された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
福田友之 1993「隠川（9）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05070
〔遺 跡 名〕隠川（10）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこじゅういせき
〔種　　別〕散布地、須恵器窯跡
〔主な時代〕縄文、平安
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 629-18 ほか
〔北　　緯〕40 度 45 分 13 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 25 秒

〔遺跡概要〕（第 80 図参照）

○立地･範囲：持子沢地区。中溜池の西側丘陵上、標高 50 ～ 70 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MZ8 号窯）が位置する。

○現 況 等：りんご畑。りんご畑の土地造成によって、窯跡の位置確認が困難である。

○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器・須恵器が採取された。

〔発掘履歴〕平成 11 年に MZ8 号窯で試掘調査が行われる。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
福田友之 1993「隠川（10）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編

〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。MZ8 号窯は平成 12 年の分布調査で発見された。

〔遺跡番号〕05071

〔遺 跡 名〕隠川（11）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこじゅういちいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕縄文（早～晩）、弥生、古墳、平安、近世

〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 355

〔北　　緯〕40 度 45 分 13 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 02 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：持子沢地区の東方丘陵上、標高 40 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道

○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器片が採取された。
平成 9 年調査では縄文時代（早～晩期）の土器･石器､続縄文土器（後北式）、古式土師器（塩釜式）、平安時代の土師器・須恵器・焼成粘土塊、近世・近代の陶磁器類が出土している。

○そ の 他：平成 9 年調査では縄文時代の土坑 44 基、竪穴住居 1 軒等が検出されている。
平成 11 年調査では土坑が主体を占め、30 基検出されている。

〔発掘履歴〕平成 9・11 年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

青森県教育委員会 1999『隠川（11）Ⅰ・隠川（12）遺跡Ⅱ―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 260 集
青森県教育委員会 2001『隠川（11）Ⅱ―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 295 集
福田友之 1993「隠川（11）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05072
〔遺 跡 名〕隠川（12）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこじゅうにいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（前～晩）、弥生、平安、近世
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 622、627 ほか
〔北　　緯〕40 度 45 分 05 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 25 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：前田野目川右岸の標高 45 ～ 55 ｍの丘陵上に位置する。
○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道
○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片・石鏃、平安時代の土師器・須恵器片が採取された。
平成８年調査では縄文（前～晩期）の土器・石器、弥生土器、平安時代の土師器・須恵器、須恵器窯壁片、近世・近代の陶磁器・銭貨が出土している。
○そ の 他：平成８年調査では、平安時代の竪穴住居跡６軒、土坑 18 基、溝状遺構１条、並列溝状遺構４面、井戸跡１基が検出されている。なかでもロクロピットを有する竪穴住居跡が確認されており、周辺の窯跡との関連が注目される。
平成９年調査では、縄文時代の土坑１基、平安時代の土坑１基・並列溝状遺構（畠跡）２面等が検出されている。
〔発掘履歴〕平成８・９年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
青森県教育委員会 1998『隠川（4）・隠川（12）遺跡Ⅰ―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 244 集
青森県教育委員会 1999『隠川（11）Ⅰ・隠川（12）遺跡Ⅱ―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 260 集
福田友之 1993「隠川（12）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05073
〔遺 跡 名〕隈無（1）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっこいちいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（早～晩）、弥生、平安、近世
〔所 在 地〕大字羽野木沢字隈無 55
〔北　　緯〕北緯 40 度 45 分 21 秒
〔東　　経〕東経 140 度 31 分 48 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：羽野木沢地区東方の丘陵上、標高 25 ～ 35 mのところに位置する。
○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道
○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器片が採取された。
平成 8 年調査では、縄文時代（早期末～晩期）の土器･石器、続縄文土器（後北式）、平安時代の土師器・須恵器、近世・近代の陶磁器・銭貨等が出土している。
○そ の 他：平成 8 年調査では、縄文時代の竪穴住居跡 3 軒・土坑 35 基・屋外炉 1 基・埋設土器 2 基が検出された。
〔発掘履歴〕平成 8 年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
青森県教育委員会 1998『隈無（1）遺跡・隈無（2）遺跡・隈無（6）遺跡－国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－』青森県埋蔵文化財調査報告書第 237 集
福田友之 1993「隈無（1）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05074
〔遺 跡 名〕隈無（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっこにいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（早～晩）、平安、近世
〔所 在 地〕大字羽野木沢字隈無 109
〔北　　緯〕40 度 45 分 32 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 25 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：六助溜池の南岸丘陵上、標高 20 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器片が採取された。

平成７・８年調査では、縄文時代（早期～晩期）の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器、近世・近代の陶磁器・銭貨等が出土している。

○そ の 他：平成７・８年調査では、時代の竪穴住居跡１軒・土坑５基・溝状遺構１条、近世の火葬場跡１基等が検出されている。

〔発掘履歴〕平成７・８年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

青森県教育委員会 1998『隈無（1）遺跡・隈無（2）遺跡・隈無（6）遺跡－国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－』青森県埋蔵文化財調査報告書第 237 集

福田友之 1993「隈無（2）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05075

〔遺 跡 名〕隈無（3）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっこさんいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文、平安

〔所 在 地〕大字羽野木沢字隈無

〔北　　緯〕40 度 45 分 35 秒

〔東　　経〕140 度 31 分 40 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：六助溜池の南東丘陵上、標高 30 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器・須恵器片が採取された。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

福田友之 1993「隈無（3）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05076
〔遺 跡 名〕隈無（4）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっこよんいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文（早～晩）、平安、近世
〔所 在 地〕大字羽野木沢字隈無 55-33 ほか
〔北　　緯〕40 度 45 分 25 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 35 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：六助溜池の南側丘陵上、標高 30 mほどに位置する。
○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道
○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、平安時代の土師器・須恵器片が採取された。
平成 7 年調査では、縄文時代の土器･石器･土製品、平安時代の土師器･須恵器、近世から近代の陶磁器・銭貨が出土している。特に縄文早期の貝殻文土器が注目される。
○そ の 他：平成 7 年調査では、平安時代の土坑 5 基と溝状遺構 1 条が確認されている 。
〔発掘履歴〕平成 7 年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
青森県教育委員会 1997『隈無（4）遺跡―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 209 集
福田友之 1993「隈無（4）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05077
〔遺 跡 名〕隈無（5）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっこごいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文
〔所 在 地〕大字羽野木沢字隈無
〔北　　緯〕40 度 45 分 22 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 56 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：持子沢地区の東方丘陵上、標高 35 ～ 40 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課による遺跡詳細分布調査で、縄文土器片が採取されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

福田友之 1993「隈無（5）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05078

〔遺 跡 名〕隈無（6）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっころくいせき

〔種　　別〕集落跡

〔主な時代〕縄文（早～晩）、平安、近世

〔所 在 地〕大字羽野木沢字隠川 55-79

〔北　　緯〕40 度 45 分 18 秒

〔東　　経〕140 度 32 分 01 秒

〔遺跡概要〕（第 113 図参照）

○立地･範囲：持子沢地区の東方丘陵上、標高 35 ～ 40 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課による遺跡詳細分布調査で、縄文土器片が採取される。平成８年調査では縄文時代（早期～晩期）の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器、近世・近代の陶磁器類・銭貨等が出土している。

○そ の 他：平成８年調査では縄文時代の竪穴住居跡２軒、土坑４基、焼土遺構４基が検出された。

〔発掘履歴〕平成８年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

青森県教育委員会 1998『隈無（1）遺跡・隈無（2）遺跡・隈無（6）遺跡－国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－』青森県埋蔵文化財調査報告書第 237 集

福田友之 1993「隈無（6）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕縄文土器片が採取されたことから、平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05079
〔遺 跡 名〕隈無（7）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっこなないせき
〔種　　別〕散布地、須恵器窯跡
〔主な時代〕縄文、平安
〔所 在 地〕大字羽野木沢字隈無 240-24
〔北　　緯〕40 度 45 分 28 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 25 秒
〔遺跡概要〕（第 80 図参照）
○立地･範囲：狼野長根公園の南西丘陵上にあり、標高 50 ～ 80 mに位置する。
○現 況 等：りんご畑・原野・荒地
○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課による遺跡詳細分布調査で、縄文土器片が採取された。
○そ の 他：五所川原市須恵器窯跡（MZ7 号窯）が所在する。MZ7 号窯は平成 10 年に土採りの際に発見され、焚口部と燃焼部の一部が破壊された。平成 12 年に測量調査とレーダー探査が行われた。
〔発掘履歴〕平成 13 年に弘前大学により、MZ7 号窯の断面調査が行われた。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
福田友之 1993「隈無（7）遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05080
〔遺 跡 名〕隈無（8）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕くまなしかっこはちいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（早～晩）、平安、中世、近世
〔所 在 地〕大字羽野木沢字隈無 39-4 ほか
〔北　　緯〕40 度 45 分 29 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 33 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：六助溜池の西岸丘陵上、標高 10 mに位置する。
○現 況 等：りんご畑、津軽自動車道
○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、平安時代の土師器・須恵器片が採取された。平成 11 年調査では、縄文時代（早～晩期）

の土器･石器、平安時代の土師器･須恵器等、中世の陶磁器（青磁･白磁･染付･瓦質土器）・銭貨、近世・近代の陶磁器・漆器・キセル・銭貨・木製品等が出土している。

○そ の 他：平成 11 年調査では、平安時代の竪穴住居跡 16 件・土坑 25 基のほか、中世の掘立柱建物２棟、近世の土壙墓８基･火葬墓 11 基などが検出されている。

〔発掘履歴〕平成 11 年に青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が行われた。

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

青森県教育委員会 2002『隈無（8）遺跡―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 313 集

福田友之 1993「隈無（8）遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05081

〔遺 跡 名〕松島遺跡

〔遺跡名ふりがな〕まつしまいせき

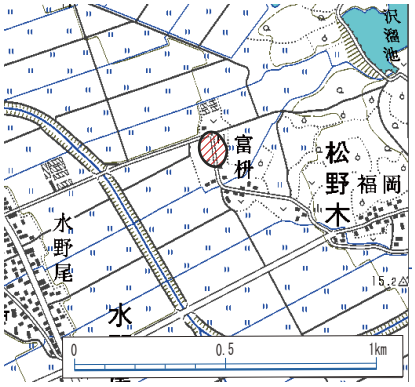
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕縄文、弥生、平安、中世

〔所 在 地〕大字米田字松島 95 ほか

〔北　　緯〕40 度 47 分 50 秒

〔東　　経〕140 度 29 分 21 秒



第 114 図　松島遺跡の位置（05081）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：松野木川の右岸丘陵先端部、標高 15 mに位置する。

○現 況 等：畑地・宅地

○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課の遺跡詳細分布調査によって、縄文土器片、弥生土器片、平安時代の土師器・須恵器片、陶磁器片が採取された。

○そ の 他：表採された弥生土器は二枚橋式（前期）に相当するものである。

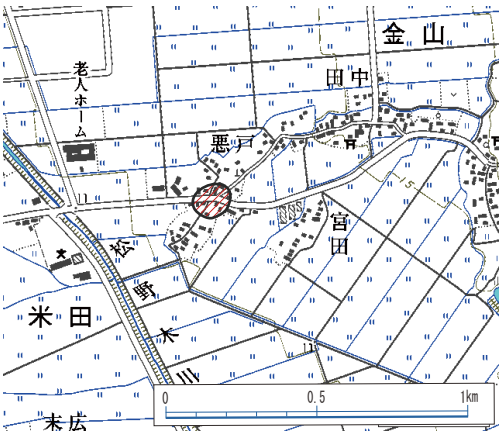
〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集

福田友之 1993「松島遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編

〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

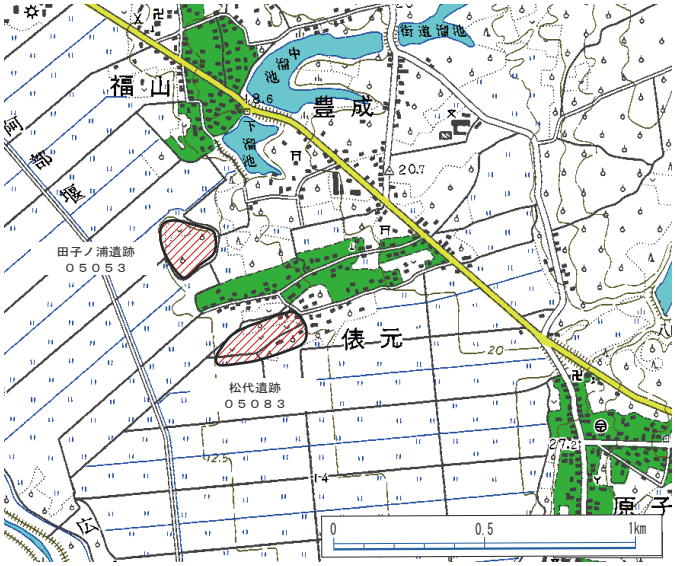
〔遺跡番号〕05082
〔遺 跡 名〕泉田遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いずみだいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安、近世
〔所 在 地〕大字金山字泉田
〔北　　緯〕40 度 48 分 22 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 47 秒
〔遺跡概要〕



第 115 図　泉田遺跡の位置（05082）

○立地･範囲：松野木川右岸の沖積地、標高 14 mに位置する。
○現 況 等：松島コミュニティセンター付近で、宅地化が進んでいる。
○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課による遺跡詳細分布調査で、平安時代の土師器片？、近世陶磁器が採取された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
福田友之 1993「泉田遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。

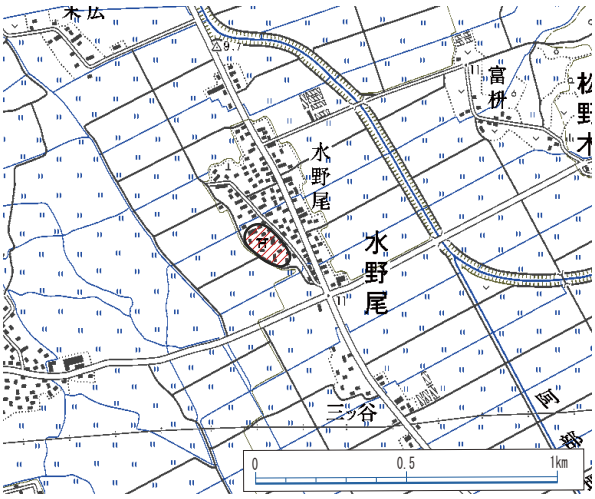
〔遺跡番号〕05083
〔遺 跡 名〕松代遺跡
〔遺跡名ふりがな〕まつしろいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文、平安
〔所 在 地〕大字俵元字松代
〔北　　緯〕40 度 46 分 11 秒
〔東　　経〕140 度 30 分 42 秒
〔遺跡概要〕
○立地･範囲：十川右岸の沖積地、標高 13 mに位置する。



第 116 図　松代遺跡の位置（05083）

○現 況 等：畑
○確認・表採遺物：平成 3 年の青森県教育庁文化課による遺跡詳細分布調査で、縄文土器片、平安時代の土師器・須恵器片が採取された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
福田友之 1993「松代遺跡」『五所川原市史　史料編 1 』五所川原市編
〔備　　考〕平成 4 年 5 月 8 日に遺跡登録された。

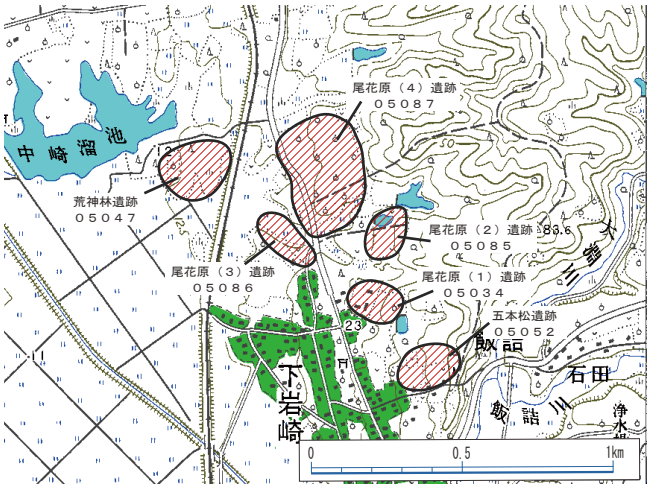
〔遺跡番号〕05084
〔遺　跡　名〕宮井遺跡
〔遺跡名ふりがな〕みやいいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕縄文、平安
〔所　在　地〕大字水野尾字宮井
〔北　　緯〕40 度 47 分 34 秒
〔東　　経〕140 度 28 分 52 秒



第 117 図　宮井遺跡の位置（05084）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：松野木川の左岸沖積地、標高 10 mに位置する。
○現　況　等：稲荷神社境内地と周辺の宅地・畑地にある。
○確認・表採遺物：平成３年の青森県教育庁文化課による遺跡詳細分布調査で、縄文土器片、平安時代の土師器片が採取された。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1992『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 146 集
福田友之 1993「宮井遺跡」『五所川原市史　史料編１』五所川原市編
〔備　　考〕平成４年５月８日に遺跡登録された。

〔遺跡番号〕05085
〔遺　跡　名〕尾花原（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕おばなはらかっこにいせき
〔種　　別〕散布地
〔主な時代〕平安
〔所　在　地〕大字下岩崎字尾花原 131-1 ほか
〔北　　緯〕40 度 50 分 37 秒
〔東　　経〕140 度 29 分 10 秒



第 118 図　尾花原（2）遺跡の位置（05085）

〔遺跡概要〕
○立地･範囲：大淵川の右岸丘陵上、標高 25 mに位置する。
○現　況　等：りんご畑
○確認・表採遺物：平成４年度の青森県教育庁文化課による分布調査で、平安時代の土師器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1993『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 155 集

〔備　　考〕平成 5 年 5 月 11 日に遺跡登録されている。

〔遺跡番号〕05086

〔遺 跡 名〕尾花原（3）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕おばなはらかっこさんいせき

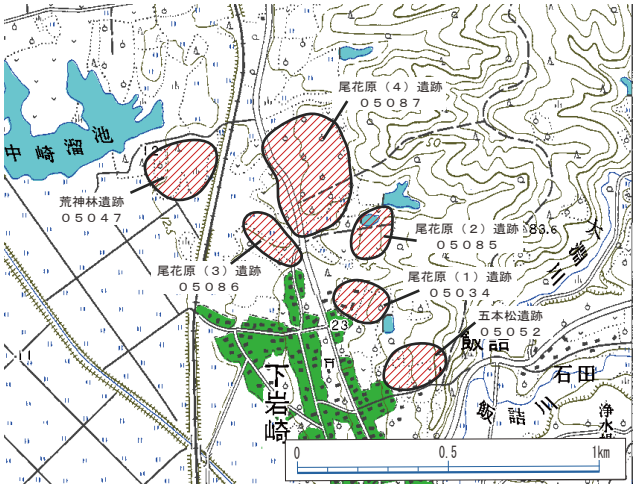
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字下岩崎字尾花原
135-1 ほか

〔北　　緯〕40 度 50 分 37 秒

〔東　　経〕140 度 28 分 55 秒



第 119 図　尾花原（3）遺跡の位置（05086）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：中崎溜池の南東側丘陵上、標高 20 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成 4 年度の青森県教育庁文化課による分布調査で、平安時代の土師器・須恵器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1993『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 155 集

〔備　　考〕平成 5 年 5 月 11 日に遺跡登録されている。

〔遺跡番号〕05087

〔遺 跡 名〕尾花原（4）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕おばなはらかっこよんいせき

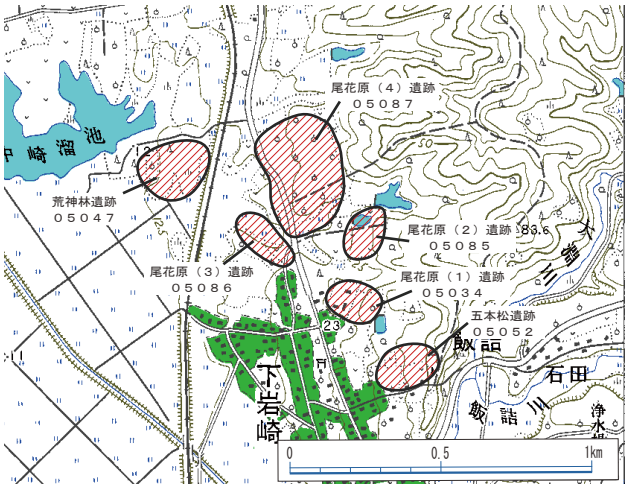
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字下岩崎字尾花原 76-1 ほか

〔北　　緯〕40 度 50 分 45 秒

〔東　　経〕140 度 29 分 00 秒



第 120 図　尾花原（4）遺跡の位置（05087）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：中崎溜池の南側丘陵上、
標高 25 mに位置する。

○現 況 等：りんご畑

○確認・表採遺物：平成４年度の青森県教育庁文化課による分布調査によって、平安時代の土師器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1993『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 155 集

〔備　　考〕平成５年５月 11 日に遺跡登録されている。

〔遺跡番号〕05088

〔遺 跡 名〕広富遺跡

〔遺跡名ふりがな〕ひろとみいせき

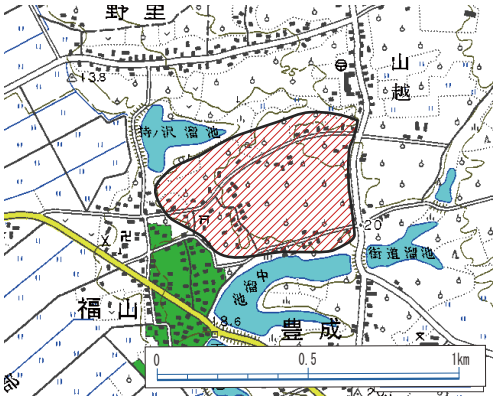
〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字福山字広富 24-3 ほか

〔北　　緯〕北緯 40 度 46 分 50 秒

〔東　　経〕東経 140 度 30 分 50 秒



第 121 図　広富遺跡の位置（05088）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：持ノ沢溜池と中溜池に挟まれた丘陵上、標高 20 ～ 25 mに位置する。

○現 況 等：宅地・畑地・りんご畑

○確認・表採遺物：平成４年度の青森県教育庁文化課による分布調査で、平安時代の土師器片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕青森県教育委員会 1993『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 155 集

〔備　　考〕平成５年５月 11 日に遺跡登録されている。

〔遺跡番号〕05089

〔遺 跡 名〕影日沢遺跡

〔遺跡名ふりがな〕かげひざわいせき

〔種　　別〕散布地

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字飯詰字影日沢

〔北　　緯〕40 度 50 分 15 秒

〔東　　経〕140 度 29 分 14 秒

第 122 図　影日沢遺跡の位置（05089）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：飯詰川の右岸丘陵上、標高 25 mに位置する。
○現 況 等：畑地・宅地。大日如来神社境内地となっている。
○確認・表採遺物：平成 4 年度の青森県教育庁文化課による分布調査で、平安時代の土師器片が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕青森県教育委員会 1993『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 155 集
〔備　　考〕平成 5 年 5 月 11 日に遺跡登録されている。

〔遺跡番号〕05090
〔遺 跡 名〕実吉遺跡
〔遺跡名ふりがな〕みよしいせき
〔種　　別〕集落跡
〔主な時代〕縄文（前～晩）、平安、中世、近世
〔所 在 地〕大字羽野木沢字実吉 636 ほか
〔北　　緯〕40 度 45 分 44 秒
〔東　　経〕140 度 31 分 06 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地・範囲：羽野木沢集落から北西 500 mの地点、標高 14 mほどの沖積地に立地する。
○現 況 等：水田・津軽自動車道
○確認・表採遺物：平成 7 年調査では、時代の土器（前期～晩期）、平安時代の土師器・須恵器・擦文土器・木製品など、中世の白磁碗（12・13 世紀）、江戸から近代の陶磁器類が出土している。
○そ の 他：平成 7 年調査では、縄文時代の土坑・溝状ピット、平安時代の竪穴住居跡・土坑・溝状遺構・井戸跡が検出されている。
〔発掘履歴〕平成 5 年に青森県教育庁文化課が試掘調査を行った。その結果、土師器・須恵器が出土し、竪穴住居跡も確認され、遺跡登録された。
平成 7 年に青森県埋蔵文化財調査センターにより、発掘調査が行われた。
〔文　　献〕青森県教育委員会 1994『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 165 集
青森県教育委員会 1997『実吉遺跡―国道 101 号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 207 集

〔遺跡番号〕05091
〔遺 跡 名〕犬走（3）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕いぬばしりかっこさんいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字犬走 55-63
〔北　　緯〕北緯 40 度 45 分 53 秒
〔東　　経〕東経 140 度 32 分 53 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の右岸丘陵上、標高 110 ｍに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD7 号窯）が所在する。
○現 況 等：原野・荒地。MD7 号窯と周辺の土坑跡を残して、遺跡の大部分は土砂採取、宅地造成等で消滅している。
○確認・表採遺物：平成 9 年調査では、須恵器・土師器・鉄製鍬先が出土している。
〔発掘履歴〕平成 9 年に犬走須恵器窯跡発掘調査団によって、MD 7 号窯の発掘調査が行われている。
〔文　　献〕犬走須恵器窯跡発掘調査団・五所川原市教育委員会 1998『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』
五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 21 集
五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』
五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
〔備　　考〕MD7 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05092
〔遺 跡 名〕隠川（13）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕かくれがわかっこじゅうさんいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字持子沢字隠川 695-2
〔北　　緯〕40 度 45 分 41 秒
〔東　　経〕140 度 32 分 37 秒
〔遺跡概要〕（第 80 図参照）
○立地･範囲：狼野長根公園内。壊れ溜池の北側に位置し、溜池に張り出した標高 70 ｍの丘陵上にある。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MZ5 号窯）が所在する。
○現 況 等：山林・原野で、窯跡は良好に残っている。
○確認・表採遺物：須恵器の壷・甕体部片が表採されている。

〔発掘履歴〕平成 14 年に地形測量が行われる。発掘調査はなし。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MZ5 号窯は平成 10 年の分布調査によって発見された。
MZ5 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05093

〔遺 跡 名〕砂田 F 遺跡

〔遺跡名ふりがな〕すなだえふいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字前田野目字砂田 34

〔北　　緯〕40 度 46 分 01 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 20 秒

〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川左岸にある支流、鳥子沢の北岸丘陵上、標高 90 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD10 号窯）が所在する。

○現 況 等：畑地・りんご畑。畑造成によって盛土されているため、窯体の位置や詳細は不明である。

○確認・表採遺物：須恵器片と窯壁片を採取している。

〔発掘履歴〕平成 11 年に五所川原市教委委員会が MD10 号窯の試掘調査を行っている。調査では灰原とみられる箇所を試掘したが、窯体はすべて削平されていた。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD10 号窯は平成 10 年の分布調査によって発見された。

〔遺跡番号〕05094

〔遺 跡 名〕砂田 G 遺跡

〔遺跡名ふりがな〕すなだじーいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字前田野目字砂田 51-68、57-97

〔北　　緯〕40 度 46 分 11 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 24 秒

〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川左岸の標高 110 ｍの丘陵上、鳥子沢と堰の沢の間に位置する通称「茅仕立」の南岸にあたる。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD11 号窯）が所在する。

○現 況 等：原野・山林に覆われており、窯跡の遺存状況は良好であるが、周囲はりんご畑の跡地となっており、荒地が広がっている。

○確認・表採遺物：須恵器甕片と窯壁片が表採されている。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD11 号窯は平成 12 年の分布調査で発見された。
MD11 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05095

〔遺 跡 名〕前田野目山（1）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕まえだのめやまかっこいちいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字前田野目字前田野目山 1-11

〔北　　緯〕40 度 46 分 21 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 26 秒

〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川の支流である堰の沢北岸丘陵上、標高 115 ｍに位置する。
遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD12 号窯）が所在する。

○現 況 等：山林・原野で、窯跡の遺存状況も良好である。

○確認・表採遺物：平成 13 年の試掘調査では、須恵器の皿・坏・鉢・壷・甕が出土している。

〔発掘履歴〕平成 13 年に五所川原市教育委員会が地形測量及び灰原部分の試掘調査を行った。灰原層の直上に白頭山苫小牧火山灰（B － Tm）がブロック状に確認された。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD12 号窯は平成 12 年の分布調査によって発見された。
MD12 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05096
〔遺 跡 名〕前田野目山（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕まえだのめやまかっこにいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字前田野目山 1-11
〔北　　緯〕40 度 46 分 27 秒
〔東　　経〕140 度 33 分 58 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の支流、増沢の最奥にあたる東岸丘陵上、標高 140 mに位置する。
遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD13 号窯）が所在する。
○現 況 等：山林。窯体部分が盗掘されている。
○確認・表採遺物：沢筋から窯壁片・須恵器片が表採されている。
〔発掘履歴〕平成 14 年に地形測量が行われる。発掘調査はなし。
〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』
五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
〔備　　考〕MD13 号窯は平成 11 年の分布調査によって発見された。
MD13 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05097
〔遺 跡 名〕前田野目山（3）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕まえだのめやまかっこさんいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字前田野目字前田野目山 1-11
〔北　　緯〕40 度 46 分 22 秒
〔東　　経〕140 度 34 分 06 秒
〔遺跡概要〕（第 78 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の支流、増沢の最奥にあたる南岸丘陵上、標高 180 mに位置する。
遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD14 号窯）が所在する。
○現 況 等：山林に覆われている。平成 13 年に須恵器窯跡発掘調査整備検討委員によって現地踏査が行われた。その際に窯跡が盗掘を受けていることが判明した。
○確認・表採遺物：窯壁片・須恵器片が表採されている。
〔発掘履歴〕なし
〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査

報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD14 号窯は平成 11 年の分布調査によって発見された。

〔遺跡番号〕05098

〔遺 跡 名〕前田野目山（4）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕まえだのめやまかっこよんいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字前田野目字前田野目山 1-2

〔北　　緯〕40 度 46 分 34 秒

〔東　　経〕140 度 33 分 49 秒

〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川左岸の支流、増沢の北岸丘陵上、標高 150 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD15 号窯）が所在する。

○現 況 等：一帯は山林に覆われているが、旧林道の造成により窯体は完全に破壊されている。また、灰原遺物の多くが沢に流れ込んでいる状況にある。

○確認・表採遺物：沢筋から須恵器片（坏・壷・甕）を採取している。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD15 号窯は平成 11 年の分布調査によって発見された。

〔遺跡番号〕05099

〔遺 跡 名〕前田野目山（5）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕まえだのめやまかっこごいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字前田野目字前田野目山 1-10

〔北　　緯〕40 度 46 分 40 秒

〔東　　経〕140 度 34 分 12 秒

〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川左岸の支流、増沢の上流、東岸丘陵上、標高 200 mに位置する。

遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD16 号窯）が所在する。

○現 況 等：一帯は山林に覆われている。

○確認・表採遺物：平成 13 年調査では、谷底の灰原から須恵器片（ミニュチュア・坏・鉢・壷・甕）が出土している。

○そ の 他：MD16 号窯は五所川原須恵器群の中で最も標高が高く、窯体のすぐ下方は急峻な斜面となり、灰原は谷底を中心に形成されている。

〔発掘履歴〕平成 13 年に五所川原市教育委員会が測量調査及び灰原である沢筋部分の試掘調査を行っている。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2002『MZ6 号窯跡　隠川（1）遺跡内に所在する須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD16 号窯は平成 11 年の分布調査によって発見された。
MD16 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05100

〔遺 跡 名〕前田野目山（6）遺跡

〔遺跡名ふりがな〕まえだのめやまかっころくいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕前田野目山国有林 142 林班い 2 小班

〔北　　緯〕40 度 46 分 50 秒

〔東　　経〕140 度 34 分 04 秒

〔遺跡概要〕（第 78 図参照）

○立地･範囲：前田野目川左岸の支流、沼の沢の上流部、東岸丘陵上、標高 170 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD18 号窯）が所在する。

○現 況 等：山林に覆われており、遺存状況は良好である。

○確認・表採遺物：須恵器片（壷・甕）を表採している。

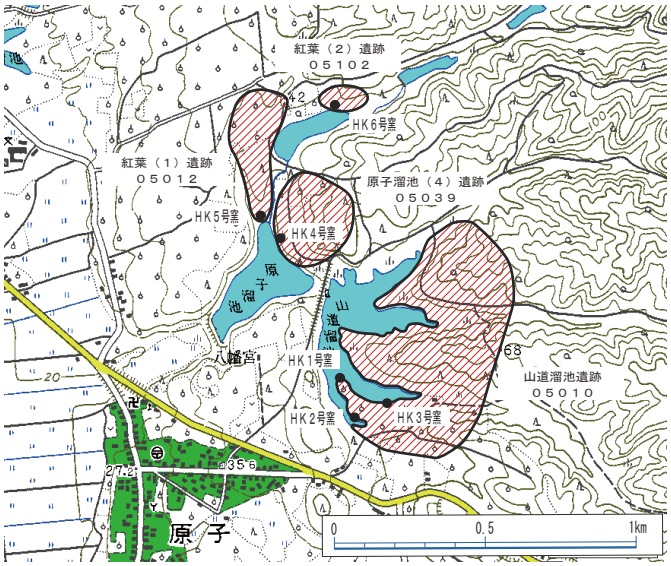
〔発掘履歴〕平成 13 年に測量調査を実施した。発掘調査はなし。

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕MD18 号窯は平成 12 年の分布調査によって発見された。

〔遺跡番号〕05101
〔遺 跡 名〕広野遺跡
〔遺跡名ふりがな〕ひろのいせき
〔種　　別〕散布地、須恵器窯跡
〔主な時代〕縄文、平安
〔所 在 地〕大字高野字広野 93-1、96-1 外
〔北　　緯〕北緯 40 度 44 分 30 秒
〔東　　経〕東経 140 度 32 分 08 秒
〔遺跡概要〕（第 113 図参照）
○立地･範囲：前田野目川の下流域、高野地区にある高野大溜池の南東側丘陵上、標高 36 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（KY1 号窯）が所在する。
○現 況 等：りんご畑。りんご畑造成の際に谷地形が埋められたという。窯跡の一部は水道管工事によって削平されている。窯跡はりんご畑の中にあって、位置確認は非常に困難である。
○確認・表採遺物：窯跡から須恵器片（坏・皿・蓋・鉢・壷・甕）が出土している。周辺から縄文土器、土師器片も表採されている。
○そ の 他：五所川原須恵器窯跡の中で最南端に位置する最初期の窯跡である。
〔発掘履歴〕平成 15・16 年に五所川原市教育委員会によって、窯跡及び灰原の調査が行われている。
〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
五所川原市教育委員会 2005『KY1 号窯跡　五所川原須恵器窯跡における初現期窯跡の発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 26 集
〔備　　考〕KY1 号窯は平成 15 年 4 月に成田正行氏によって発見された。

〔遺跡番号〕05102
〔遺 跡 名〕紅葉（2）遺跡
〔遺跡名ふりがな〕もみじかっこにいせき
〔種　　別〕須恵器窯跡
〔主な時代〕平安
〔所 在 地〕大字原子字紅葉 138-1
〔北　　緯〕北緯 40 度 46 分 38 秒
〔東　　経〕東経 140 度 31 分 54 秒



第 123 図　紅葉（2）遺跡の位置（05102）

〔遺跡概要〕

○立地･範囲：原子上溜池北岸丘陵上、標高 37 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基(HK6 号窯)が所在する。窯跡は小支谷に挟まれた小さな尾根上にある。

○現 況 等：山林・原野に覆われ、窯跡は良好に残されている。

○確認・表採遺物：なし

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集

〔備　　考〕HK6 号窯は平成 14 年の磁気探査によって発見された。
HK6 号窯は平成 16 年 9 月 30 日に国指定史跡となる。

〔遺跡番号〕05103

〔遺 跡 名〕砂田 H 遺跡

〔遺跡名ふりがな〕すなだえいちいせき

〔種　　別〕須恵器窯跡

〔主な時代〕平安

〔所 在 地〕大字前田野目字砂田

〔北　　緯〕40 度 46 分 04 秒

〔東　　経〕140 度 34 分 17 秒

〔遺跡概要〕(第 78 図参照)

○立地･範囲：前田野目川左岸にある支流、鳥子沢の奥まった南岸丘陵上、標高 180 mに位置する。遺跡内には五所川原須恵器窯 1 基（MD19 号窯）が所在する。

○現 況 等：山林に覆われている。土砂の堆積が進行しておらず、窯体の天井が崩落したままで凹んでいる。灰原を残す尾根が一部崩落している。

○確認・表採遺物：須恵器片が採取されている（平成 16 年 12 月 10 日)。

〔発掘履歴〕なし

〔文　　献〕なし

〔備　　考〕MD19 号窯は平成 16 年 4 月に斉藤国良氏によって発見された。

1. 長者森山遺跡（北東から）

2. 観音林遺跡（北東から）

3. 原子城遺跡の堀跡（南西から）

4. 野里遺跡（北から）

5. 川崎遺跡（東から）

6. 桜ヶ峰（1）遺跡／ＳＭ1･2号窯（南から）

7. 山道溜池遺跡／ＨＫ1号窯（北西から）

8. 山道溜池遺跡／ＨＫ2号窯（南から）

写真12　五所川原地区遺跡分布調査写真（1）

1. 山道溜池遺跡／ＨＫ3号窯（南から）

2. 砂田Ｂ遺跡／ＭＤ1号窯（北から）

3. 砂田Ｂ遺跡／ＭＤ2号窯（東から）

4. 紅葉（1）遺跡（南から）

5. 砂田Ｃ遺跡／ＭＤ3号窯（南西から）

6. 砂田Ｃ遺跡／ＭＤ17号窯（北から）

7. 野分遺跡／ＭＤ9号窯（南から）

8. 鞠ノ沢窯跡／ＭＤ6号窯（南から）

写真13　五所川原地区遺跡分布調査写真（2）

1. 持子沢館（南から）

2. 隠川（1）遺跡／ＭＺ6号窯（北西から）

3. 持子沢Ａ遺跡／ＭＺ1号窯（西から）

4. 持子沢Ｃ遺跡／ＭＺ9号窯（北から）

5. 持子沢Ｄ遺跡／ＭＺ4号窯（南西から）

6. 持子沢Ｄ遺跡／ＭＺ12号窯（西から）

7. 持子沢Ｄ遺跡／ＭＺ11号窯（北から）

8. 境山遺跡（西から）

写真14　五所川原地区遺跡分布調査写真（3）

1. 鴻の巣遺跡

2. 沢田遺跡(南から)

3. 長富遺跡(西から)

4. 金山大溜池遺跡(北から)

5. 福泉遺跡／飯詰八幡宮境内(北から)

6. 藤巻遺跡(南から)

7. 十三盛遺跡(南から)

8. 興隆(1)遺跡(南西から)

写真15　五所川原地区遺跡分布調査写真(4)

1. 尾花原(1)遺跡(西から)

2. 味噌ヶ沢遺跡(南から)

3. 飯詰城遺跡(北から)

4. 原子溜池(4)遺跡／ＨＫ4号窯(北から)

5. 原子溜池(5)遺跡(東から)

6. 金山館遺跡(南から)

7. 神山館遺跡(南から)

8. 石田遺跡(南から)

写真16　五所川原地区遺跡分布調査写真(5)

1. 鶉野遺跡(東から)

2. 七ツ館遺跡(北から)

3. 荒神林遺跡(北東から)

4. 興隆(2)・(3)遺跡(北東から)

5. 狐野(2)遺跡(北東から)

6. 五本松遺跡(南から)

7. 田子ノ浦遺跡(南から)

8. 色吉遺跡(南から)

写真17　五所川原地区遺跡分布調査写真(6)

1. 藪里遺跡（北西から）

2. 中子遺跡（南東から）

3. 稲葉遺跡（南から）

4. 平野遺跡（西から）

5. 桜ヶ峰(2)遺跡（南から）

6. 隠川(2)遺跡（北から）

7. 隠川(10)遺跡（南から）

8. 隠川(1･2･6)遺跡（南から）

写真18　五所川原地区遺跡分布調査写真(7)

1. 隈無(3)遺跡(東から)

2. 隈無(4)遺跡(南から)

3. 隈無(7)遺跡(東から)

4. 隈無(8)遺跡(南から)

5. 泉田遺跡(東から)

6. 松代遺跡(南西から)

7. 宮井遺跡(南から)

8. 尾花原(3)遺跡(北東から)

写真19　五所川原地区遺跡分布調査写真(8)

1. 尾花原(4)遺跡(北西から)

2. 広富遺跡(南東から)

3. 影日沢遺跡(南から)

4. 実吉遺跡(南から)

5. 犬走(3)遺跡(西から)

6. 隠川(13)遺跡／ＭＺ5号窯(北から)

7. 砂田Ｆ遺跡／ＭＤ10号窯(南から)

8. 砂田Ｇ遺跡／ＭＤ11号窯(北から)

写真20　五所川原地区遺跡分布調査写真(9)

1. 前田野目山(1)遺跡／ＭＤ12号窯

2. 前田野目山(2)遺跡／ＭＤ13号窯(北から)

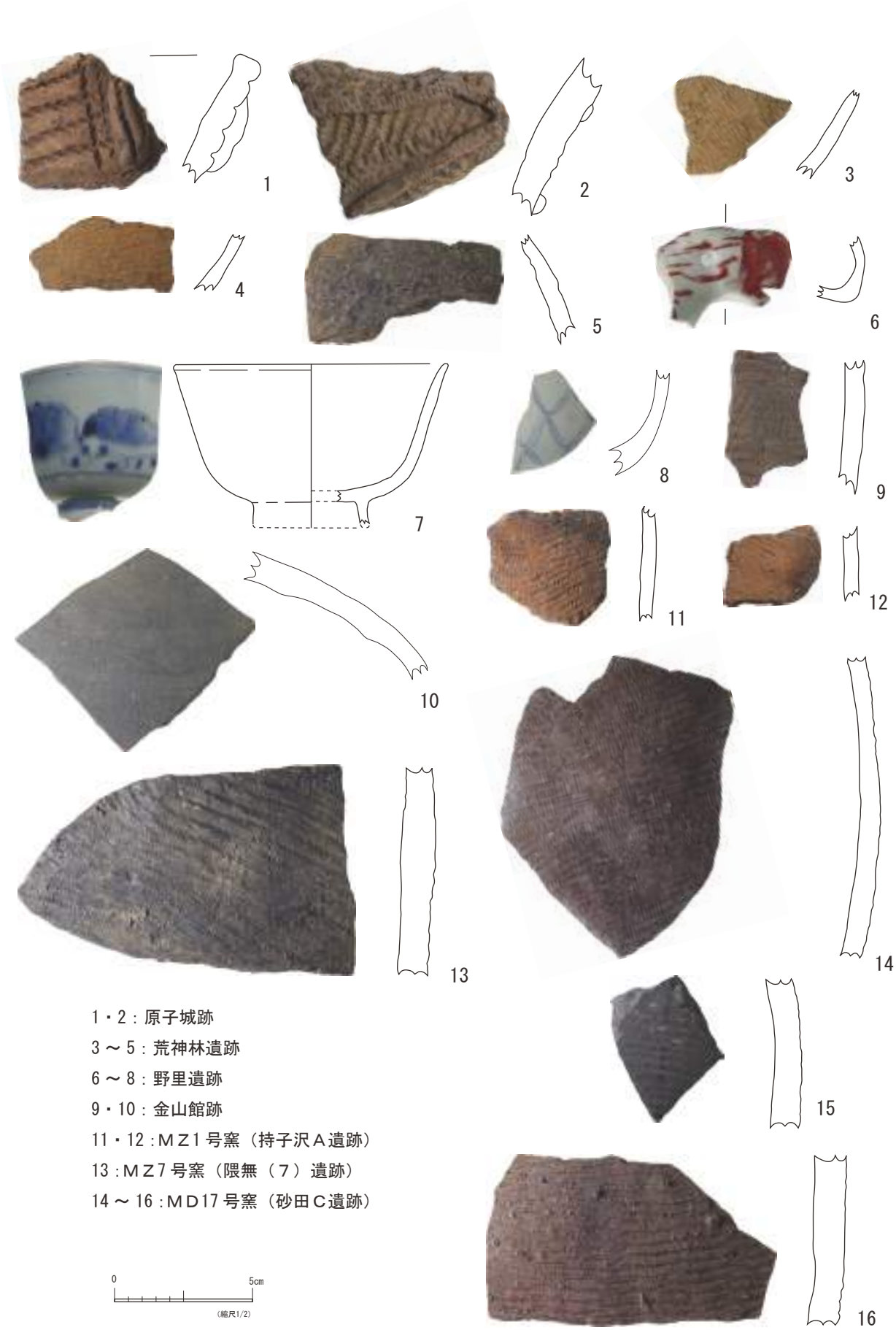
3. 前田野目山(4)遺跡／ＭＤ15号窯

4. 前田野目山(5)遺跡／ＭＤ16号窯(西から)

5. 広野遺跡／ＫＹ1号窯(北から)

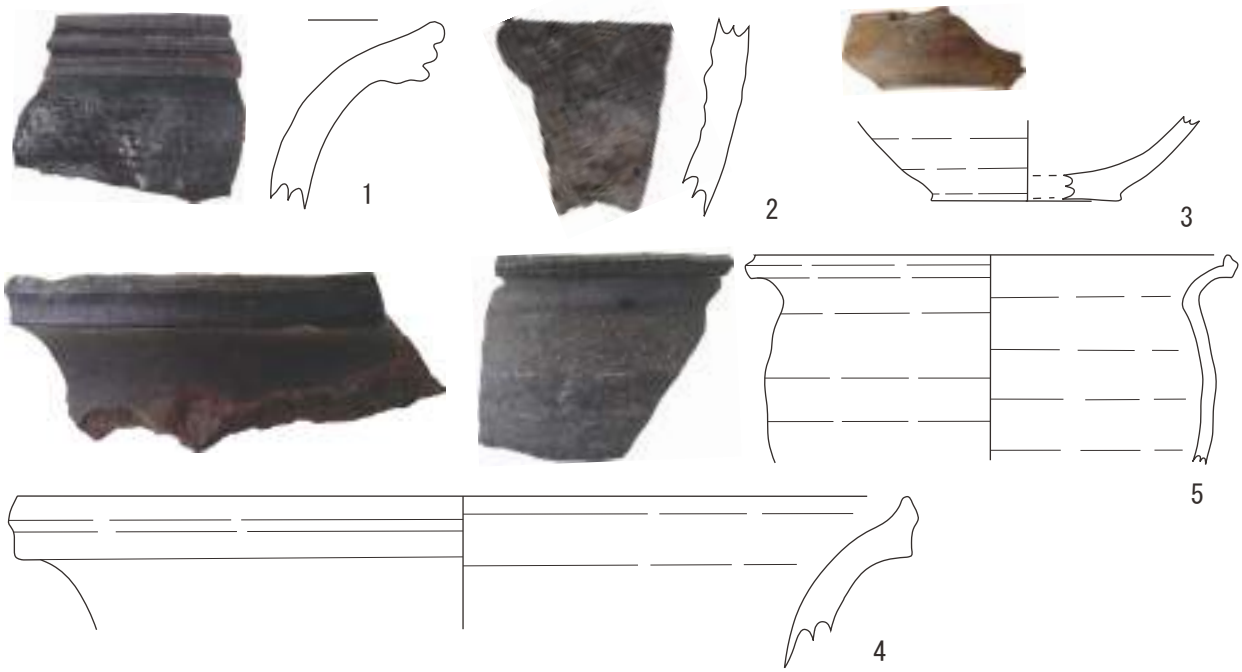
6. 紅葉(2)遺跡／ＨＫ6号窯(南から)

写真21　五所川原地区遺跡分布調査写真(10)



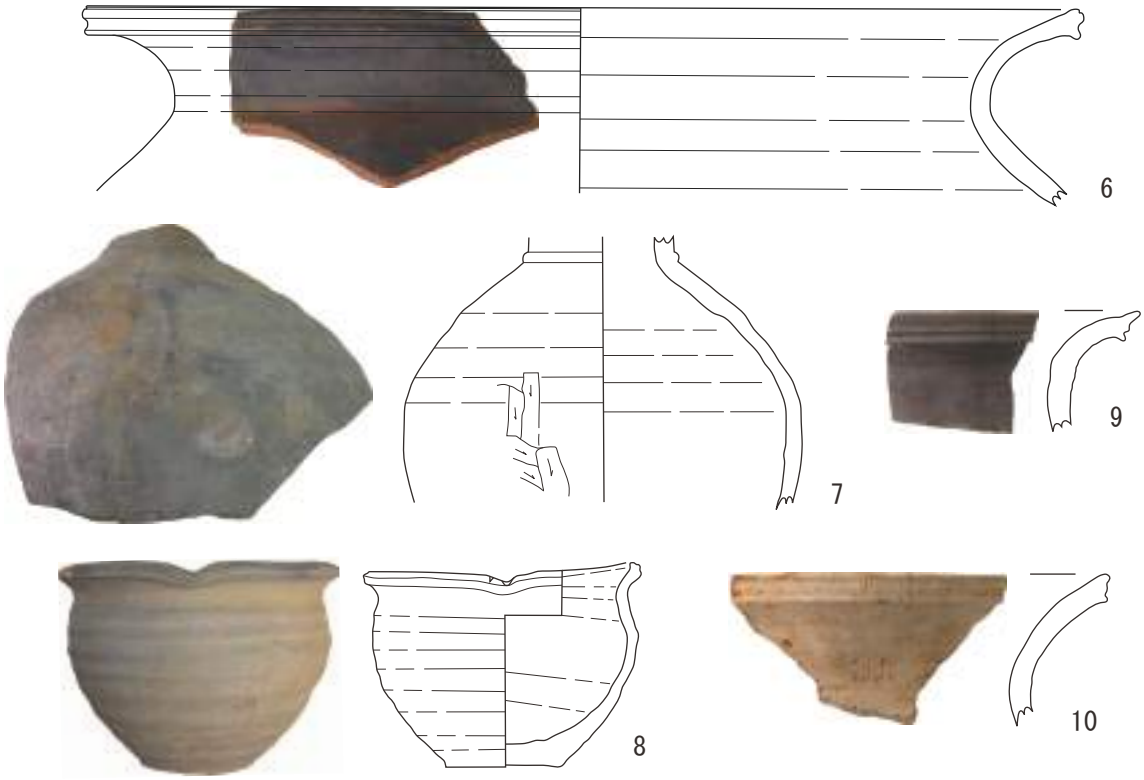
1・2：原子城跡
3～5：荒神林遺跡
6～8：野里遺跡
9・10：金山館跡
11・12：ＭＺ1号窯（持子沢Ａ遺跡）
13：ＭＺ7号窯（隈無（７）遺跡）
14～16：ＭＤ17号窯（砂田Ｃ遺跡）

図版７　五所川原地区の遺跡表採資料１



1：ＭＤ14 号窯（前田野目山（3）遺跡）
2：ＭＤ15 号窯（前田野目山（4）遺跡）
3～5：ＭＤ9 号窯（野脇遺跡）

0　5cm
（縮尺1/2）



6～10：ＭＤ16 号窯（前田野目山（5）遺跡）

0　10cm
（縮尺1/4）

図版８　五所川原地区の遺跡表採資料２

第５章　福島城跡の分布調査成果報告

１．はじめに

平成 17 ～ 19 年度にかけて、国庫及び県費補助による市内遺跡発掘調査事業の中で、市内遺跡詳細分布調査を実施することとなった。まず、平成 17 年度は五所川原市の中で市浦地区が分布調査の対象地域となった。市浦地区は十三湖周辺に位置しており、平成 17 年に史跡指定を受けた十三湊遺跡のほか、安藤氏関連の中世遺跡が多数存在する。そこで､その中でも学術的に価値が高く､大規模城館である福島城跡の城館構造（縄張り）を把握するため、分布調査を実施することとなった。

なお、平成４年（1992）に国立歴史民俗博物館が福島城跡の分布調査を行っているが、遺物表採を主な目的としていたため、城郭構造（縄張り）の把握が不十分であった。

また、平成 17 年度から５ヶ年計画で、青森県教育委員会が十三湊関連遺跡発掘調査事業として福島城跡の発掘調査が開始されており、今後の調査方針を決める上でも、まずは地表面観察による城郭遺構の詳細な把握が必要であった。今回はその分布調査成果を報告する。

２．調査期間

平成 17 年 12 月５日～平成 17 年 12 月９日

３．調査担当者

五所川原市教育委員会生涯学習課十三湊発掘調査室

主査　近藤昌浩

主査　榊原滋高

主事　長利豪美

４．調査対象面積

６２５,０００㎡

５．調査前の知見

福島城跡は十三湖北岸、標高 20 ～ 30 mの丘陵西端部に立地し、内郭と外郭の二重構造からなる城館である。内郭は一辺が約 200 m四方の矩形を呈し、堀と土塁が四方を巡る。一方、外郭は一辺が約１㎞の三角形を呈しており、広大な面積を外郭域としている。特に外郭東辺は台地を南北に切断するように、一部、自然の沢に手を加えながら、大規模な土塁や堀を構築している。外郭東辺の土塁は基底部幅約 15 m、高さ３～４ mの規模を持ち、堀跡は上端幅約 12 mをはかる。遺跡全体の面積は約 625、000 ㎡にも及ぶ。

福島城の考古学的研究は、かつて昭和 30 年（1955）の東京大学東洋文化研究所による調査〔江上波夫ほか 1958〕と平成３～４年（1991 ～ 1992）の国立歴史民俗博物館による調査〔国立歴史民俗博物館 1995〕がある。近年では平成 17 年（2005）から青森県教育委員会による５ヶ年計画の発掘調査が行われている〔青森県教育委員会 2006〕。

平成３年（1991）に実施した福島城の詳細分布調査では、外郭域の畑地（「内郭」の東側に隣接した地点）において、中世陶磁器が散布している地点が確認されている〔国立歴史民俗博物館 1995〕。陶磁器からみた年代は、すべて 14 世紀後半～ 15 世紀前半代の範疇に含まれるもので、十三湊安藤氏の最盛期と一致しており、中世に何らかの形で外郭域を利用していることが明らかとなっている。なお、平成３年の分布調査以降も同地点で新たに中世陶磁器が表採されている。福島城跡は『十三湊新城記』の「新城」に比定されることが多いが、正和年中（1312 ～ 17）に安倍（安藤）貞季が「新城」を築いたとする鎌倉期まで遡るような遺物はこれまで

確認されていない。現時点では近世の編纂物による伝承は信憑性が低く、発掘調査による成果に期待するしかない状況にある。

そして、平成 4 年に国立歴史民俗博物館が福島城の発掘調査を受けて、平安時代後期（10 世紀後半～ 11 世紀代）に築城されたのではないかとされ、大きな議論を呼ぶことになった。

しかし、平成 17 年に青森県教育委員会が、かつて東京大学が調査した外郭東門を再発掘したところ門跡の溝埋土から白磁碗が出土したことから、外郭東門が中世に構築されたことが明らかになり、福島城跡の城郭遺構が中世に構築された可能性が俄然高くなってきた。

福島城跡が複合遺跡であることは確実であり、古代と中世のどちらに主体時期を置くにしても、少なくとも福島城の立地環境を考慮すると、築城主体は日本海や岩木川水系による海運・水運に密接に関わったものと想定することができる。また、中世では福島城跡が「下之切道」という津軽平野の内陸部と北端部を結ぶ幹線道路上にあった点は重要であり、今後は陸上交通との関わりも想定すべきと思われる。

６．調査の成果

今回の分布調査の結果、以下のような成果を得ることができた。なお、遺構の名称等は第 124 図の福島城跡の分布調査成果図とあわせて参照していただきたい。

外郭東辺部（外郭東門と方形区画）

福島城跡の外郭東辺部には城郭を防御する土塁と堀が存在する。土塁と堀は残存地点によって東土塁 1 ～ 4、東堀 1 ～ 2 と呼称する。まず、北東部には基底部幅 15 m、高さ 3 ～ 4 mに及ぶ東土塁 1 と幅 10 mの東堀 1 が良く残り、福島城の威容を示している。南北に伸びる東土塁 1 は一端折れ曲がって南下し、さらに開口部を残す外郭東門を過ぎると東土塁 2 や東土塁 3 が続く。東土塁 2 や東土塁 3 は東土塁 1 に比べて規模が小さい。

また、これよりも南側の東土塁 4 までの間は土塁等の城郭遺構・防御施設は全く存在しない。こうした防御施設の替わりとなったのが「東の沢」とした湿地帯の存在とみられるが、新たに発見されている一辺 70 m四方の方形区画との関係は不明である。

なお、東土塁 4 及び東堀 2 は東土塁 1・東堀 1 と同規模の威容を誇る大規模な防御施設となっており、十三湖側からの侵入を防ぐために構築されたものと推される。

外郭西辺部

福島城跡の外郭西辺部には、やはり城郭を防御する土塁と堀が存在する。土塁と堀は残存場所によって、西土塁 1、西堀 1 ～ 4 と呼称する。西堀 1 は今回新たに発見された遺構である。西堀 1 の幅は 4 mほどであり、西堀 1 に伴う土塁は畑地造成の際に消滅してしまった可能性も考えられる。従来、オセドウ貝塚の東端の沢が堀跡に相当するものと推測されていたが、堀切の遺構もなく明らかに誤りであった。

西堀 1 と西堀 2 の間には「西の沢」とした湿地や池が存在し、外郭西辺部の防御的な機能を伴っている。西堀 2 は昭和 30 年代の東京大学の調査の際も堀跡として認識されていた。

一方、西土塁 1 は高さ 1 mほどで、土塁としての威容を誇るものではなく、東大の調査でも土塁として認識されていなかったほどである。このように外郭西辺部には西堀 1・西堀 2・西土塁 1 と共に「西の沢」の存在によって、防御的機能を果たしていたとみられる。

さらに南辺部に近い場所には西堀 4 とした幅 4 mほどの環状に巡る堀跡が確認されている。構造的にみて古代末期の環濠集落の可能性が極めて高いと考えられる。また、西堀 4 のやや北側には周堤を伴う竪穴遺構が 3 基確認されており、周辺一帯には古代集落が展開しているものとみられる。一方、外郭西辺部の外れに位置するオセドウ貝塚は縄文前期～中期の貝塚として周知されているが、平成元年に行われた発掘調査では平安時代後期（10 世紀後半～ 11 世紀代）の土師器・須恵器・擦文土器等が大量に出土している。オセドウ貝塚の東側、沢筋を挟んだ対岸には西堀 3 とした幅 4 mほどの環状に巡る堀跡が確認されていることから、環濠集落であっ

たとみられる。

なお、オセドウ貝塚からは 15 世紀代の中世陶磁器も出土しており、中世にも何らかの形で利用されていることが判明している。

また、オセドウ貝塚の南側、「西の沢」を挟んだ対岸には蛇石地区がある。蛇石地区は従来、縄文後期の蛇石遺跡として周知されており、現況でも古代の竪穴遺構とみられる落ち込みが多く確認できる。

外郭南辺部・鰊崎地区

福島城跡の外郭南辺部には、十三湖に突き出した「鰊崎」と呼ばれる台地がある。

この鰊崎地区はすでに昭和 30 年の東京大学の調査の際に竪穴遺構と思われる落ち込みを 32 箇所確認しており、そのうち 4 箇所を発掘調査している。その結果、竪穴住居 2 基、不明 1 基、井戸跡 1 基を確認している。現況では鬱蒼とした雑木林に覆われているため、容易に遺構確認ができない状況にあるが、それでも 2 基の周堤を伴う竪穴遺構を確認することができた。その他に明治期に陸軍が構築したと伝えられる土塁跡も残されており、文献及び聞き取り調査で事実確認する必要がある。また、保安林の境界に設置されたとみられる溝状遺構がある。

内郭とその周辺

内郭は一辺が 200 mの矩形を呈する。堀の内側に土塁を巡らせている。図に示したように現況では内郭北辺部分だけがしっかりと残っているが、それ以外の箇所は堀や土塁の痕跡が残る程度である。今回の分布調査で内郭南辺の南側隣接地で土塁と溝跡を伴う虎口状の遺構を確認することができた。ちょうど「中の沢」からの侵入者に対しての防御的な性格を有するものとみられる。地表面に残るこうした遺構が最近のものか、城館期のものかどうか、成否を確認する断ち割り調査を行う必要があろう。

また、先述した外郭域の畑地（「内郭」の東側に隣接した地点）、ちょうど外郭東門から内郭へ通じるルート上の中間地点から、今回の分布調査でも瀬戸の碗型鉢片（古瀬戸後Ⅰ期：14 世紀後葉から 15 世紀前葉）1 点が表採されている。この地点には中世に何らかの施設や居住空間があったものとみて良いだろう。中世遺物が特に多く表採される地点である。そして、陶磁器表採地点の北側には「物見台」と言い伝えられる場所があり、溝状遺構が確認されるが、周辺で畑地造成が進んでおり、城館期のものか定かではない。

福島城跡と下之切道について

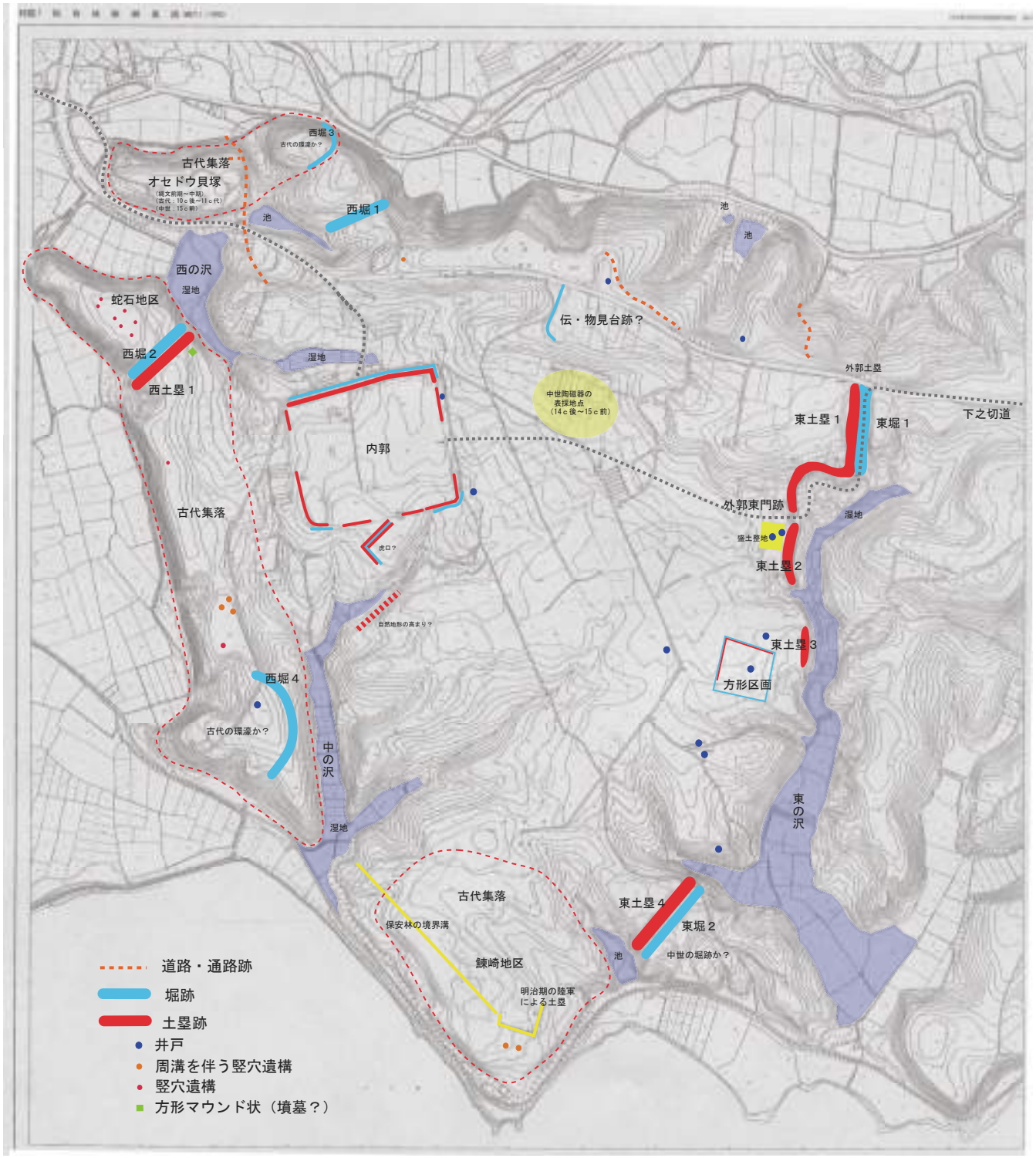
最後に福島城跡と街道の関係について触れてまとめとする。従来、福島城跡は十三湊遺跡と同じように岩木川水系－十三湖ルートという水上交通の要衝として、その特徴が挙げられることが多かった。しかし近年では、「下之切道」沿いに十三湊安藤氏と同時代の城館や遺跡の存在が多く知られるようになり、津軽平野北端部と津軽平野内陸部を結ぶ「下之切道」の重要性が指摘されるようになってきている。北上する「下之切道」は福島城の外郭門跡を通過してさらに内郭を経て、相内の伝禅林寺跡・山王坊跡の門前を通過していったものと推測することができる。さらにこの街道は磯松－脇本を経て、終着点の小泊に至る。こうした点から、十三湊遺跡を中心に十三湖一帯を十三湊都市領域と捉えた場合、福島城は十三湊都市領域の北東部の境界領域に位置し、陸路による侵入を監視する重要な役割を担った城館であると理解することができる。

引用・参考文献

青森県教育委員会 2006『福島城跡Ⅰ－第 5 次調査概要報告書－』青森県埋蔵文化財調査報告書第 420 集

江上波夫ほか 1958『館址』東京大学東洋文化研究所

国立歴史民俗博物館 1995「青森県十三湊遺跡・福島城跡の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 64 集



第 124 図　福島城跡の分布調査成果図

第６章　遺跡（埋蔵文化財）の照会について

五所川原市には現在、177 ヶ所の遺跡が登録されています。文化財保護法（以下、「法」という）では、遺跡のことを埋蔵文化財と呼んでいます。
また、遺跡として認識されている区域を「周知の埋蔵文化財包蔵地」と呼んでいます。この「周知の埋蔵文化財包蔵地」で土木工事等の開発行為を行う場合には、法により県教育委員会教育長にあて、発掘の届出（法第 93 条の 1）を行うことが義務づけられています。

遺跡（埋蔵文化財）は我々の先祖がどのような暮らしぶりであったのか、また、現在に生きる我々の生活を考える上でも貴重な市民共有の財産と言えるものです。遺跡（埋蔵文化財）へのご理解とご協力をお願いいたします。

市内で土木工事を計画されている場合には、その土地が埋蔵文化財（遺跡）の区域に該当するのかどうかの確認が必要です。手続きの流れや方法は右図に示したとおりです。

①遺跡の照会については、五所川原地区と金木地区の場合は市教育委員会生涯学習課文化財保護係（金木支所、℡：0173 － 53 － 2111）、市浦地区の場合は十三湊発掘調査室（市浦支所、℡：0173 － 62 － 2111）で受け付けていますので、お問い合わせください。

②保護措置の要否を回答します。

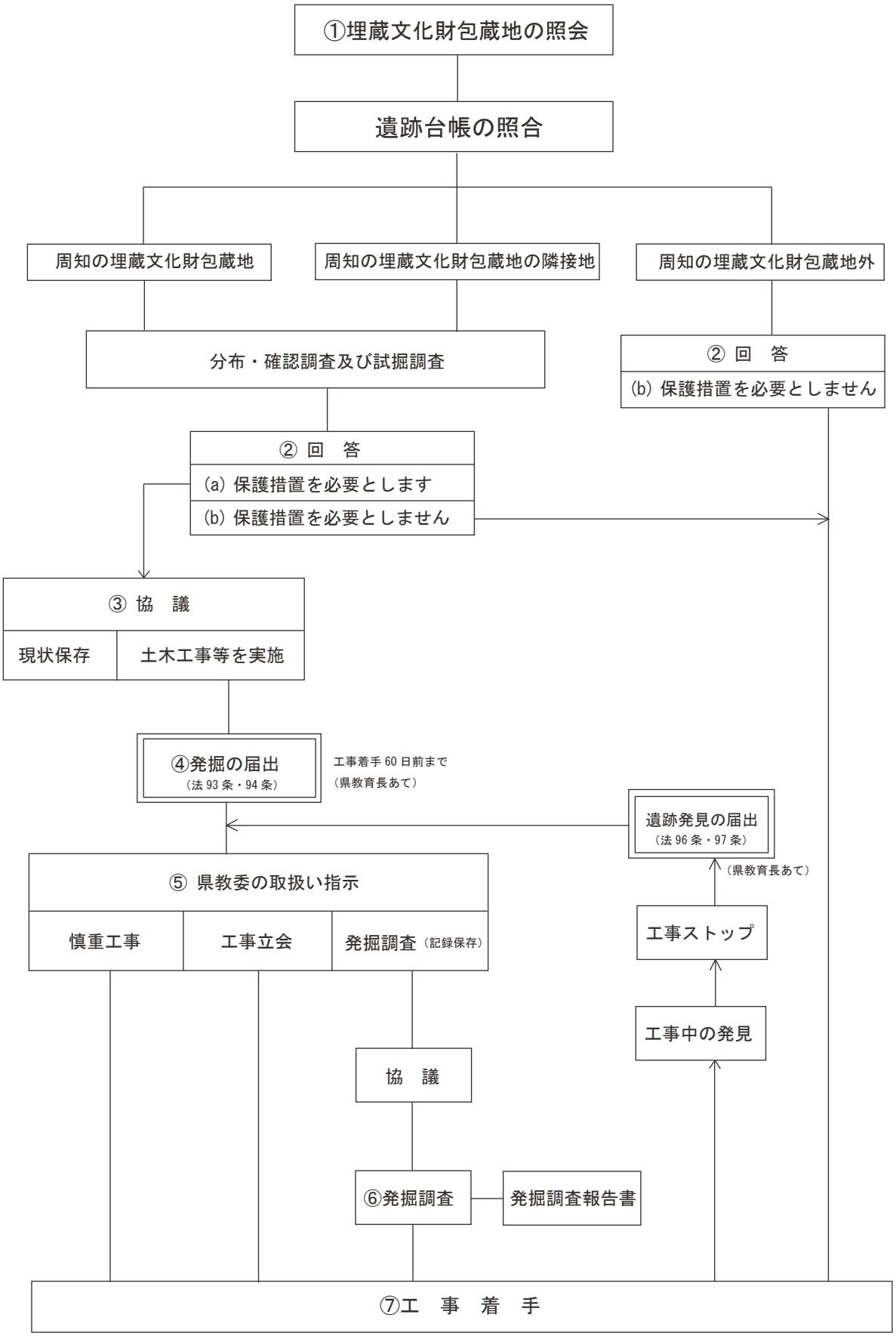
③埋蔵文化財を現状保存するか、土木工事等を実施するかどうかを協議します。

④発掘の届出は、工事着手の 60 日前までに県教育委員会教育長宛に提出する必要があります。こちらでお渡しする届出用紙に必要事項を記入のうえ、市教育委員会生涯学習課文化財保護係（金木支所）、或いは十三湊発掘調査室（市浦支所）にご提出ください。

⑤発掘の届出に対して、県教育委員会教育長から埋蔵文化財の取扱いの指示が文書で通知されます。

⑥発掘調査に至るまでには、発掘の届出から協議・調整が必要となってきます。開発事業の計画がある場合には余裕を持って、早めにお問い合わせください。なお、発掘調査は整理作業を経て、報告書刊行をもって完了します。工事には現地の発掘調査終了後に着手していただけます。

第 125 図　埋蔵文化財に関する手続きの流れ



報　告　書　抄　録

ふりがな	ごしょがわらしいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	五所川原市遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
シリーズ名	五所川原市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 29 集
編著者名	榊原滋高、藤原弘明、長利豪美
編集機関	青森県五所川原市教育委員会生涯学習課　十三湊発掘調査室
所在地	〒０３７-０４０１　青森県五所川原市相内 349 － 1（市浦総合支所）
発行年月日	西暦 2008 年 2 月 29 日

ふりがな	ふりがな	コ　ー　ド		世界測地系	世界測地系	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所　在　地	市町村	遺　跡	北緯	東経			
市内遺跡	五所川原市管内	０２２０５	－	－	－	平成 17 ～ 19 年度	－	市内遺跡発掘調査事業

所収遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項
市内遺跡	－	旧石器～近世	－	－	－

要　　約	平成 17 年度には市浦地区、平成 18 年度には金木地区、平成 19 年度には五所川原地区において、それぞれ遺跡分布調査及び遺跡台帳の整理を行い、報告書にまとめたものである。

五所川原市埋蔵文化財調査報告書　第 29 集
五所川原市遺跡詳細分布調査報告書

発行年月日　2008/2/29
編集・発行　青森県五所川原市教育委員会
生涯学習課　十三湊発掘調査室
〒 037-0401
青森県五所川原市相内 349-1
（市浦総合支所）
TEL：0173-35-2111（代表）
十三湊遺跡発掘調査整理室
TEL：0173-62-3176
印　　刷　有限会社　アート印刷
〒 037-0011
青森県五所川原市金山字亀ヶ岡 46-7